



2015

大学院講義要項

経済学研究科
(通信教育課程) 経済学専攻

京都産業大学大学院
GRADUATE SCHOOL KYOTO SANGYO UNIVERSITY

■ EC001

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | : ミクロ経済学基礎 |
| 担 当 者 | : 八塩 裕之 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 春学期 |
| 授 業 目 標 | : ミクロ経済学についての基礎知識を習得すること。 |
| 授業内容・方法 | : 以下の教科書でミクロ経済学についての基礎を学習する。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 : ミクロ経済学と市場のはたらき 第1章 ミクロ経済学とは 第2章 市場のはたらき 留 意 事 項 : ※レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・2枚 提 出 期 限 : 5月上旬 第2回 課 題 : 消費者行動 第3章 需要の価格弾力性について 第4章 需要曲線のなりたちとはたらき 第5章 消費者余剰 留 意 事 項 : 同上 枚 数 : A4・2枚 提 出 期 限 : 6月上旬 第3回 課 題 : 生産者余剰 第6章 生産者の費用（1） 第7章 生産者の費用（2） 第8章 生産者の費用（3） 第9章 市場供給曲線と供給の価格弾力性 第10章 供給曲線と生産者余剰 留 意 事 項 : 同上 枚 数 : A4・2枚 提 出 期 限 : 7月上旬 第4回 課 題 : 市場均衡と余剰分析 第11章 市場取引と総余剰 第12章 余剰分析の応用例 留 意 事 項 : 同上 枚 数 : A4・2枚 提 出 期 限 : 8月上旬 ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : レポート（25%×4） |
| 教 材 な ど | 朴勝俊・飯田善郎・寺井晃『経済学のはじめの一步（第2版）』（晃洋書房、2011） Word形式のファイルでレポートを作成し、メールにて提出して頂くが、提出するファイル名を「学生証番号 受講生氏名「受講項目名」（第×回課題レポート）」として下さい。 |
| 備 考 | : 特になし |

■ EC002

| | | |
|---------|---|---|
| 科 目 名 | : | ミクロ経済学基礎 |
| 担 当 者 | : | 北村 紘 |
| 配 当 年 次 | : | 1 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | ミクロ経済学の基礎を学び、企業間競争が社会的に望ましいということを理論モデルを使って説明できるようになることを目指す。 |
| 授業内容・方法 | : | 講義資料を各自で勉強してもらい、練習問題を解くことで理解の定着を目指す。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第 1 回 課 題 : 消費者理論 <div> 留意事項 : 需要関数の背後にある考え方の理解を目指す。 枚 数 : A4・2 枚 提出期限 : 11 月上旬 </div> </div> <div> 第 2 回 課 題 : 生産者理論 <div> 留意事項 : 供給関数の導出を理解する。 枚 数 : A4・2 枚 提出期限 : 12 月上旬 </div> </div> <div> 第 3 回 課 題 : 市場均衡と余剰分析 <div> 留意事項 : 市場均衡と競争市場の効率性を学ぶ。 枚 数 : A4・2 枚 提出期限 : 1 月上旬 </div> </div> <div> 第 4 回 課 題 : 独占市場分析 <div> 留意事項 : 不完全競争による社会余剰の低下を理論モデルで確認する。 枚 数 : A4・2 枚 提出期限 : 2 月上旬 </div> </div> ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : | 各回の課題レポートにより評価する。各 25 点。 |
| 教 材 な ど | : | 講義資料を用意する。補助テキストは受講者のレベルに合わせたものを授業開始後に指定する。 |
| 備 考 | : | 受講生の関心、学力を加味し、教材、課題を変更することがある。 |

■ EC003

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | : マクロ経済学基礎 |
| 担 当 者 | : 寺崎 友芳 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 春学期 |
| 授 業 目 標 | : マクロ経済学についての基礎知識を習得すること。 |
| 授業内容・方法 | : 以下の教科書でマクロ経済学についての基礎を学習する。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 : GDP とは <ul style="list-style-type: none"> ・ GDP はどう測るのか ・ GDP に対するさまざまな見方 ・ 国民経済計算とマクロ経済理論 |
| | 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 |
| | 枚 数 : A4・3 枚 |
| | 提出期限 : 5 月上旬 |
| | 第2回 課 題 : 45 度線分析と財政政策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 均衡国民所得 ・ 完全雇用国民所得と GDP ギャップ ・ 政府の役割と財政政策 ・ 財政政策の波及メカニズム |
| | 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 |
| | 枚 数 : A4・3 枚 |
| | 提出期限 : 6 月上旬 |
| | 第3回 課 題 : 国際経済と金融政策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 貿易とマクロ経済 ・ 国際収支統計 ・ 貨幣供給と貨幣需要 ・ 金融政策 |
| | 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 |
| | 枚 数 : A4・3 枚 |
| | 提出期限 : 7 月上旬 |
| | 第4回 課 題 : 財政・金融政策と GDP <ul style="list-style-type: none"> ・ 金融政策・財政政策 ・ 均衡財政乗数の定理とビルトインスタビライザー ・ IS-LM 分析 |
| | 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 |
| | 枚 数 : A4・3 枚 |
| | 提出期限 : 8 月上旬 |
| | ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : レポート (25%×4) |
| 教 材 な ど | : 朴勝俊・飯田善郎・寺井晃『経済学のはじめの一步 (第2版)』(晃洋書房、2011) |
| 備 考 | : Word 形式のファイルでレポートを作成し、メールにて提出して頂くが、提出するファイル名を「学生証番号 受講生氏名「受講項目名」 (第×回課題レポート)」として下さい。 |

■ EC004

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | : マクロ経済学基礎 |
| 担 当 者 | : 寺井 晃 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : マクロ経済学についての基礎知識を習得すること。 |
| 授業内容・方法 | : 以下の教科書でマクロ経済学についての基礎を学習する。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 : GDP とは <ul style="list-style-type: none"> ・ GDP はどう測るのか ・ GDP に対するさまざまな見方 ・ 国民経済計算とマクロ経済理論 |
| | 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 |
| | 枚 数 : A4・3 枚 |
| | 提出期限 : 11 月上旬 |
| | 第2回 課 題 : 45 度線分析と財政政策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 均衡国民所得 ・ 完全雇用国民所得と GDP ギャップ ・ 政府の役割と財政政策 ・ 財政政策の波及メカニズム |
| | 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 |
| | 枚 数 : A4・3 枚 |
| | 提出期限 : 12 月上旬 |
| | 第3回 課 題 : 国際経済と金融政策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 貿易とマクロ経済 ・ 国際収支統計 ・ 貨幣供給と貨幣需要 ・ 金融政策 |
| | 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 |
| | 枚 数 : A4・3 枚 |
| | 提出期限 : 1 月上旬 |
| | 第4回 課 題 : 財政・金融政策と GDP <ul style="list-style-type: none"> ・ 金融政策・財政政策 ・ 均衡財政乗数の定理とビルトインスタビライザー ・ IS-LM 分析 |
| | 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 |
| | 枚 数 : A4・3 枚 |
| | 提出期限 : 2 月上旬 |
| | ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : レポート (25%×4) |
| 教 材 な ど | : 朴勝俊・飯田善郎・寺井晃『経済学のはじめの一步 (第2版)』(晃洋書房、2011) |
| 備 考 | : Word 形式のファイルでレポートを作成し、メールにて提出して頂くが、提出するファイル名を「学生証番号 受講生氏名「受講項目名」 (第×回課題レポート)」として下さい。 |

■ EC005

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | : 計量分析実習 |
| 担 当 者 | : 野田 顕彦 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 春学期 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : 本講義における目標は、実証研究を行う上で必要な最低限の計量分析に関する知識を修得することである。具体的には、修士論文において実証分析を行うことを予定している大学院生が計量分析ソフトウェア gretl を用いて簡単な分析ができるようになることを目指す。 |
| 授業内容・方法 | : 毎回の課題では、現実のデータを用いて実際に gretl で計量分析を行う。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 : 記述統計・データに関する検定（教科書 第1章「gretl 事始め」） 留 意 事 項 : 様々なデータの特性について理解した上で表やグラフに整理する。また、それらのデータの特性について検定を用いた分析を行う。 枚 数 : A4・2～3 枚程度 提 出 期 限 : 5 月上旬（春学期）・11 月上旬（秋学期） 第2回 課 題 : 最小二乗法の基礎1（教科書 第2章「gretl で最小二乗法1」） 留 意 事 項 : 最小二乗法の考え方を理解する。線形モデルにおけるパラメータや決定係数の意味について説明できるようになる。 枚 数 : A4・2～3 枚程度 提 出 期 限 : 6 月上旬（春学期）・12 月上旬（秋学期） 第3回 課 題 : 最小二乗法の基礎2（教科書 第3章「gretl と古典的回帰モデル」） 留 意 事 項 : 古典的回帰モデルについて理解する。最良線形不偏推定量（BLUE）の概念について説明できるようになる。 枚 数 : A4・2～3 枚程度 提 出 期 限 : 7 月上旬（春学期）・1 月上旬（秋学期） 第4回 課 題 : 簡単な計量分析（教科書 第4章「gretl で最小二乗法2」） 留 意 事 項 : 古典的回帰モデルにおける諸仮定が崩れた場合の対処方法について理解する。現実のデータを用いた簡単な分析ができるようになる。 枚 数 : A4・2～3 枚程度 提 出 期 限 : 8 月上旬（春学期）・2 月上旬（秋学期） ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : 4回のレポート（各25点）により評価する。 |
| 教 材 な ど | <ul style="list-style-type: none"> 教科書について 加藤久和『gretl で計量経済分析』、日本評論社、2012年。（なお、課題で使用する全てのデータは、日本評論社のホームページ（http://www.nippyo.co.jp/download/535-55714-7/index.php）から無料でダウンロードできる）。 講義ノートについて 必要に応じて学習支援システム moodle で適宜配布する。 gretl について gretl のホームページ（http://gretl.sourceforge.net/）から無料でダウンロードできる。自宅PCにもインストールできるので、各自でインストールしておくこと。 |
| 備 考 | : 受講生の状況によって、課題の内容を適宜変更する可能性がある。 |

■ EC008

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 環境経済学特論 A |
| 担 当 者 | ： 武田 史郎 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 経済学のアプローチを使って環境問題を分析するための基本的な概念について学びます。環境問題の基礎知識、経済学における環境問題の原因の捉え方、環境規制の手法を特に取り上げます。 |
| 授業内容・方法 | ： 指定されたテキスト、及びその他の参考資料等を読み、課題をおこなってもらいます。 |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 課 題 ： 環境問題の基礎知識 留 意 事 項 ： 温暖化問題と廃棄物問題について基本的な知識をおさえる。 枚 数 ： A4・3 枚程度 提 出 期 限 ： 5 月上旬 第 2 回 課 題 ： 環境問題発生メカニズム 留 意 事 項 ： 外部性、市場の失敗等の概念をおさえる。 枚 数 ： A4・3 枚程度 提 出 期 限 ： 6 月上旬 第 3 回 課 題 ： 環境政策 留 意 事 項 ： 様々な環境規制の手法を取り上げる。 枚 数 ： A4・3 枚程度 提 出 期 限 ： 7 月上旬 第 4 回 課 題 ： 環境政策の比較 留 意 事 項 ： 様々な環境政策のメリット・デメリットを比較する。 枚 数 ： A4・3 枚程度 提 出 期 限 ： 8 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： なし |
| 評価方法・基準 | ： 4 回のレポートにより評価します。 |
| 教 材 な ど | ： 教科書：栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ・第 2 版』、有斐閣、2012 年 |
| 備 考 | ： |

■ EC009

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 環境経済学特論 B |
| 担 当 者 | ： 武田 史郎 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 経済学のアプローチを使って環境問題を分析するための基本的な概念について学びます。環境の価値を測る手法、企業の環境対策、世界レベルの環境問題を特に取り上げます。 |
| 授業内容・方法 | ： 指定されたテキスト、及びその他の参考資料等を読み、課題をおこなってもらいます。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 環境の価値評価 留 意 事 項 ： 環境の価値を測る手法について学ぶ 枚 数 ： A4・3 枚 提 出 期 限 ： 12 月上旬 第2回 課 題 ： 企業の環境対策 留 意 事 項 ： 環境経営、LCA 等 枚 数 ： A4・3 枚 提 出 期 限 ： 1 月上旬 第3回 課 題 ： 地球環境問題 留 意 事 項 ： 貿易と環境の関係、技術と環境の関係について取り上げる 枚 数 ： A4・3 枚 提 出 期 限 ： 2 月上旬 第4回 課 題 ： 地球温暖化問題 留 意 事 項 ： 世界、日本の温暖化対策の状況について取り上げる 枚 数 ： A4・3 枚 提 出 期 限 ： 2 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： なし |
| 評価方法・基準 | ： 4 回のレポートにより評価します。 |
| 教 材 な ど | ： 教科書：栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ・第2版』、有斐閣、2012 年 |
| 備 考 | ： |

■ EC010

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | ： | 労働経済学特論（１） A |
| 担 当 者 | ： | 田中 寧 |
| 配 当 年 次 | ： | １年 |
| 週 時 間 数 | ： | ２ |
| 単 位 数 | ： | ２ |
| 開 講 期 間 | ： | 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： | 労働に関するさまざまなトピックを主にミクロ経済理論の観点から分析していく。まず、労働経済学分析の基礎を復習し、次に労働供給と労働需要の構造を学ぶ。前者では、所得レジャー選択モデル、後者では労働の限界生産性と賃金決定を扱う。次に、こうして導出された需要と供給を前提として労働市場のメカニズムを分析する。最後に、国民所得と雇用の関係、失業とその対策、労働組合の機能などのマクロ分析も行う。 |
| 授業内容・方法 | ： | 指定した教科書を読み、その内容のまとめとコメントを定期的に提出してもらいます。 （全 10 章程度の教科書を毎月 1 章ずつカバーし提出し、春学期で教科書の前半の半分を終わらせる計画です） |
| 授 業 計 画 | ： | <div> <div>第 1 回</div> <div> <div>課 題</div> <div>：</div> <div>教科書のまとめ：その 1</div> </div> <div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div></div> </div> <div> <div>枚 数</div> <div>：</div> <div>A4・5 枚</div> </div> <div> <div>提 出 期 限</div> <div>：</div> <div>５月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第 2 回</div> <div> <div>課 題</div> <div>：</div> <div>教科書のまとめ：その 2</div> </div> <div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div></div> </div> <div> <div>枚 数</div> <div>：</div> <div>A4・10 枚</div> </div> <div> <div>提 出 期 限</div> <div>：</div> <div>６月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第 3 回</div> <div> <div>課 題</div> <div>：</div> <div>教科書のまとめ：その 3</div> </div> <div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div></div> </div> <div> <div>枚 数</div> <div>：</div> <div>A4・10 枚</div> </div> <div> <div>提 出 期 限</div> <div>：</div> <div>７月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第 4 回</div> <div> <div>課 題</div> <div>：</div> <div>以下同様に 9 月上旬頃まで毎月提出</div> </div> <div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div></div> </div> <div> <div>枚 数</div> <div>：</div> <div></div> </div> <div> <div>提 出 期 限</div> <div>：</div> <div></div> </div> </div> <div> <div>ス ク ー リ ン グ</div> <div>：</div> <div>なし</div> </div> |
| 評価方法・基準 | ： | 提出されたレポートをもとに評価します。 |
| 教 材 な ど | ： | 教科書は受講者のレベルに合わせたものを授業開始後指定します。 |
| 備 考 | ： | |

■ EC011

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | : 労働経済学特論（１）B |
| 担 当 者 | : 田中 寧 |
| 配 当 年 次 | : １年 |
| 週 時 間 数 | : ２ |
| 単 位 数 | : ２ |
| 開 講 期 間 | : 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : 労働に関するさまざまなトピックを主にミクロ経済理論の観点から分析していく。まず、労働経済学分析の基礎を復習し、次に労働供給と労働需要の構造を学ぶ。前者では、所得レジャー選択モデル、後者では労働の限界生産性と賃金決定を扱う。次に、こうして導出された需要と供給を前提として労働市場のメカニズムを分析する。最後に、国民所得と雇用の関係、失業とその対策、労働組合の機能などのマクロ分析も行う。 |
| 授業内容・方法 | : 指定した教科書を読み、その内容のまとめとコメントを定期的に提出してもらいます。 (全10章程度の教科書を毎月1章ずつカバーし2ヶ月ごとに提出し、秋学期で教科書の後半の半分を終わらせる計画です) |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課題 : 教科書のまとめ：その1 留意事項 : 枚数 : A4・10枚 提出期限 : 10月上旬 </div> <div> 第2回 課題 : 教科書のまとめ：その2 留意事項 : 枚数 : A4・10枚 提出期限 : 11月上旬 </div> <div> 第3回 課題 : 教科書のまとめ：その3 留意事項 : 枚数 : A4・10枚 提出期限 : 12月上旬 </div> <div> 第4回 課題 : 以下同様で2月上旬頃まで毎月提出 留意事項 : 枚数 : 提出期限 : </div> スクーリング : なし |
| 評価方法・基準 | : 提出されたレポートをもとに評価します。 |
| 教 材 な ど | : 教科書は受講者のレベルに合わせたものを授業開始後指定します。 |
| 備 考 | : |

■ EC012

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | ： | 労働経済学特論（2）A |
| 担 当 者 | ： | 藤野 敦子 |
| 配 当 年 次 | ： | 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： | 2 |
| 単 位 数 | ： | 2 |
| 開 講 期 間 | ： | 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： | 私たちの生活の中での身近な経済問題の現状や実態をとともにそれに関連する経済理論や公共政策の検討、考察を行う。 |
| 授業内容・方法 | ： | 指定された文献の箇所を読み、内容に関する質疑応答を行うとともに、教員の課すレポート課題に取り組む。 |
| 授 業 計 画 | ： | <div> 第1回 課 題： 比較の中の日本 留 意 事 項： テキストとともに、G. S. Becker の経済学的アプローチを知る。 枚 数： A4・3 枚 提 出 期 限： 5 月 </div> <div> 第2回 課 題： 1. 日本はどれくらい不平等か 留 意 事 項： 家計経済学に出てくる基本用語を押さえる 枚 数： A4・3 枚 提 出 期 限： 6 月 </div> <div> 第3回 課 題： 2. 女性の労働参加と経済格差 留 意 事 項： ミクロデータの分析方法を押さえる 枚 数： A4・3 枚 提 出 期 限： 7 月 </div> <div> 第4回 課 題： 3. 子どものいる世帯の経済格差 留 意 事 項： 家族制度の国際比較に対する理解を深める 枚 数： A4・3 枚 提 出 期 限： 9 月 </div> ス ク ー リ ン グ ： なし |
| 評価方法・基準 | ： | 提出するレポートの内容(約 90%)と担当者への質疑など(約 10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | ： | 教科書 白波瀬佐和子「日本の不平等を考える－少子高齢社会の国際比較」東京大学出版 2009 年 参考図書 藤野敦子「不思議フランス魅惑の謎」春風社 2014 年 |
| 備 考 | ： | 進度については若干の変更がある。 |

■ EC013

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 労働経済学特論（2）B |
| 担 当 者 | ： 藤野 敦子 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 少子高齢化に生きる我々の生活の中の経済問題、それに関連する経済理論や公共政策の検討、考察を行う。 |
| 授業内容・方法 | ： 指定された文献の箇所を読み、内容に関する質疑応答を行うとともに、教員の課すレポート課題に取り組む。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 4. 単立てぬ若者 留 意 事 項 ： 近年の若年雇用対策について考察する。 枚 数 ： A4・3 枚 提 出 期 限 ： 10 月 第2回 課 題 ： 5. 母親が働くこと 留 意 事 項 ： 近年の少子化対策の要因を考察する。 （マイクロデータ分析の実習あり） 枚 数 ： A4・3 枚 提 出 期 限 ： 11 月 第3回 課 題 ： 6. 高齢者の居場所 留 意 事 項 ： 高齢社会の実態を国際比較の中で把握する。 枚 数 ： A4・3 枚 提 出 期 限 ： 12 月 第4回 課 題 ： 7. ひとり暮らしと三世帯世帯の高齢者 留 意 事 項 ： 高齢者対策の政策論について議論する。（全体のまとめ） 枚 数 ： A4・3 枚 提 出 期 限 ： 1 月 ス ク ー リ ン グ ： なし |
| 評価方法・基準 | ： 提出するレポートの内容(約 90%)と担当者への質疑など(約 10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | 教科書 白波瀬佐和子「日本の不平等を考えるー少子高齢社会の国際比較」東京大学出版 2009 年 参考図書 藤野敦子「不思議フランス魅惑の謎」春風社 2014 年 |
| 備 考 | ： 進度については若干の変更がある。 |

■ EC014

| | | |
|---------|---|---|
| 科 目 名 | : | 日本経済論特論（１）A |
| 担 当 者 | : | 岡本 光治 |
| 配 当 年 次 | : | 1 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 春学期 |
| 授 業 目 標 | : | 戦後日本経済の検証（経済のマクロ各部門の戦後の大きな流れを確認する）。 |
| 授業内容・方法 | : | (1)戦後日本経済の歩み、(2)日本の経済政策、(3)これまでの日本の財政と金融の特徴、(4)日本の雇用・労働の経過などについて、現在の視点から再確認する。毎回の課題に対して、問題点を掘り下げたレポートを要求、これに対してコメントを送付する。 |
| 授 業 計 画 | : | 第1回 課 題 : 戦後日本経済の成長と景気循環を概観する。 留 意 事 項 : 教材の第1～2章を主に参考にする。 枚 数 : A4・3枚 提 出 期 限 : 5月下旬 第2回 課 題 : 戦後日本経済の経済政策を概観する。 留 意 事 項 : 教材の第2章を主に参考にする。 枚 数 : A4・3枚 提 出 期 限 : 6月中旬 第3回 課 題 : 戦後日本の財政と金融の特徴を概観する。 留 意 事 項 : 教材の3～5章を主に参考にする。 枚 数 : A4・3枚 提 出 期 限 : 7月中旬 第4回 課 題 : 戦後日本経済の雇用・労働の動向を概観する。 留 意 事 項 : 教材の第7章を主に参考にする。 枚 数 : A4・3枚 提 出 期 限 : 8月中旬 ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : | 毎回のレポート内容を評価する。 |
| 教 材 な ど | : | 金森久雄・香西泰・加藤裕己 編『日本経済読本(第19版)』東洋経済。最近の経済政策は激しく動いているので、適切な新しい文献・データがあれば随時追加していく。 |
| 備 考 | : | より適切な教材があれば、受講生と相談の上、変更することもある。 |

■ EC015

| | | |
|---------|---|---|
| 科 目 名 | : | 日本経済論特論（1）B |
| 担 当 者 | : | 岡本 光治 |
| 配 当 年 次 | : | 1 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | 戦後日本経済の検証（経済のマクロ各部門の戦後の大きな流れを確認する）。 |
| 授業内容・方法 | : | (1)戦後日本経済の産業構造の変化、(2)日本経済における国際環境、(3)少子高齢化と社会保障制度、(4)日本の雇用・労働の経過などについて、現在の視点から再確認する。 毎回の課題に対して、さらに問題点を掘り下げたレポートを要求、これに対するコメントを送付して、理解を深める。 |
| 授 業 計 画 | : | 第1回 課 題 : 産業構造の変化と技術革新 留 意 事 項 : 教材の第6章を主に参考にする。 枚 数 : A4・3枚 提 出 期 限 : 11月中旬 第2回 課 題 : 貿易、直接投資、国際収支等の動き 留 意 事 項 : 教材の第10章を主に参考にする。 枚 数 : A4・3枚 提 出 期 限 : 12月中旬 第3回 課 題 : 少子高齢化と社会保障制度の改革 留 意 事 項 : 教材の第9章を主に参考にする。 枚 数 : A4・3枚 提 出 期 限 : 1月中旬 第4回 課 題 : 戦後日本経済の雇用・労働の動向を再検討する。 留 意 事 項 : 教材の第7～8章を参考にする。 枚 数 : A4・3枚 提 出 期 限 : 2月中旬 ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : | 毎回のレポート内容を評価する。 |
| 教 材 な ど | : | 金森久雄・香西泰・加藤裕己 編『日本経済読本(第19版)』東洋経済。最近の経済政策は激しく動いているので、新しい適切な文献・データがあれば随時追加する。 |
| 備 考 | : | より適切な教材があれば、受講生と相談の上、変更することもある。 |

■ EC016

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | ： | 日本経済論特論（2）A |
| 担 当 者 | ： | 関田 静香 |
| 配 当 年 次 | ： | 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： | 2 |
| 単 位 数 | ： | 2 |
| 開 講 期 間 | ： | 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： | 人口の変化が今後の日本の経済社会に及ぼす影響を学び、それにどのように対処したらいいかを考える。 |
| 授業内容・方法 | ： | 文献を読み、それに関する課題レポートを書く。提出された課題レポートに対し、担当教員がコメント・アドバイスを行うことで、理解を深める。 |
| 授 業 計 画 | ： | <div> 第1回 課 題：教科書1章・2章・3章（日本の人口変化） 留 意 事 項：内容は別途指示する。 枚 数：A4・2枚以上 提 出 期 限：5月上旬 </div> <div> 第2回 課 題：教科書4章・5章（人口変化と日本経済） 留 意 事 項：内容は別途指示する。 枚 数：A4・2枚以上 提 出 期 限：6月上旬 </div> <div> 第3回 課 題：教科書6章（人口変化と日本経済） 留 意 事 項：内容は別途指示する。 枚 数：A4・2枚以上 提 出 期 限：7月上旬 </div> <div> 第4回 課 題：教科書7章・8章（人口変化と日本経済） 留 意 事 項：内容は別途指示する。 枚 数：A4・2枚以上 提 出 期 限：8月上旬 </div> <div> ス ク ー リ ン グ：なし </div> |
| 評価方法・基準 | ： | 課題レポート：各回 25% |
| 教 材 な ど | ： | 教科書：小峰隆夫 『人口負荷社会』 日本経済新聞出版社 2010 年 |
| 備 考 | ： | |

■ EC017

| | | |
|---------|---|---|
| 科 目 名 | : | 日本経済論特論（２）B |
| 担 当 者 | : | 関田 静香 |
| 配 当 年 次 | : | １年 |
| 週 時 間 数 | : | ２ |
| 単 位 数 | : | ２ |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | 人口の変化が今後の日本の経済社会に及ぼす影響を学び、それにどのように対処したらいいかを考える。 |
| 授業内容・方法 | : | 文献を読み、それに関する課題レポートを書く。提出された課題レポートに対し、担当教員がコメント・アドバイスを行うことで、理解を深める。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第１回 課題 教科書 9 章（人口変化と産業・企業） 留意事項 内容は別途指示する。 枚数 A4・2 枚以上 提出期限 10 月下旬 </div> <div> 第２回 課題 教科書 10 章（人口変化と社会保障） 留意事項 内容は別途指示する。 枚数 A4・2 枚以上 提出期限 11 月下旬 </div> <div> 第３回 課題 教科書 11 章（人口変化と民主主義の失敗） 留意事項 内容は別途指示する。 枚数 A4・2 枚以上 提出期限 12 月下旬 </div> <div> 第４回 課題 教科書 12 章（人口変化と地域） 留意事項 内容は別途指示する。 枚数 A4・2 枚以上 提出期限 1 月下旬 </div> スクーリング なし |
| 評価方法・基準 | : | 課題レポート：各回 25% |
| 教 材 な ど | : | 教科書：小峰隆夫 『人口負荷社会』 日本経済新聞出版社 2010 年 |
| 備 考 | : | |

■ EC018

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | : 地域経済論特論 A |
| 担 当 者 | : 寺崎 友芳 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 春学期 |
| 授 業 目 標 | : 地域経済学の理論と日本の地域が抱える諸課題を学習する。 |
| 授業内容・方法 | : 指定された教材の該当箇所を学習し、指定された課題につきレポートを提出する。 |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 課 題 : 第 1 章～第 4 章の内容を踏まえ、各章の練習問題からそれぞれ 1 問ずつ選択して解答せよ。 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・3 枚程度 提 出 期 限 : 5 月上旬 第 2 回 課 題 : 第 5 章～第 8 章の内容を踏まえ、各章の練習問題からそれぞれ 1 問ずつ選択して解答せよ。 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・3 枚程度 提 出 期 限 : 6 月上旬 第 3 回 課 題 : 第 9 章～第 12 章の内容を踏まえ、各章の練習問題からそれぞれ 1 問ずつ選択して解答せよ。 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・3 枚程度 提 出 期 限 : 7 月上旬 第 4 回 課 題 : 第 13 章～第 15 章の内容を踏まえ、各章の練習問題からそれぞれ 1 問ずつ選択して解答せよ。 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・3 枚程度 提 出 期 限 : 8 月上旬 ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : レポート (25%×4) |
| 教 材 な ど | : 教科書: 黒田達朗・田渕隆俊・中村良平『都市と地域の経済学[新版]』(有斐閣、2008 年) |
| 備 考 | : Word 形式のファイルでレポートを作成し、メールにて提出する。提出するファイル名を「学生証番号 受講生氏名「受講項目名」(第×回課題レポート)」とする。 |

■ EC019

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | : 地域経済論特論 B |
| 担 当 者 | : 寺崎 友芳 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : 日本の地域が抱える諸課題について具体例を踏まえて学習する。 |
| 授業内容・方法 | : 指定された教材の該当箇所を学習し、指定された課題につきレポートを提出する。 |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 課 題 : 序章～第 3 章の内容を踏まえ、第 1 章～第 3 章の練習問題からそれぞれ 1 問ずつ選択して解答せよ。 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・3 枚程度 提 出 期 限 : 11 月上旬 第 2 回 課 題 : 第 4 章～第 6 章の内容を踏まえ、各章の練習問題からそれぞれ 1 問ずつ選択して解答せよ。 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・3 枚程度 提 出 期 限 : 12 月上旬 第 3 回 課 題 : 第 7 章～第 9 章の内容を踏まえ、各章の練習問題からそれぞれ 1 問ずつ選択して解答せよ。 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・3 枚程度 提 出 期 限 : 1 月上旬 第 4 回 課 題 : 第 10 章～終章の内容を踏まえ、各章の練習問題からそれぞれ 1 問ずつ選択して解答せよ。 留 意 事 項 : レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 : A4・3 枚程度 提 出 期 限 : 2 月上旬 ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : レポート (25%×4) |
| 教 材 な ど | : 教科書: 中村剛治郎『基本ケースで学ぶ地域経済学』(有斐閣、2008 年) |
| 備 考 | : Word 形式のファイルでレポートを作成し、メールにて提出する。提出するファイル名を「学生証番号 受講生氏名「受講項目名」(第×回課題レポート)」とする。 |

■ EC020

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|----------------------------|-------------------------|----------------|---------|-------------------------|-----|----------|---------|---------|-------|-----|-----------------|---------|---------------------------|-----|----------|---------|---------|-------|-----|----------------|---------|-----------------------|-----|----------|---------|---------|-------|-----|-----------------|---------|----------------------------|-----|----------|---------|---------|-------------|--|--|------|
| 科 目 名 | : 農業政策特論 A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担 当 者 | : 並松 信久 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 配 当 年 次 | : 1 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 週 時 間 数 | : 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単 位 数 | : 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 開 講 期 間 | : 春学期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授 業 目 標 | : 農業問題を理解したうえで、農業政策の経済的な分析ができるようになることをめざす。現在のわが国農業政策は、食料安全保障や国土保全を課題にして施行されているが、これまで農業政策は歴史的に変化してきた。その間、農業政策には様々な歴史的地域的要因が反映されてきた。授業では、この歴史的地域的要因を理解し、分析できるようになることも、到達目標である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内容・方法 | : 教科書を指定して、現在の日本農業の特徴および問題点を考えていく。教科書は当該年度の農林水産省編『食料・農業・農村白書』を使用する。受講生には、あらかじめ指定した部分を読んでもらい、それをまとめた要約と質問および関心のある部分などをメールで送ってもらう。これに対して担当者は、要約を点検し、それと同時に質問に対して、参考となる文献資料をメールで指示して、受講生に調べてもらう。 受講生は食料・農業・農村に関する問題点を理解し、その後、教科書にしたがって農業政策がどのように実施されたのかを分析する。メールのやり取りを通じて、できるだけ身近なところで政策の実施がどのように現れているのかを理解してもらう。ここで理解した点を最後にレポートにして提出してもらう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | : <table><tr><td rowspan="4">第 1 回</td><td>課 題</td><td>: 食料自給率の問題について</td></tr><tr><td>留 意 事 項</td><td>: わが国の農業問題全般にわたる理解をめざす。</td></tr><tr><td>枚 数</td><td>: A4・5 枚</td></tr><tr><td>提 出 期 限</td><td>: 5 月下旬</td></tr><tr><td rowspan="4">第 2 回</td><td>課 題</td><td>: 世界の食糧需給問題について</td></tr><tr><td>留 意 事 項</td><td>: 先進国と途上国問題、貿易問題などを含んでいる。</td></tr><tr><td>枚 数</td><td>: A4・5 枚</td></tr><tr><td>提 出 期 限</td><td>: 6 月下旬</td></tr><tr><td rowspan="4">第 3 回</td><td>課 題</td><td>: 農村の活性化問題について</td></tr><tr><td>留 意 事 項</td><td>: 農地問題、後継者問題などを含んでいる。</td></tr><tr><td>枚 数</td><td>: A4・5 枚</td></tr><tr><td>提 出 期 限</td><td>: 7 月下旬</td></tr><tr><td rowspan="4">第 4 回</td><td>課 題</td><td>: 食品の安全性の問題について</td></tr><tr><td>留 意 事 項</td><td>: 環境問題、アグリビジネスの問題などを含んでいる。</td></tr><tr><td>枚 数</td><td>: A4・5 枚</td></tr><tr><td>提 出 期 限</td><td>: 8 月下旬</td></tr><tr><td colspan="3">ス ク ー リ ン グ</td><td>: なし</td></tr></table> | 第 1 回 | 課 題 | : 食料自給率の問題について | 留 意 事 項 | : わが国の農業問題全般にわたる理解をめざす。 | 枚 数 | : A4・5 枚 | 提 出 期 限 | : 5 月下旬 | 第 2 回 | 課 題 | : 世界の食糧需給問題について | 留 意 事 項 | : 先進国と途上国問題、貿易問題などを含んでいる。 | 枚 数 | : A4・5 枚 | 提 出 期 限 | : 6 月下旬 | 第 3 回 | 課 題 | : 農村の活性化問題について | 留 意 事 項 | : 農地問題、後継者問題などを含んでいる。 | 枚 数 | : A4・5 枚 | 提 出 期 限 | : 7 月下旬 | 第 4 回 | 課 題 | : 食品の安全性の問題について | 留 意 事 項 | : 環境問題、アグリビジネスの問題などを含んでいる。 | 枚 数 | : A4・5 枚 | 提 出 期 限 | : 8 月下旬 | ス ク ー リ ン グ | | | : なし |
| 第 1 回 | 課 題 | | : 食料自給率の問題について | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 | | : わが国の農業問題全般にわたる理解をめざす。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 | | : A4・5 枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 | : 5 月下旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 回 | 課 題 | : 世界の食糧需給問題について | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 | : 先進国と途上国問題、貿易問題などを含んでいる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 | : A4・5 枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 | : 6 月下旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 3 回 | 課 題 | : 農村の活性化問題について | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 | : 農地問題、後継者問題などを含んでいる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 | : A4・5 枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 | : 7 月下旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 4 回 | 課 題 | : 食品の安全性の問題について | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 | : 環境問題、アグリビジネスの問題などを含んでいる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 | : A4・5 枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 | : 8 月下旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ス ク ー リ ン グ | | | : なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法・基準 | : 授業ごとにメールで送ってもらう教科書の要約および質問を評価の対象にする。授業の最後のレポートも評価の対象とする。通算で 5 回(課題 4 回、レポート 1 回)となるので、各 20%である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教 材 な ど | : 農林水産省編『食料・農業・農村白書』(平成 27 年度版) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備 考 | : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

■ EC021

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--|-------|-------------------------------|--|--------------------------------|--|--------------|--|------------------|-------|-----------------------------|--|--------------------------------|--|--------------|--|------------------|-------|-------------------------------|--|--------------------------------|--|--------------|--|-----------------|-------|----------------------------------|--|---------------------------------|--|--------------|--|-----------------|--|------------------|
| 科 目 名 | : 農業政策特論B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担 当 者 | : 並松 信久 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 配 当 年 次 | : 1 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 週 時 間 数 | : 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単 位 数 | : 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 開 講 期 間 | : 秋学期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授 業 目 標 | : わが国の農業政策の展開過程について理解を深めるために、欧米の、とくにイギリスの農業政策への関心がもてるようにする。欧米諸国では現在、食品の安全性と環境保全が中心的な問題となっているが、この点についてはイギリスが注目すべき取り組みを行っているからである。イギリス農業政策は、わが国の農業政策と同様、その背景となっている歴史的要因を無視できない。この歴史的要因を明らかにして、わが国農業政策の特徴と比較検討する。この比較検討を通じて、わが国とイギリスの農業政策に関する理解を深め、農業政策の経済的な分析ができることが到達目標である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内容・方法 | : 教科書を指定して、日本の農業政策の特徴を理解してもらう。教科書は、並松信久『近代日本の農業政策論』（昭和堂、2012 年）を使用する。この教科書に基づいて日本の農業政策、食料政策、そして環境政策に関する整理をしてもらう。教科書の各章ごとに、担当者がメールで参考文献を指示し、受講生は参考文献にも目を通して、各政策について整理した結果をメールで送ってもらう。 イギリスの食料政策および環境政策について参考資料となる欧文論文は、担当者が受講生に対して指示し、受講生は、その論文の要約を担当者にメールで送る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | : <table border="1"> <tr> <td>第 1 回</td><td>課 題 : 日本とイギリスにおける農業政策の相違点について</td></tr> <tr> <td></td><td>留 意 事 項 : 農業政策と食料政策との違いを明確にする。</td></tr> <tr> <td></td><td>枚 数 : A4・5 枚</td></tr> <tr> <td></td><td>提 出 期 限 : 11 月中旬</td></tr> <tr> <td>第 2 回</td><td>課 題 : 日本とイギリスにおける農業環境政策について</td></tr> <tr> <td></td><td>留 意 事 項 : 政策の実施主体に関する問題点を理解する。</td></tr> <tr> <td></td><td>枚 数 : A4・5 枚</td></tr> <tr> <td></td><td>提 出 期 限 : 12 月中旬</td></tr> <tr> <td>第 3 回</td><td>課 題 : 食料自給率をめぐる日本とイギリスの対応について</td></tr> <tr> <td></td><td>留 意 事 項 : 食料自給率に対する認識の違いを理解する。</td></tr> <tr> <td></td><td>枚 数 : A4・5 枚</td></tr> <tr> <td></td><td>提 出 期 限 : 1 月中旬</td></tr> <tr> <td>第 4 回</td><td>課 題 : 「むら」や農協をめぐる日本とイギリスの相違点について</td></tr> <tr> <td></td><td>留 意 事 項 : 政策の実施に関わる根本的な違いを理解する。</td></tr> <tr> <td></td><td>枚 数 : A4・5 枚</td></tr> <tr> <td></td><td>提 出 期 限 : 2 月中旬</td></tr> <tr> <td></td><td>ス ク ー リ ン グ : なし</td></tr> </table> | 第 1 回 | 課 題 : 日本とイギリスにおける農業政策の相違点について | | 留 意 事 項 : 農業政策と食料政策との違いを明確にする。 | | 枚 数 : A4・5 枚 | | 提 出 期 限 : 11 月中旬 | 第 2 回 | 課 題 : 日本とイギリスにおける農業環境政策について | | 留 意 事 項 : 政策の実施主体に関する問題点を理解する。 | | 枚 数 : A4・5 枚 | | 提 出 期 限 : 12 月中旬 | 第 3 回 | 課 題 : 食料自給率をめぐる日本とイギリスの対応について | | 留 意 事 項 : 食料自給率に対する認識の違いを理解する。 | | 枚 数 : A4・5 枚 | | 提 出 期 限 : 1 月中旬 | 第 4 回 | 課 題 : 「むら」や農協をめぐる日本とイギリスの相違点について | | 留 意 事 項 : 政策の実施に関わる根本的な違いを理解する。 | | 枚 数 : A4・5 枚 | | 提 出 期 限 : 2 月中旬 | | ス ク ー リ ン グ : なし |
| 第 1 回 | 課 題 : 日本とイギリスにおける農業政策の相違点について | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 : 農業政策と食料政策との違いを明確にする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 : A4・5 枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 : 11 月中旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 回 | 課 題 : 日本とイギリスにおける農業環境政策について | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 : 政策の実施主体に関する問題点を理解する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 : A4・5 枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 : 12 月中旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 3 回 | 課 題 : 食料自給率をめぐる日本とイギリスの対応について | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 : 食料自給率に対する認識の違いを理解する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 : A4・5 枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 : 1 月中旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 4 回 | 課 題 : 「むら」や農協をめぐる日本とイギリスの相違点について | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 : 政策の実施に関わる根本的な違いを理解する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 : A4・5 枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 : 2 月中旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ス ク ー リ ン グ : なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法・基準 | : 課題 4 回を評価の対象とし、欧文論文の要約についても評価に加える。課題が 80%、要約が 20%である。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教 材 な ど | : 並松信久『近代日本の農業政策論』（昭和堂、2012 年） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備 考 | : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

■ EC022

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 企業経済論特論 A |
| 担 当 者 | ： 加茂 知幸 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 現代の企業が直面する問題に対する、ミクロ経済学によるアプローチの仕方を学ぶ。リスクと情報の経済学の基本事項やインセンティブなど基本概念を教科書等の文献を用いて習得すること目標とする。 |
| 授業内容・方法 | ： 各トピックについて、指定された教科書の該当箇所をよく読み、教員が設定した課題に対してレポートを作成する。課題が提出された後、課題に対する解答・講評・解説を配付する。受講者は各自で復習することが望まれる。課題に対する疑問・質問についてはその都度対処する。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第 1 回 課題 ： リスク・シェアリング 留意事項 ： 教科書 第 3 章 枚数 ： A4・2 枚程度 提出期限 ： 4 月末日 </div> <div> 第 2 回 課題 ： シグナリングとスクリーニング 留意事項 ： 教科書 第 4 章 枚数 ： A4・2 枚程度 提出期限 ： 5 月末日 </div> <div> 第 3 回 課題 ： インセンティブ 留意事項 ： 教科書 第 5 章 枚数 ： A4・2 枚程度 提出期限 ： 6 月末日 </div> <div> 第 4 回 課題 ： ポーターの五つの競争要因 留意事項 ： 教科書 第 6 章 枚数 ： A4・2 枚程度 提出期限 ： 7 月末日 </div> スクリーニング ： なし |
| 評価方法・基準 | ： 計 4 回のレポートの提出状況およびその内容で評価する。 |
| 教 材 な ど | ： デビッド・M・クレプス『MBAのためのミクロ経済学入門Ⅱ ゲーム・情報と経営戦略』（東洋経済新報社） |
| 備 考 | ： |

■ EC023

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 企業経済論特論 B |
| 担 当 者 | ： 加茂 知幸 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 現代の企業が直面する問題に対する、ミクロ経済学によるアプローチの仕方を学ぶ。ゲーム理論の基本事項や取引費用に基づく企業組織の考え方を教科書等の文献を用いて習得すること目標とする。 |
| 授業内容・方法 | ： 各トピックについて、指定された教科書の該当箇所をよく読み、教員が設定した課題に対してレポートを作成する。課題が提出された後、課題に対する解答・講評・解説を配付する。受講者は各自で復習することが望まれる。課題に対する疑問・質問についてはその都度対処する。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第 1 回 課題 ： 非協力ゲーム理論 留意事項 ： 教科書 第 7 章 枚数 ： A4・2 枚程度 提出期限 ： 10 月末日 </div> <div> 第 2 回 課題 ： 協調と共謀 留意事項 ： 教科書 第 8 章 枚数 ： A4・2 枚程度 提出期限 ： 11 月末日 </div> <div> 第 3 回 課題 ： 信認と評判 留意事項 ： 教科書 第 9 章 枚数 ： A4・2 枚程度 提出期限 ： 12 月末日 </div> <div> 第 4 回 課題 ： 取引費用の経済学と企業の理論 留意事項 ： 教科書 第 10 章 枚数 ： A4・2 枚程度 提出期限 ： 1 月末日 </div> スクーリング ： なし |
| 評価方法・基準 | ： 計 4 回のレポートの提出状況およびその内容で評価する。 |
| 教 材 な ど | ： デビッド・M・クレプス『MBAのためのミクロ経済学入門Ⅱ ゲーム・情報と経営戦略』（東洋経済新報社） |
| 備 考 | ： |

■ EC026

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 中小企業論特論 A |
| 担 当 者 | ： 大西 辰彦 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 現代に日本における中小・ベンチャー企業を取り巻く諸課題を理解し、考察する。 |
| 授業内容・方法 | ： 指定する文献を講読し、指示するテーマに沿って4回の課題レポートを提出する。レポートに基づき担当教員から指導、コメントを受ける。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課題 ： 経済発展と中小企業 留意事項 ： レポートテーマは別途指示する。 枚数 ： A4・2枚 提出期限 ： 5月上旬 </div> <div> 第2回 課題 ： 経済構造の変化と中小企業 留意事項 ： レポートテーマは別途指示する。 枚数 ： A4・2枚 提出期限 ： 6月上旬 </div> <div> 第3回 課題 ： 中小企業政策の展開 留意事項 ： レポートテーマは別途指示する。 枚数 ： A4・2枚 提出期限 ： 7月上旬 </div> <div> 第4回 課題 ： 中小企業と金融 留意事項 ： レポートテーマは別途指示する。 枚数 ： A4・2枚 提出期限 ： 8月上旬 </div> スクーリング ： なし |
| 評価方法・基準 | ： 毎回のレポート内容を評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 植田浩史、桑原武志、本多哲夫、義永忠一著 『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣 適切な文献を必要に応じて追加する。 |
| 備 考 | ： 受講生の関心と熟度を考慮し、一部内容を変更することもある。 |

■ EC027

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 中小企業論特論 B |
| 担 当 者 | ： 大西 辰彦 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 現代に日本における中小・ベンチャー企業を取り巻く諸課題を理解し、考察する。 |
| 授業内容・方法 | ： 指定する文献を講読し、指示するテーマに沿って4回の課題レポートを提出する。レポートに基づき担当教員から指導、コメントを受ける。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課題 ： 下請システムと中小企業 留意事項 ： レポートテーマは別途指示する。 枚数 ： A4・2枚 提出期限 ： 11月上旬 </div> <div> 第2回 課題 ： 産業集積と中小企業 留意事項 ： レポートテーマは別途指示する。 枚数 ： A4・2枚 提出期限 ： 12月上旬 </div> <div> 第3回 課題 ： グローバル化と中小企業 留意事項 ： レポートテーマは別途指示する。 枚数 ： A4・2枚 提出期限 ： 1月上旬 </div> <div> 第4回 課題 ： 情報化と中小企業 留意事項 ： レポートテーマは別途指示する。 枚数 ： A4・2枚 提出期限 ： 2月上旬 </div> スクーリング ： なし |
| 評価方法・基準 | ： 毎回のレポート内容を評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 植田浩史、桑原武志、本多哲夫、義永忠一著 『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣 適切な文献を必要に応じて追加する。 |
| 備 考 | ： 受講生の関心と熟度を考慮し、一部内容を変更することもある。 |

■ EC028

| | | | | | |
|---------|-------------|--|---|---|---|
| 科 目 名 | : | 日本経済史特論A | | | |
| 担 当 者 | : | 山内 太 | | | |
| 配 当 年 次 | : | 1 年 | | | |
| 週 時 間 数 | : | 2 | | | |
| 単 位 数 | : | 2 | | | |
| 開 講 期 間 | : | 春学期 | | | |
| 授 業 目 標 | : | 幕末開港から第一次世界大戦期にかけての日本経済に関する理解を深めることを目標とする。 | | | |
| 授業内容・方法 | : | 指定されたテキストの各章を参考に、課題レポートを提出してもらう。この課題レポートの作成とその際の質疑応答等を通じて、理解を深めてもらう。 | | | |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 | 課 題 | : | テキスト第 9 章を踏まえ「幕末開港の意味」について述べよ。 | |
| | | 留 意 事 項 | : | 幕末開港の過程とその影響等を論じて下さい。またそれに関する疑問・意見等も書き加えておいてください。 | |
| | | 枚 数 | : | A4・3 枚 | |
| | | 提 出 期 限 | : | 5 月下旬 | |
| | 第 2 回 | 課 題 | : | テキスト第 11～13 章を踏まえ「近代的経済制度の確立」について述べよ。 | |
| | | 留 意 事 項 | : | 明治政府が行った諸改革、諸政策ついて論じて下さい。またそれに関する疑問・意見等も書き加えておいてください。 | |
| | | 枚 数 | : | A4・3 枚 | |
| | | 提 出 期 限 | : | 6 月下旬 | |
| | 第 3 回 | 課 題 | : | テキスト第 14～15 章を踏まえ「産業発展」について述べよ。 | |
| | | 留 意 事 項 | : | 日本の近代経済成長開始期の発展の在り方、その特質に留意して論じてください。またそれに関する疑問・意見等も書き加えておいてください。 | |
| | | 枚 数 | : | A4・3 枚 | |
| | | 提 出 期 限 | : | 7 月下旬 | |
| | 第 4 回 | 課 題 | : | テキスト第 16～18 章を踏まえて、「日清・日露戦後経営」について述べよ。 | |
| | | 留 意 事 項 | : | 戦後経営の内容と限界、その時期の経済発展等について論じて下さい。またそれに関する疑問・意見等も書き加えておいてください。 | |
| | | 枚 数 | : | A4・3 枚 | |
| | | 提 出 期 限 | : | 8 月下旬 | |
| | ス ク ー リ ン グ | | | | : |
| 評価方法・基準 | : | 提出された 4 回の課題レポートを総合的に評価する。 | | | |
| 教 材 な ど | : | 杉山伸也『日本経済史』岩波書店、2012 年 | | | |
| 備 考 | : | | | | |

■ EC029

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | : 日本経済史特論B |
| 担 当 者 | : 山内 太 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : 第一次世界大戦期から太平洋戦争、戦後占領期にかけての日本経済に関する理解を深めることを目標とする。 |
| 授業内容・方法 | : 指定されたテキストの各章を参考に、課題レポートを提出してもらう。この課題レポートの作成とその際の質疑応答等を通じて、理解を深めてもらう。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 : テキスト第 19 章を参考にして、「第一次世界大戦と日本経済」について述べよ 留 意 事 項 : 債権国化や重化学工業化に留意しながら論じてください。またそれに関する疑問・意見等も書き加えておいてください。 枚 数 : A4・3 枚 提出期限 : 10 月下旬 第2回 課 題 : テキスト第 21～22 章を参考にして、「井上財政と高橋財政」を対比しつつ、両者の経済政策の違いについて述べよ。 留 意 事 項 : 金解禁問題や世界大恐慌等、当時の経済状況を踏まえて、両者の違いを論じてください。またそれに関する疑問・意見等も書き加えておいてください。 枚 数 : A4・3 枚 提出期限 : 11 月下旬 第3回 課 題 : テキスト第 23～24 章を参考にして、「戦間期の日本経済」について述べよ。 留 意 事 項 : 1920 年代から 30 年代にかけての日本の経済構造変化に留意して論じてください。またそれに関する疑問・意見等も書き加えておいてください。 枚 数 : A4・3 枚 提出期限 : 12 月下旬 第4回 課 題 : テキスト第 25～26 章を参考にして、「戦時経済と戦後改革」について述べよ。 留 意 事 項 : 戦後の経済成長を支えた日本的経済システムとの関連に留意して論じてください。またそれに関する疑問・意見等も書き加えておいてください。 枚 数 : A4・3 枚 提出期限 : 1 月下旬 ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : 提出された 4 回の課題レポートを総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | : 杉山伸也『日本経済史』岩波書店、2012 年 |
| 備 考 | : |

■ EC030

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政学特論 A |
| 担 当 者 | ： 八塩 裕之 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 日本政府の財政状況に関して様々な議論がなされており、その内容と今後の見通しについて理解する。以下に授業計画の見通しを示した。ただし、受講者の興味・関心に応じて変更することがある。 |
| 授業内容・方法 | ： テキストに関して提示された課題をレポートにまとめて提出する。レポートは 4 回実施する予定である。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第 1 回 課題 ： 財政とはなにか 留意事項 ： 枚数 ： A4・数枚 提出期限 ： 5 月上旬 </div> <div> 第 2 回 課題 ： 財政赤字について 留意事項 ： 枚数 ： A4・数枚 提出期限 ： 6 月上旬 </div> <div> 第 3 回 課題 ： 日本の財政の実態 留意事項 ： 枚数 ： A4・数枚 提出期限 ： 7 月上旬 </div> <div> 第 4 回 課題 ： 今後の改革の方向性 留意事項 ： 枚数 ： A4・数枚 提出期限 ： 8 月上旬 </div> スクーリング ： なし |
| 評価方法・基準 | ： レポート（100%） |
| 教 材 な ど | ： 授業開始時に指示する。最初は、アカデミックな教科書ではなく、財政の現状を扱った一般向けの初歩的な書物から始める。受講者の理解度や興味・関心に応じてより応用的な書物、またはアカデミックな書物や論文も扱う予定である。 |
| 備 考 | ： |

■ EC031

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政学特論B |
| 担 当 者 | ： 八塩 裕之 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 財政学特論Aで日本政府の財政状況に関する一般的な議論を学んだ。財政学特論Bではその内容を発展させ、理解を深めていく。授業計画の見通しは以下のとおりである。ただし、受講者の興味・関心に応じて、変更を行うことがある。 |
| 授業内容・方法 | ： テキストに関して提示された課題をレポートにまとめて提出する。レポートは4回実施する予定である。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課題 ： 日本政府の財政状況（1） 留意事項 ： 枚数 ： A4・数枚 提出期限 ： 11月上旬 </div> <div> 第2回 課題 ： 日本政府の財政状況（2） 留意事項 ： 枚数 ： A4・数枚 提出期限 ： 12月上旬 </div> <div> 第3回 課題 ： 日本の財政改革について（1） 留意事項 ： 枚数 ： A4・数枚 提出期限 ： 1月上旬 </div> <div> 第4回 課題 ： 日本の財政改革について（2） 留意事項 ： 枚数 ： A4・数枚 提出期限 ： 2月上旬 </div> スクーリング ： なし |
| 評価方法・基準 | ： レポート（100%） |
| 教 材 な ど | ： テキストは授業の最初に指示する。財政学特論Aの発展的な内容とする予定である。財政について論じた一般向けの書物（応用的なもの）、もしくはアカデミックな書物や論文とする。 |
| 備 考 | ： |

■ EC032

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 地方財政論特論 A |
| 担 当 者 | ： 菅原 宏太 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 日本の地方財政制度および地方財政に関する理論的考察について習得する。 |
| 授業内容・方法 | ： 指定されたテキストの各章について、受講生がレジュメを作成し、それに基づいて担当者との質疑応答を通じて、理解を深める。 |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 課 題 ： 第 1 章、2 章の内容を踏まえて第 2 章章末の練習問題問 2～5 について回答せよ。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4 枚 提 出 期 限 ： 5 月上旬 第 2 回 課 題 ： 第 1～3 章の内容を踏まえて第 3 章章末の練習問題問 1, 2 について回答せよ。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4 枚 提 出 期 限 ： 6 月上旬 第 3 回 課 題 ： 第 1～3 章の内容を踏まえて第 3 章章末の練習問題問 3～5 について回答せよ。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4 枚 提 出 期 限 ： 7 月上旬 第 4 回 課 題 ： 第 1～4 章の内容を踏まえて第 4 章章末の練習問題問 1～4 について回答せよ。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4 枚 提 出 期 限 ： 8 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： なし |
| 評価方法・基準 | ： 課題レポート：各回 25%ずつ |
| 教 材 な ど | ： テキスト：佐藤主光『地方財政論入門』新世社 2009 年 |
| 備 考 | ： |

■ EC033

| | |
|-------------|--|
| 科 目 名 | ： 地方財政論特論 B |
| 担 当 者 | ： 菅原 宏太 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 日本の地方財政制度および地方財政に関する理論的考察について習得する。 |
| 授 業 内 容・方 法 | ： 指定されたテキストの各章について、受講生がレジュメを作成し、それに基づいて担当者との質疑応答を通じて、理解を深める。 |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 課 題 ： 第 1 章～5 章の内容を踏まえて第 5 章章末の練習問題問 1～5 について回答せよ。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4 枚 提 出 期 限 ： 11 月上旬 第 2 回 課 題 ： 第 1 章～6 章の内容を踏まえて第 6 章章末の練習問題問 3～5 について回答せよ。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4 枚 提 出 期 限 ： 12 月上旬 第 3 回 課 題 ： 第 1 章～7 章の内容を踏まえて第 7 章章末の練習問題問 1～4 について回答せよ。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4 枚 提 出 期 限 ： 1 月上旬 第 4 回 課 題 ： テキスト全般の内容を踏まえて第 7 章章末の練習問題問 5 について回答せよ。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4 枚 提 出 期 限 ： 2 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： なし |
| 評価方法・基準 | ： 課題レポート：各回 25%ずつ |
| 教 材 な ど | ： テキスト：佐藤主光『地方財政論入門』新世社 2009 年 |
| 備 考 | ： |

■ EC034

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | : 公共経済学特論 A |
| 担 当 者 | : 飯田 善郎 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 春学期 |
| 授 業 目 標 | : 市場の失敗と政策介入の意義について、基本的な経済理論に沿って分析する為の基礎的な知識を学ぶ。 |
| 授業内容・方法 | : 教科書を通読しながら市場の失敗と呼ばれる自然独占、公共財、外部性について一般的なミクロ理論を用いたモデル分析を通じて理解し、補助金や価格規制、租税、公共財の公的供給といった政策の意義とその問題点や限界について学び考察する。 |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 課 題 : 完全競争市場の概念と政府の規制や課税がもたらす市場の歪みを理解した上で、政府規制の意義を現実の例を踏まえて考察する。 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 5 月上旬 第 2 回 課 題 : 自然独占の理論について学び、適切な官民の役割分担について考察する。 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 6 月上旬 第 3 回 課 題 : 外部性の理論について学び、現実の外部性の問題に対する政府介入の効果について、妥当性を検証する。 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 7 月上旬 第 4 回 課 題 : 公共財の性質について学び、国と自治体がそれぞれ公共財供給においてどのような役割を担うべきかを考察する。 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 8 月上旬 ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : 各回の提出物を総合して判断します。 |
| 教 材 な ど | : 井堀利宏 基礎コース公共経済学 新世社 |
| 備 考 | : 課題については各回もっと詳細に指示します。質問は随時受け付けます。 |

■ EC035

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | : 公共経済学特論 B |
| 担 当 者 | : 飯田 善郎 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : 公共選択論と厚生経済学について、理論に沿って分析し考察する為の基礎的な知識を学ぶ。 |
| 授業内容・方法 | : 教科書を通読しながら多数決制度の意義や限界を学ぶと同時に、投票を通じた政策決定システムが経済の非効率を引き起こしうる事を理解する。また政党、投票者の合理的意思決定が政策決定に与える影響を学ぶ。厚生経済学においては所得の再分配がどのように正当化されるかの理論的背景を学ぶ。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 : 多数決の性質とアローの不可能性定理について学び、投票行動の理論が日本の選挙においてどれほど妥当性と持つかを考察する。 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 11 月上旬 第2回 課 題 : 政党の政権獲得の戦略について学び、それが有権者に与えるコストや便益について考察する。 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 12 月上旬 第3回 課 題 : 財政政策、特に公債がどのような意義と問題があるかについて学び、近年の赤字国債の状況について改善策を提案する。 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 1 月上旬 第4回 課 題 : 社会厚生概念を学び、その意義を自分なりに考察し評価する。 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 2 月上旬 ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : 各回の提出物を総合して判断します。 |
| 教 材 な ど | : 井堀利宏 基礎コース公共経済学 新世社 |
| 備 考 | : 課題については各回もっと詳細に指示します。質問は随時受け付けます。 |

■ EC036

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | 金融論特論 A |
| 担 当 者 | 福田 充男 |
| 配 当 年 次 | 1 年 |
| 週 時 間 数 | 2 |
| 単 位 数 | 2 |
| 開 講 期 間 | 春学期 |
| 授 業 目 標 | 金融に関する制度・理論を学びながら、現実に行っている金融問題について理解を深める。 |
| 授業内容・方法 | 教科書を精読した後、復習問題を解く。さらに教科書および参考資料を元に応用問題を解く。解答に対して担当者はコメントを返す。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第 1 回 課 題 : 金融の機能 留意事項 : 枚 数 : A4・数枚程度 提出期限 : 5 月上旬 </div> <div> 第 2 回 課 題 : 金融機関の機能 留意事項 : 枚 数 : A4・数枚程度 提出期限 : 6 月上旬 </div> <div> 第 3 回 課 題 : 貨幣の機能 留意事項 : 枚 数 : A4・数枚程度 提出期限 : 7 月上旬 </div> <div> 第 4 回 課 題 : 金融政策 留意事項 : 枚 数 : A4・数枚程度 提出期限 : 8 月上旬 </div> スクーリング : なし |
| 評価方法・基準 | 課題レポートの内容によって総合的に判断する。 |
| 教 材 な ど | 谷内満『金融の現実と理論』第 2 版 センゲージラーニング |
| 備 考 | |

■ EC037

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | 金融論特論B |
| 担 当 者 | 福田 充男 |
| 配 当 年 次 | 1 年 |
| 週 時 間 数 | 2 |
| 単 位 数 | 2 |
| 開 講 期 間 | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | 金融に関する制度・理論を学びながら、現実に行っている金融問題について理解を深める。 |
| 授業内容・方法 | 教科書を精読した後、復習問題を解く。さらに教科書および参考資料を元に応用問題を解く。解答に対して担当者はコメントを返す。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課題：金利と株価 留意事項： 枚数：A4・数枚程度 提出期限：11月上旬 </div> <div> 第2回 課題：金融規制 留意事項： 枚数：A4・数枚程度 提出期限：12月上旬 </div> <div> 第3回 課題：金融危機 留意事項： 枚数：A4・数枚程度 提出期限：1月上旬 </div> <div> 第4回 課題：国際金融 留意事項： 枚数：A4・数枚程度 提出期限：2月上旬 </div> スクーリング：なし |
| 評価方法・基準 | 課題レポートの内容によって総合的に判断する。 |
| 教材など | 谷内満『金融の現実と理論』第2版 センゲージラーニング |
| 備 考 | |

■ EC038

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 企業金融論特論 A |
| 担 当 者 | ： 坂井 功治 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 企業金融に関する理論と実態の両面を学び、企業の金融行動に関する理解を深める。 |
| 授業内容・方法 | ： 指定された教科書の該当箇所を読み、教員が提示した課題についてレポートを作成する。提出された課題について、教員が解答・解説を行うとともに、質疑応答・補足説明により理解を深める。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 企業とファイナンス 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・2 枚 提 出 期 限 ： 5 月上旬 第2回 課 題 ： 債券と株式の価値 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・2 枚 提 出 期 限 ： 6 月上旬 第3回 課 題 ： プロジェクトの価値 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・2 枚 提 出 期 限 ： 7 月上旬 第4回 課 題 ： リスクとリターン 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・2 枚 提 出 期 限 ： 8 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： なし |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポートの内容と提出状況により評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 教科書：リチャード・ブリーリー， スチュワート・マイヤーズ， フランクリン・アレン『コーポレート ファイナンス(第8版) 上』日経 BP 社，2007 年. |
| 備 考 | ： 受講に際しては、詳細に指示する。また、受講生の状況などにより、一部内容を変更することがある。 |

■ EC039

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 企業金融論特論 B |
| 担 当 者 | ： 坂井 功治 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 企業金融に関する理論と実態の両面を学び、企業の金融行動に関する理解を深める。 |
| 授業内容・方法 | ： 指定された教科書の該当箇所を読み、教員が提示した課題についてレポートを作成する。提出された課題について、教員が解答・解説を行うとともに、質疑応答・補足説明により理解を深める。 |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 課 題 : 企業の資金調達 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 11 月上旬 第 2 回 課 題 : 配当政策 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 12 月上旬 第 3 回 課 題 : 資本構成 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 1 月上旬 第 4 回 課 題 : 資金調達と評価 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 2 月上旬 ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポートの内容と提出状況により評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 教科書：リチャード・ブリーリー， スチュワート・マイヤーズ， フランクリン・アレン『コーポレート ファイナンス(第8版) 上』日経 BP 社，2007 年. |
| 備 考 | ： 受講に際しては、詳細に指示する。また、受講生の状況などにより、一部内容を変更することがある。 |

■ EC040

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | ： | 証券投資論特論 A |
| 担 当 者 | ： | 西村 佳子 |
| 配 当 年 次 | ： | 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： | 2 |
| 単 位 数 | ： | 2 |
| 開 講 期 間 | ： | 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： | 金融・ファイナンスに関する基礎的なテキストを用いて、研究を進めるために必要な基礎的な内容を学ぶ。ファイナンスの扱う分野のうちで投資論を中心に進める。 |
| 授業内容・方法 | ： | テキストを追って理解を図るだけでなく、必要に応じて基礎的な数学的な展開やデータの扱い、Excel を使った計算を行う。 |
| 授 業 計 画 | ： | <div> 第1回 課 題： 「会社」とは何か 留 意 事 項： テキストの問題に加えてプリント課題を配付 枚 数： ー 提 出 期 限： 5 月末 </div> <div> 第2回 課 題： お金の時間価値・利子率 留 意 事 項： テキストの問題に加えてプリント課題を配付 枚 数： ー 提 出 期 限： 6 月末 </div> <div> 第3回 課 題： 投資の意志決定・資本予算の基礎 留 意 事 項： テキストの問題に加えてプリント課題を配付 枚 数： ー 提 出 期 限： 7 月末 </div> <div> 第4回 課 題： 1-6 章までのまとめのレポート課題 留 意 事 項： テーマについて多角的に検討してまとめること 枚 数： 2 枚程度 提 出 期 限： 8 月末 ス ク ー リ ン グ： なし </div> |
| 評価方法・基準 | ： | 提出された課題やファイルで評価を行う。 |
| 教 材 な ど | ： | Jonathan Berk 他, 久保田敬一他訳『コーポレートファイナンス』, 丸善出版, 2014 年 3 月, を中心に必要なに応じてプリント教材を配付する。 |
| 備 考 | ： | |

■ EC041

| | | |
|---------|---|---|
| 科 目 名 | : | 証券投資論特論 B |
| 担 当 者 | : | 西村 佳子 |
| 配 当 年 次 | : | 1 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | 金融・ファイナンスに関する基礎的なテキストを用いて、研究を進めるために必要な基礎的な内容を学ぶ。ファイナンスの扱う分野のうち投資論を中心に進める。 |
| 授業内容・方法 | : | テキストを追って理解を図るだけでなく、必要に応じて基礎的な数学的な展開やデータの扱い、Excel を使った計算を行う。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第 1 回 課 題 : 債券と株式の評価 留 意 事 項 : テキストの問題に加えてプリント課題を配付 枚 数 : ー 提 出 期 限 : 11 月中旬 </div> <div> 第 2 回 課 題 : 資本市場とリスクのプライシング 留 意 事 項 : テキストの問題に加えてプリント課題を配付 枚 数 : ー 提 出 期 限 : 12 月中旬 </div> <div> 第 3 回 課 題 : 最適ポートフォリオの選択と資本資産評価モデル 留 意 事 項 : テキストの問題に加えてプリント課題を配付 枚 数 : ー 提 出 期 限 : 1 月中旬 </div> <div> 第 4 回 課 題 : 投資家行動と資本市場の効率性に関する論述課題 留 意 事 項 : 10-13 章の内容に即した論述課題 枚 数 : 2 枚程度 提 出 期 限 : 2 月中旬 ス ク ー リ ン グ : なし </div> |
| 評価方法・基準 | : | 提出された課題やファイルで評価を行う。 |
| 教 材 な ど | : | Jonathan Berk 他, 久保田敬一他訳『コーポレートファイナンス』, 丸善出版, 2014 年 3 月, を中心に必要なに応じてプリント教材を使用 |
| 備 考 | : | |

■ EC044

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | : 社会保障論特論 A |
| 担 当 者 | : 福井 唯嗣 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 春学期 |
| 授 業 目 標 | : 毎回の課題を通じて、社会保障制度全般に対する理解、社会保障制度に関する経済学的視点からの考え方の習得を目指す。 |
| 授業内容・方法 | : 日本語あるいは英語で書かれた大学院レベルの教材を素材に、学生の関心の度合いと理解力に応じたレポートを適宜課し、情報通信を活用した双方向的なやりとりにより、効率的な履修を図る。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 : 社会保障全般 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 5 月上旬 第2回 課 題 : 公的年金（1） 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 6 月上旬 第3回 課 題 : 公的年金（2） 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 7 月上旬 第4回 課 題 : 医療保険と医療経済学 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 8 月上旬 ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : レポート(100%) |
| 教 材 な ど | 小塩隆士『社会保障の経済学 第4版』（日本評論社、2013年） 宮島 洋・西村周三・京極高宣 編『社会保障と経済（全3巻）』（東京大学出版会、2009年～2010年） 橋本 英樹・泉田信行 編『医療経済学講義』（東京大学出版会、2011年） Auerbach, A. J., M. Feldstein ed., Handbook of Public Economics, vol.4 (Elsevier, 2002) Auerbach, A. J., R. Chetty, M. Feldstein and E. Saez ed., Handbook of Public Economics, vol.5 (Elsevier, 2013) |
| 備 考 | : |

■ EC045

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | : 社会保障論特論 B |
| 担 当 者 | : 福井 唯嗣 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : 毎回の課題を通じて、社会保障制度全般に対する理解、社会保障制度に関する経済学的視点からの考え方の習得を目指す。 |
| 授業内容・方法 | : 日本語あるいは英語で書かれた大学院レベルの教材を素材に、学生の関心の度合いと理解力に応じたレポートを適宜課し、情報通信を活用した双方向的なやりとりにより、効率的な履修を図る。 |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 課 題 : 介護保険 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 11 月上旬 第 2 回 課 題 : 雇用保険と生活保護 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 12 月上旬 第 3 回 課 題 : 社会福祉と所得分配 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 1 月上旬 第 4 回 課 題 : 子育て支援 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 2 月上旬 ス ク ー リ ン グ : なし |
| 評価方法・基準 | : レポート(100%) |
| 教 材 な ど | 小塩隆士『社会保障の経済学 第 4 版』(日本評論社、2013 年) 宮島 洋・西村周三・京極高宣 編『社会保障と経済(全 3 巻)』(東京大学出版会、2009 年～2010 年) 樋口美雄 編『バブル/デフレ期の日本経済と経済政策 6 労働市場と所得分配』(慶應義塾大学出版会、2010 年) 阿部彩・国枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』(東京大学出版会、2008 年) Auerbach, A. J., M. Feldstein ed., Handbook of Public Economics, vol.4 (Elsevier, 2002) Auerbach, A. J., R. Chetty, M. Feldstein and E. Saez ed., Handbook of Public Economics, vol.5 (Elsevier, 2013) |
| 備 考 | : |

■ EC046

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | 国際経済論特論 A |
| 担 当 者 | 大川 良文 |
| 配 当 年 次 | 1 年 |
| 週 時 間 数 | 2 |
| 単 位 数 | 2 |
| 開 講 期 間 | 春学期 |
| 授 業 目 標 | 国際貿易論に関する基礎理論に関する理解を深める。 |
| 授業内容・方法 | テキストの各章末にある練習問題に関するレポートを作成してもらう。レポート提出後、教員は問題の解答・解説を行い、メールのやり取りを通じた質疑応答により、受講生の理解度を深める。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第 1 回 課 題 : 第 3 章 労働生産性と比較優位：リカード・モデル 留意事項 : 章末の練習問題に答えること 枚 数 : A4 3～5 枚 提出期限 : 5 月上旬 </div> <div> 第 2 回 課 題 : 第 4 章 資源、比較優位と所得分配 留意事項 : 章末の練習問題に答えること 枚 数 : A4 3～5 枚 提出期限 : 6 月上旬 </div> <div> 第 3 回 課 題 : 第 5 章 貿易の標準モデル 留意事項 : 章末の練習問題に答えること 枚 数 : A4 3～5 枚 提出期限 : 7 月上旬 </div> <div> 第 4 回 課 題 : 第 6 章 規模の経済性、不完全競争、および国際貿易 留意事項 : 章末の練習問題に答えること 枚 数 : A4 3～5 枚 提出期限 : 8 月上旬 </div> スクーリング : なし |
| 評価方法・基準 | 提出されたレポートの内容を総合的に考慮して評価する |
| 教 材 な ど | 教科書：クルーグマン・オブスフェルド 『クルーグマンの国際経済学－理論と政策－上巻貿易編』 原著第 8 版 丸善出版 2014 |
| 備 考 | |

■ EC047

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | 国際経済論特論 B |
| 担 当 者 | 大川 良文 |
| 配 当 年 次 | 1 年 |
| 週 時 間 数 | 2 |
| 単 位 数 | 2 |
| 開 講 期 間 | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | 国際貿易論に関する基礎理論に関する理解を深める。 |
| 授業内容・方法 | テキストの各章末にある練習問題に関するレポートを作成してもらう。レポート提出後、教員は問題の解答・解説を行い、メールのやり取りを通じた質疑応答により、受講生の理解度を深める。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第 1 回 課 題 : 第 7 章 生産要素の国際移動 留意事項 : 章末の練習問題に答えること 枚 数 : A4 3～5 枚 提出期限 : 10 月下旬 </div> <div> 第 2 回 課 題 : 第 8 章 貿易政策の手段 留意事項 : 章末の練習問題に答えること 枚 数 : A4 3～5 枚 提出期限 : 11 月下旬 </div> <div> 第 3 回 課 題 : 第 9 章 貿易政策の政治経済 留意事項 : 章末の練習問題に答えること 枚 数 : A4 3～5 枚 提出期限 : 12 月下旬 </div> <div> 第 4 回 課 題 : 第 10 章 発展途上国の貿易政策 第 11 章 貿易政策を巡る議論 留意事項 : 章末の練習問題に答えること 枚 数 : A4 3～5 枚 提出期限 : 1 月下旬 </div> スクーリング : なし |
| 評価方法・基準 | 提出されたレポートの内容を総合的に考慮して評価する |
| 教 材 な ど | 教科書：クルーグマン・オブスフェルド 『クルーグマンの国際経済学－理論と政策－上巻貿易編』 原著第 8 版 丸善出版 2014 |
| 備 考 | |

■ EC050

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | : 経済体制論特論 A |
| 担 当 者 | : 後藤 富士男 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 春学期 |
| 授 業 目 標 | <p>国民経済における経済体制の機能に関する研究</p> <p>この授業では、経済体制とはどのようなものであり、それが国民経済においていかなる機能を果たすかを研究する。そのためには、20 世紀に実施された経済体制の壮大な「実験」を振り返るのが効果的である。この実験では市場経済体制をはじめとして、計画経済体制や市場社会主義経済体制など、さまざまな経済体制が実際に採用された。そして、これらの経済体制を採用するに至った思想ならびに経済的背景についても、いまではかなりの程度、あきらかになっている。この授業では、下記の文献を通じて経済体制の機能を捉えるとともに、最後に現代中国の改革の背後に存在した蓄積メカニズムの変化についても研究する。</p> |
| 授業内容・方法 | : 下記の 3 冊の文献（対象箇所を限定）を読んで逐次書評を提出していただき、質疑応答ならびにコメントする。その上で余裕があれば、他の文献ないし論文を指定する。 |
| 授 業 計 画 | <p>第 1 回 課 題 : 野尻武敏「共産主義の興亡」への書評</p> <p>留 意 事 項 :</p> <p>枚 数 : A4・3～4 枚</p> <p>提 出 期 限 : 6 月上旬</p> <p>第 2 回 課 題 : 丹羽春喜・第 2 章「マルクス主義の滅亡」</p> <p>留 意 事 項 :</p> <p>枚 数 : A4・3～4 枚</p> <p>提 出 期 限 : 7 月上旬</p> <p>第 3 回 課 題 : 丹羽春喜・第 3 章「体制比較の基礎理論」 丹羽春喜・第 4 章「ソ連命令経済の崩壊」</p> <p>留 意 事 項 :</p> <p>枚 数 : A4・3～4 枚</p> <p>提 出 期 限 : 8 月上旬</p> <p>第 4 回 課 題 : 渡辺利夫・第Ⅷ章「現代中国の経済発展」</p> <p>留 意 事 項 :</p> <p>枚 数 : A4・3～4 枚</p> <p>提 出 期 限 : 9 月上旬</p> <p>ス ク ー リ ン グ : なし</p> |
| 評価方法・基準 | : 提出された書評と質疑応答によって評価する。 |
| 教 材 な ど | <p>(1) 野尻武敏「共産主義の興亡」 野尻武敏・丹羽春喜・福田敏浩・嵐田万寿夫(1991)『ひとつのドラマの終わりー共産主義の倒壊ー』晃洋書房の第 1 章。</p> <p>(2) 丹羽春喜(1994)『経済体制と経済政策』税務経理協会の第 3 章</p> <p>(3) 渡辺利夫(1996)『開発経済学ー経済学と現代アジアー』日本評論社の第Ⅷ章 3 冊とも、コピーを送付する。</p> |
| 備 考 | : |

■ EC051

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | : 経済体制論特論B |
| 担 当 者 | : 後藤 富士男 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 秋学期 |
| 授 業 目 標 | <p>経済体制の事例研究</p> <p>この授業では経済体制論特論Aの応用編として、具体的に対象国を特定して、その国の経済体制について研究する。ただし、あくまでこの授業は特論Aとは別個に運営するので、必ずしも特論Aを受講していなくても研究できるように配慮する。対象とする国や文献については受講生と相談して決定するとともに、必要な関連資料は送付する。</p> |
| 授業内容・方法 | : 決定した文献を読んで書評を提出していただき、それについて質疑応答ならびにコメントする。例としては、下記のような水準の文献を想定している。授業計画も一例として、中兼和津次の文献の場合について設定した。 |
| 授 業 計 画 | <p>第1回 課 題 : 第1章「歴史的遺産と初期条件」 第2章「開発戦略と開発政策」</p> <p>留 意 事 項 :</p> <p>枚 数 : A4・3～4 枚</p> <p>提 出 期 限 : 11 月上旬</p> <p>第2回 課 題 : 第3章「経済発展と構造変化」 第4章「成長と分配」 第5章「安定性の追求」</p> <p>留 意 事 項 :</p> <p>枚 数 : A4・3～4 枚</p> <p>提 出 期 限 : 12 月上旬</p> <p>第3回 課 題 : 第6章「市場体制への移行」 第7章「企業制度と企業改革」 第8章「対外開放と経済発展」</p> <p>留 意 事 項 :</p> <p>枚 数 : A4・3～4 枚</p> <p>提 出 期 限 : 1 月上旬</p> <p>第4回 課 題 : 第9章「開発の政治経済学」 第10章「中国経済発展の評価と展望」</p> <p>留 意 事 項 :</p> <p>枚 数 : A4・3～4 枚</p> <p>提 出 期 限 : 2 月上旬</p> <p>ス ク ー リ ン グ : なし</p> |
| 評価方法・基準 | : 提出された書評と質疑応答によって評価する。 |
| 教 材 な ど | <p>中兼和津次(1999)『中国経済発展論』有斐閣</p> <p>梁文秀(2000)『北朝鮮経済論—経済低迷のメカニズム—』信山社</p> |
| 備 考 | : 経済体制論特論Aを履修していない方で、この特論Bを特論Aの授業内容で受講を希望される方は、それを認めますので申し出て下さい。 |

■ EC052

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 開発経済学特論 A |
| 担 当 者 | ： 大坂 仁 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 開発経済学の概要や理論について参考書にもとづき学習していく。なお、東アジア経済の現状や今後の課題についても理解を深めていく。 |
| 授業内容・方法 | ： 授業計画に沿って設定された課題について期日までにレポートを作成・提出する。なお、課題・レポート提出・質疑については電子メールで行う。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 経済発展の理論的枠組みと途上国経済の実態 留 意 事 項 ： 開発経済学の基本的枠組みを理解する 枚 数 ： A4・4～5 枚 提 出 期 限 ： 5 月上旬 第2回 課 題 ： 産業構造変化 留 意 事 項 ： 経済発展の概要を理解する 枚 数 ： A4・4～5 枚 提 出 期 限 ： 6 月上旬 第3回 課 題 ： 経済成長論 留 意 事 項 ： 経済成長に関する基本的理論を理解する 枚 数 ： A4・4～5 枚 提 出 期 限 ： 7 月上旬 第4回 課 題 ： 貧困と所得分配 留 意 事 項 ： 途上国経済の実態と諸問題の中で貧困および所得分配の問題を理解する 枚 数 ： A4・4～5 枚 提 出 期 限 ： 8 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： なし |
| 評価方法・基準 | ： レポート提出とその内容について評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 速水佑次郎『新版開発経済学』（創文社、2000 年）、または他の同レベルの参考書。 |
| 備 考 | ： |

■ EC053

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 開発経済学特論 B |
| 担 当 者 | ： 大坂 仁 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 開発経済学の概要や理論について参考書にもとづき学習していく。特に、途上国の貿易問題、マクロ経済の安定化政策、開発のための金融・財政政策、環境問題について理解を深めていく。 |
| 授業内容・方法 | ： 授業計画に沿って設定された課題について期日までにレポートを作成・提出する。なお、課題・レポート提出・質疑については電子メールで行う。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第 1 回 課題 ： 途上国の貿易の諸問題 留意事項 ： 途上国の貿易問題を理解する 枚数 ： A4・4～5 枚 提出期限 ： 11 月上旬 </div> <div> 第 2 回 課題 ： マクロ経済の安定化政策 留意事項 ： マクロ経済の安定化政策の概要を理解する 枚数 ： A4・4～5 枚 提出期限 ： 12 月上旬 </div> <div> 第 3 回 課題 ： 開発のための金融・財政政策 留意事項 ： 開発金融や途上国の財政政策の特徴を理解する 枚数 ： A4・4～5 枚 提出期限 ： 1 月上旬 </div> <div> 第 4 回 課題 ： 環境と開発 留意事項 ： 環境と開発の問題を理解する 枚数 ： A4・4～5 枚 提出期限 ： 2 月上旬 </div> スクーリング ： なし |
| 評価方法・基準 | ： レポート提出とその内容について評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 授業開始前に指定する。 |
| 備 考 | ： |

■ EC054

| | | |
|---------|---|---|
| 科 目 名 | ： | 中国経済論特論 A |
| 担 当 者 | ： | 岑 智偉 |
| 配 当 年 次 | ： | 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： | 2 |
| 単 位 数 | ： | 2 |
| 開 講 期 間 | ： | 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： | 中国の所得格差問題を理解すること。 |
| 授業内容・方法 | ： | 中国経済発展に影響を与えるものとして、所得格差問題が挙げられる。以下の教科書を用いて、その現状と解決策などについて学習する。 |
| 授 業 計 画 | ： | <div> 第 1 回 <div> 課 題：中国の経済発展と所得格差 </div> <div> 留意事項：課題の説明とレポートの提出は以下の大学学習支援システム moodle で行う。 https://cclms.kyoto-su.ac.jp/ </div> <div> 枚 数：A4・2 枚 </div> <div> 提出期限：5 月下旬 </div> </div> <div> 第 2 回 <div> 課 題：都市・農村の分離と不平等 </div> <div> 留意事項：同上 </div> <div> 枚 数：A4・2 枚 </div> <div> 提出期限：6 月下旬 </div> </div> <div> 第 3 回 <div> 課 題：学歴の差と所得不平等 </div> <div> 留意事項：同上 </div> <div> 枚 数：A4・2 枚 </div> <div> 提出期限：7 月下旬 </div> </div> <div> 第 4 回 <div> 課 題：社会の階級・階層化と不平等 </div> <div> 留意事項：同上 </div> <div> 枚 数：A4・2 枚 </div> <div> 提出期限：8 月下旬 </div> </div> <div> ス ク ー リ ン グ：なし </div> |
| 評価方法・基準 | ： | 毎回のレポート (25%×4) |
| 教 材 な ど | ： | 薛進軍・荒山祐行・園田正編著『中国の不平等』（日本評論社、2008） |
| 備 考 | ： | |

■ EC055

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | : | 中国経済論特論 B |
| 担 当 者 | : | 岑 智偉 |
| 配 当 年 次 | : | 1 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | 経済学で中国の教育と発展問題を理解すること。 |
| 授業内容・方法 | : | 中国の経済発展に影響を与えるものとして、教育格差問題が挙げられる。以下の教科書を用いて、その現状と対策について勉強する。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第 1 回 課題 : 中国の教育発展の概観 留意事項 : 課題の説明とレポートの提出は以下の大学学習支援システム moodle で行う。 https://cclms.kyoto-su.ac.jp/ 枚 数 : A4・2 枚 提出期限 : 10 月下旬 </div> <div> 第 2 回 課題 : 教育格差 (1) 民工子弟学校と民工の子弟教育 留意事項 : 同上 枚 数 : A4・2 枚 提出期限 : 11 月下旬 </div> <div> 第 3 回 課題 : 教育格差 (2) 重点学校制度 留意事項 : 同上 枚 数 : A4・2 枚 提出期限 : 12 月下旬 </div> <div> 第 4 回 課題 : 教育格差 (3) 教育問題の深層 留意事項 : 同上 枚 数 : A4・2 枚 提出期限 : 1 月下旬 </div> スクーリング : なし |
| 評価方法・基準 | : | 毎回のレポート (25%×4) |
| 教 材 な ど | : | 南亮進・牧野文夫・羅敏鎮著『中国の教育と経済発展』（東洋経済新報社、2008） |
| 備 考 | : | |

■ EC060

| | | | | | | | | | |
|---------|--|-----|--------------------|---------|----------------------------|-----|----------|---------|---------|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習 I（環境経済学） | | | | | | | | |
| 担 当 者 | ： 武田 史郎 | | | | | | | | |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 | | | | | | | | |
| 週 時 間 数 | ： 2 | | | | | | | | |
| 単 位 数 | ： 2 | | | | | | | | |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 | | | | | | | | |
| 授 業 目 標 | ： 応用一般均衡モデルによる環境政策の分析に必要な基礎知識を学びます。 | | | | | | | | |
| 授業内容・方法 | ： 与えられた課題について毎月レポートを提出してもらいます。 | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 <table border="0"> <tr> <td>課 題</td><td>： ミクロ経済学の基礎知識</td></tr> <tr> <td>留 意 事 項</td><td>： 生産者行動・消費者行動のモデルについて理解する。</td></tr> <tr> <td>枚 数</td><td>： A4・5 枚</td></tr> <tr> <td>提 出 期 限</td><td>： 5 月上旬</td></tr> </table> | 課 題 | ： ミクロ経済学の基礎知識 | 留 意 事 項 | ： 生産者行動・消費者行動のモデルについて理解する。 | 枚 数 | ： A4・5 枚 | 提 出 期 限 | ： 5 月上旬 |
| 課 題 | ： ミクロ経済学の基礎知識 | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | ： 生産者行動・消費者行動のモデルについて理解する。 | | | | | | | | |
| 枚 数 | ： A4・5 枚 | | | | | | | | |
| 提 出 期 限 | ： 5 月上旬 | | | | | | | | |
| | 第 2 回 <table border="0"> <tr> <td>課 題</td><td>： 一般均衡モデル</td></tr> <tr> <td>留 意 事 項</td><td>： 基本的な一般均衡モデルについて理解する。</td></tr> <tr> <td>枚 数</td><td>： A4・5 枚</td></tr> <tr> <td>提 出 期 限</td><td>： 6 月上旬</td></tr> </table> | 課 題 | ： 一般均衡モデル | 留 意 事 項 | ： 基本的な一般均衡モデルについて理解する。 | 枚 数 | ： A4・5 枚 | 提 出 期 限 | ： 6 月上旬 |
| 課 題 | ： 一般均衡モデル | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | ： 基本的な一般均衡モデルについて理解する。 | | | | | | | | |
| 枚 数 | ： A4・5 枚 | | | | | | | | |
| 提 出 期 限 | ： 6 月上旬 | | | | | | | | |
| | 第 3 回 <table border="0"> <tr> <td>課 題</td><td>： 応用一般均衡分析におけるデータ</td></tr> <tr> <td>留 意 事 項</td><td>： 応用一般均衡分析で利用するデータについて</td></tr> <tr> <td>枚 数</td><td>： A4・5 枚</td></tr> <tr> <td>提 出 期 限</td><td>： 7 月上旬</td></tr> </table> | 課 題 | ： 応用一般均衡分析におけるデータ | 留 意 事 項 | ： 応用一般均衡分析で利用するデータについて | 枚 数 | ： A4・5 枚 | 提 出 期 限 | ： 7 月上旬 |
| 課 題 | ： 応用一般均衡分析におけるデータ | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | ： 応用一般均衡分析で利用するデータについて | | | | | | | | |
| 枚 数 | ： A4・5 枚 | | | | | | | | |
| 提 出 期 限 | ： 7 月上旬 | | | | | | | | |
| | 第 4 回 <table border="0"> <tr> <td>課 題</td><td>： 応用一般均衡分析のプログラミング</td></tr> <tr> <td>留 意 事 項</td><td>： 簡単な CGE モデルを作成する</td></tr> <tr> <td>枚 数</td><td>： A4・5 枚</td></tr> <tr> <td>提 出 期 限</td><td>： 8 月上旬</td></tr> </table> | 課 題 | ： 応用一般均衡分析のプログラミング | 留 意 事 項 | ： 簡単な CGE モデルを作成する | 枚 数 | ： A4・5 枚 | 提 出 期 限 | ： 8 月上旬 |
| 課 題 | ： 応用一般均衡分析のプログラミング | | | | | | | | |
| 留 意 事 項 | ： 簡単な CGE モデルを作成する | | | | | | | | |
| 枚 数 | ： A4・5 枚 | | | | | | | | |
| 提 出 期 限 | ： 8 月上旬 | | | | | | | | |
| | ス ク ー リ ン グ ： 自分で作成したモデルを利用したシミュレーションの発表 | | | | | | | | |
| 評価方法・基準 | ： レポート（70%）、スクーリング（30%） | | | | | | | | |
| 教 材 な ど | 教科書：なし 参考書：講義内で適宜指定します。 | | | | | | | | |
| 備 考 | ： | | | | | | | | |

■ EC061

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅱ（環境経済学） |
| 担 当 者 | ： 武田 史郎 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 環境政策分析用の応用一般均衡モデルの構築 |
| 授業内容・方法 | ： 与えられた課題について毎月レポートを提出してもらいます。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 日本の産業連関表を利用した CGE モデルの作成 留 意 事 項 ： 日本の産業連関表を利用し、日本一国の CGE モデルを作成し、温暖化対策の分析を行う。 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 11 月上旬 第2回 課 題 ： 多地域の CGE 分析モデルの作成 留 意 事 項 ： GTAP データを利用した多地域 CGE モデルの作成 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 12 月上旬 第3回 課 題 ： 動学的な CGE モデルの作成 留 意 事 項 ： 逐次動学モデル・Forward-looking モデルの作成 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 1 月上旬 第4回 課 題 ： CGE モデルへの再生可能エネルギーの導入 留 意 事 項 ： CGE モデルに再生可能エネルギーを導入する方法 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 2 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： シミュレーションの発表 |
| 評価方法・基準 | ： レポート（70%）、スクーリング（30%） |
| 教 材 な ど | 教科書：なし 参考書：講義内で適宜指定します。 |
| 備 考 | ： |

■ EC062

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅲ（環境経済学） |
| 担 当 者 | ： 武田 史郎 |
| 配 当 年 次 | ： 2年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文作成のための準備を行う。 |
| 授業内容・方法 | ： 与えられた課題について毎月レポートを提出してもらいます。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 研究のテーマについて検討する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5枚 提 出 期 限 ： 5月上旬 第2回 課 題 ： 既存の研究について調査する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5枚 提 出 期 限 ： 6月上旬 第3回 課 題 ： 既存の研究について調査する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5枚 提 出 期 限 ： 7月上旬 第4回 課 題 ： 研究内容を明確にする。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5枚 提 出 期 限 ： 8月上旬 ス ク ー リ ン グ ： 特定課題研究報告書又は修士論文の構想について発表する。 |
| 評価方法・基準 | ： レポート（70%）、スクーリング（30%） |
| 教 材 な ど | 教科書：なし 参考書：講義内で適宜指定します。 |
| 備 考 | ： |

■ EC063

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | ： | 経済政策特論演習Ⅳ（環境経済学） |
| 担 当 者 | ： | 武田 史郎 |
| 配 当 年 次 | ： | 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： | 2 |
| 単 位 数 | ： | 2 |
| 開 講 期 間 | ： | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： | 特定課題研究報告書又は修士論文を完成させる。 |
| 授業内容・方法 | ： | 特定課題研究報告書又は修士論文作成の途中経過を報告してもらいながら、完成を目指します。 |
| 授 業 計 画 | ： | <div> 第1回 課 題： 特定課題研究報告書又は修士論文作成の途中経過の報告 留 意 事 項： 枚 数： A4・5 枚 提 出 期 限： 10 月末 </div> <div> 第2回 課 題： 特定課題研究報告書又は修士論文作成の途中経過の報告 留 意 事 項： 枚 数： A4・5 枚 提 出 期 限： 11 月末 </div> <div> 第3回 課 題： 特定課題研究報告書又は修士論文作成の途中経過の報告 留 意 事 項： 枚 数： A4・5 枚 提 出 期 限： 12 月末 </div> <div> 第4回 課 題： 特定課題研究報告書又は修士論文の提出 留 意 事 項： 枚 数： 提 出 期 限： 1 月上旬 ス ク ー リ ン グ： 10 月の中間発表・2 月の口頭試問により代替 </div> |
| 評価方法・基準 | ： | 特定課題研究報告書又は修士論文で判断する。 |
| 教 材 な ど | ： | 教科書：なし 参考書：講義内で適宜指定します。 |
| 備 考 | ： | |

■ EC064

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | : | 経済政策特論演習 I (労働経済学 (1)) |
| 担 当 者 | : | 田中 寧 |
| 配 当 年 次 | : | 1 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 春学期 |
| 授 業 目 標 | : | 労働経済学関連の特定課題研究報告書または修士論文作成に必要なデータの特定化とその分析に必要な理論と計量分析の学習を通して、特定課題研究報告書または修士論文の方向性を探る。 |
| 授業内容・方法 | : | 与えられた課題について毎月レポートを提出する。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第 1 回 課 題 : 報告書・論文作成の準備: その 1 テーマの決定 留意事項 : 研究計画書に基づいて報告書・論文のテーマを具体化する。 枚 数 : A4・5 枚 提出期限 : 5 月上旬 </div> <div> 第 2 回 課 題 : 報告書・論文作成の準備: その 2 テーマの決定 留意事項 : 第 1 回のレポートをもとに方向性を修正する。 枚 数 : A4・5 枚 提出期限 : 6 月上旬 </div> <div> 第 3 回 課 題 : 報告書・論文作成の準備: その 3 テーマの決定 留意事項 : 第 1, 2 回のレポートをもとに方向性を確定します。 枚 数 : A4・5 枚 提出期限 : 7 月上旬 </div> <div> 第 4 回 課 題 : 報告書・論文作成の準備: その 4 & 5 基礎知識の構築 および 留意事項 : 労働経済学および計量分析の特定テーマを学習する。 第 5 回 枚 数 : A4・5 枚 提出期限 : 8 月下旬および 9 月下旬 </div> スクーリング : 労働経済学、計量分析の復習、研究テーマの最終決定 |
| 評価方法・基準 | : | 提出されたレポートとスクーリングをもとに評価します。 |
| 教 材 な ど | : | 教科書は受講者のレベルに合わせたものを授業開始後指定します。 |
| 備 考 | : | |

■ EC065

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | : | 経済政策特論演習Ⅱ（労働経済学（1）） |
| 担 当 者 | : | 田中 寧 |
| 配 当 年 次 | : | 1 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | 労働経済学関連の特定課題研究報告書または修士論文作成に必要なデータの特定化とその分析に必要な理論と計量分析のさらなる学習を通して、特定課題研究報告書または修士論文の方向性を確定する。 |
| 授業内容・方法 | : | 与えられた課題について毎月レポートを提出する。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第1回 課 題 : 報告書・論文作成の準備：その6 基礎知識の構築 留 意 事 項 : 労働経済学および計量分析の特定テーマを学習する。 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 10 月上旬 </div> <div> 第2回 課 題 : 報告書・論文作成の準備：その7 基礎知識の構築 留 意 事 項 : 労働経済学および計量分析の特定テーマを学習する。 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 11 月上旬 </div> <div> 第3回 課 題 : 報告書・論文作成の準備：その8 先行研究のまとめ 留 意 事 項 : 報告書・論文のテーマに関連した論文を読む。 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 12 月上旬 </div> <div> 第4回 課 題 : 報告書・論文作成の準備：その9 & 10 先行研究のまとめ 留 意 事 項 : 報告書・論文のテーマに関連した論文を読む。 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 1 月上旬および2 月上旬 </div> <div> おおよび 第5回 枚 数 : A4・5 枚 提 出 期 限 : 1 月上旬および2 月上旬 </div> ス ク ー リ ン グ : 特定課題研究報告書又は修士論文の初稿 |
| 評価方法・基準 | : | 提出されたレポートとスクーリングをもとに評価します。 |
| 教 材 な ど | : | 教科書は受講者のレベルに合わせたものを授業開始後指定します。 |
| 備 考 | : | |

■ EC066

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | : | 経済政策特論演習Ⅲ（労働経済学（1）） |
| 担 当 者 | : | 田中 寧 |
| 配 当 年 次 | : | 2 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 春学期 |
| 授 業 目 標 | : | 特論演習Ⅰ&Ⅱの学習に基づいて、特定課題研究報告書または修士論文の作成を行う。 |
| 授業内容・方法 | : | 選択されたテーマについてデータ収集と統計分析を行う。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第1回 課 題 : 報告書・論文のテーマの最終決定 </div> <div> 留意事項 : </div> <div> 枚 数 : A4・5枚 </div> <div> 提出期限 : 5月上旬 </div> <div> 第2回 課 題 : 先行研究のサーベイ </div> <div> 留意事項 : 過去の先行研究をまとめる。 </div> <div> 枚 数 : A4・5枚 </div> <div> 提出期限 : 6月上旬 </div> <div> 第3回 課 題 : 分析用データの準備 </div> <div> 留意事項 : </div> <div> 枚 数 : A4・5枚 </div> <div> 提出期限 : 7月上旬 </div> <div> 第4回 課 題 : データ分析とその結果の作成（第4回） </div> <div> および スクーリングにおける発表の資料作成（第5回） </div> <div> 第5回 留意事項 : スクーリングで模擬発表を行う。 </div> <div> 枚 数 : A4・5枚 </div> <div> 提出期限 : 8月上旬および9月上旬 </div> <div> ス ク ー リ ン グ : 特定課題研究報告書または修士論文の構成 </div> |
| 評価方法・基準 | : | 提出されたレポートとスクーリングをもとに評価します。 |
| 教 材 な ど | : | 教科書は受講者のレベルに合わせたものを授業開始後指定します。 |
| 備 考 | : | |

■ EC067

| | |
|----------------------------|---|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅳ（労働経済学（1）） |
| 担 当 者 | ： 田中 寧 |
| 配 当 年 次 | ： 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 特論演習Ⅰ＆Ⅱの学習に基づいて、特定課題研究報告書または修士論文の作成を行う。 |
| 授業内容・方法 | ： 特定課題研究報告書または修士論文の作成 |
| 授 業 計 画 | ： 第1回 課 題 ： 特定課題研究報告書または修士論文を章毎に作成し提出する。研究指導教員のコメントに従い各章を完成させる。 |
| | 留意事項： |
| | 枚 数： A4・5 枚 |
| | 提出期限： 10 月上旬 |
| 第2回 | 課 題 ： 第1回と同様 |
| | 留意事項： |
| | 枚 数： A4・5 枚 |
| | 提出期限： 11 月上旬 |
| 第3回 | 課 題 ： 第1回と同様 |
| | 留意事項： |
| | 枚 数： A4・5 枚 |
| | 提出期限： 12 月上旬 |
| 第4回 および 第5回 | 課 題 ： 特定課題研究報告書または修士論文を提出し、研究指導教員は、これにコメントをし、特定課題研究報告書または修士論文を完成させる。 |
| | 留意事項： 2 月の口述試問に向けた最終調整を行う。 |
| | 枚 数： A4・5 枚 |
| | 提出期限： 1 月下旬および2 月下旬 |
| | ス ク ー リ ン グ ： 中間報告会・口述試問にて代替 |
| 評価方法・基準 | ： 提出されたレポートとスクーリングをもとに評価します。 |
| 教 材 な ど | ： 教科書は受講者のレベルに合わせたものを授業開始後指定します。 |
| 備 考 | ： |

■ EC068

| | | |
|---------|---|---|
| 科 目 名 | : | 経済政策特論演習 I (労働経済学 (2)) |
| 担 当 者 | : | 藤野 敦子 |
| 配 当 年 次 | : | 1 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 春学期 |
| 授 業 目 標 | : | 経済政策 (家計経済学関連分野) の実証的手法 (経済データの扱い方や経済データの分析手法) について学ぶ。 |
| 授業内容・方法 | : | 文献、資料、データを基に、経済データを分析し、レポートを作成する。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第 1 回 課 題 : 統計の基本知識の整理 留意事項 : 枚 数 : A4・3 枚 提出期限 : 5 月 </div> <div> 第 2 回 課 題 : 単回帰分析 留意事項 : 枚 数 : A4・3 枚 提出期限 : 6 月 </div> <div> 第 3 回 課 題 : 多変量回帰分析 留意事項 : 枚 数 : A4・3 枚 提出期限 : 7 月 </div> <div> 第 4 回 課 題 : ミクロデータの分析 (プロビット、ロジットなど) 留意事項 : 枚 数 : A4・3 枚 提出期限 : 9 月 </div> スクーリング : 9 月に行う。 |
| 評価方法・基準 | : | 提出されたレポートの内容 (70%) とスクーリング (30%) によって評価する。 |
| 教 材 な ど | : | 教科書は適宜指定 |
| 備 考 | : | 受講者の関心によっては、社会調査 (アンケート・インタビュー) の手法まで解説する。 受講者の状況に合わせた若干の変更はありうる。 |

■ EC069

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | : | 経済政策特論演習Ⅱ（労働経済学（2）） |
| 担 当 者 | : | 藤野 敦子 |
| 配 当 年 次 | : | 1 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | 自分の関心や問題意識のあるテーマに関して、先行研究内容を整理したサーベイ論文を作成する。 |
| 授業内容・方法 | : | 論文の収集の方法、論文内容の理解（理論、分析手法についての解説）、サーベイ論文の作成方法について解説する。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第1回 課 題 : 関心のあるテーマの設定と関連論文の収集とその報告 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・1 枚 提 出 期 限 : 10 月 </div> <div> 第2回 課 題 : 関連論文のうち主要な論文講読とその質疑応答 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・3 枚 提 出 期 限 : 11 月 </div> <div> 第3回 課 題 : サーベイ論文作成と中間報告 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・3 枚 提 出 期 限 : 12 月 </div> <div> 第4回 課 題 : サーベイ論文作成と最終報告 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・3 枚 提 出 期 限 : 1 月 </div> ス ク ー リ ン グ : 受講者と相談の上決定する。 |
| 評価方法・基準 | : | 提出されたレポートの内容(70%)とスクーリング(30%)によって評価する。 |
| 教 材 な ど | : | 収集した論文（受講者が決定するとともに、教員が適宜紹介） |
| 備 考 | : | 受講者の進度に合わせ若干の変更はある。 |

■ EC070

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅲ（労働経済学（2）） |
| 担 当 者 | ： 藤野 敦子 |
| 配 当 年 次 | ： 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 経済政策特論演習Ⅰ、Ⅱを踏まえ、特定課題研究報告書又は修士論文計画を作成、それに従って、特定課題研究報告書又は修士論文の作成を進めていく。 |
| 授業内容・方法 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文作成のプロセスで逐次アドバイス、添削、解説などを行う。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 演習Ⅱでのサーベイ論文を踏まえ問題意識、現状分析、先行研究、分析手法などをまとめた簡単な計画表を作成 </div> <div> 留 意 事 項： 特に問題の背景にある「現状分析」に力を入れること。（グラフ・表作成） </div> <div> 枚 数： A4・5 枚以上 </div> <div> 提 出 期 限： 5 月 </div> <div> 第2回 課 題： 計画表に従い、特定課題研究報告書又は修士論文作成 </div> <div> 留 意 事 項： まずは分析手法を選択し、分析に取り掛かる。（データの収集など） </div> <div> 枚 数： A4・3 枚 </div> <div> 提 出 期 限： 6 月 </div> <div> 第3回 課 題： 計画表に従い、特定課題研究報告書又は修士論文作成 </div> <div> 留 意 事 項： 分析部分を進める。 </div> <div> 枚 数： A4・3 枚 </div> <div> 提 出 期 限： 7 月 </div> <div> 第4回 課 題： 修正 </div> <div> 留 意 事 項： 分析部分を進め、分析結果を出す。 </div> <div> 枚 数： A4・5 枚 </div> <div> 提 出 期 限： 8 月 </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 受講者との話し合いによって決定 </div> |
| 評価方法・基準 | ： 提出されたレポートの内容(70%)とスクーリング(30%)によって評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 受講者が自ら決定するとともに教員が適宜紹介 |
| 備 考 | ： 受講者の進度に合わせ若干の変更はある。 |

■ EC071

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | : | 経済政策特論演習Ⅳ（労働経済学（2）） |
| 担 当 者 | : | 藤野 敦子 |
| 配 当 年 次 | : | 2 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | 受講者の関心と問題意識から選択されたテーマに対して、独自の視点、政策的示唆に富んだ特定課題研究報告書又は修士論文を完成させる。 |
| 授業内容・方法 | : | 特定課題研究報告書又は修士論文の作成を進める。受講者の報告に対し、アドバイス、添削、解説などを行うが、それに従い、特定課題研究報告書又は修士論文を、加筆、削除、修正を繰り返し、改善していくこと。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第1回 課 題 : 特定課題研究報告書又は修士論文作成と中間報告 留 意 事 項 : 演習Ⅲにおける分析部分の結論、知見をまとめる。 枚 数 : A4・5－10 枚以上 提 出 期 限 : 10 月 </div> <div> 第2回 課 題 : 特定課題研究報告書又は修士論文作成と中間報告 留 意 事 項 : 全体を仕上げていく。 枚 数 : A4・20 枚 提 出 期 限 : 11 月 </div> <div> 第3回 課 題 : 特定課題研究報告書又は修士論文草稿の完成 留 意 事 項 : 細かい点を仕上げる。 枚 数 : A4・30 枚程度 提 出 期 限 : 12 月 </div> <div> 第4回 課 題 : 特定課題研究報告書又は修士論文の完成 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・30 枚程度 提 出 期 限 : 1 月 </div> <div> ス ク ー リ ン グ : 研究成果中間報告会と口述試問にて代替する。 </div> |
| 評価方法・基準 | : | 最終的に提出する特定課題研究報告書又は修士論文の内容(100%)によって評価する。 |
| 教 材 な ど | : | 受講者自らが決定するとともに教員が適宜紹介 |
| 備 考 | : | 受講者の進度に合わせ若干の変更はある。 |

■ EC072

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | : 経済政策特論演習 I (日本経済論 (1)) |
| 担 当 者 | : 岡本 光治 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 春学期 |
| 授 業 目 標 | : 戦後日本経済の発展を支えた基盤である「日本的経営」を賃金管理史という点から、その生成と発展、ついで現代に投げかけられている問題などを含めて検討する。2013 年 4 月より施行の労働契約法、労働者派遣法、高齢者雇用安定法などの改正がどのような影響をもたらすかも絶えず注視していきたい。 |
| 授業内容・方法 | : 選ばれたテキストにしたがって、(1)日本の賃金管理への接近、(2)戦前～戦中期の賃金管理、(3)戦後賃金体系の展開(能力主義管理から成果主義管理へ)などについて意見交換と議論をしていく。 |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 課 題 : 戦前から戦後にかけての賃金管理の大まかな変遷についての検討 留 意 事 項 : 教材の第 1～2 章を参考にする。 枚 数 : A4・2 枚 提 出 期 限 : 5 月下旬 第 2 回 課 題 : 戦前期の大正から戦中期にかけての賃金管理の特徴を把握する 留 意 事 項 : 教材の第 2～5 章を参考にする。 枚 数 : A4・3 枚 提 出 期 限 : 6 月下旬 第 3 回 課 題 : 戦後の賃金管理(能力主義管理)の本質について検討する 留 意 事 項 : 教材の第 6～7 章を参考にする。 枚 数 : A4・3 枚 提 出 期 限 : 7 月下旬 第 4 回 課 題 : 戦後の賃金管理(成果主義管理)の本質について検討する 留 意 事 項 : 教材の第 7～9 章を参考にする 枚 数 : A4・4 枚 提 出 期 限 : 8 月下旬 ス ク ー リ ン グ : 受講生と相談の上、決める。 |
| 評価方法・基準 | : 提出レポートの内容を評価する。 |
| 教 材 な ど | : 晴山俊夫 著『日本賃金管理史―日本的経営論序説―』2005 年 文眞堂 |
| 備 考 | : 大きな「雇用法改正」が動き出したので、この影響等を検討するための新しい教材が見つければ、受講生と相談の上、変更したい。 |

■ EC073

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅱ（日本経済論（1）） |
| 担 当 者 | ： 岡本 光治 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 戦後日本経済の発展を支えた生産面の基盤である「日本的雇用慣行」について、その生成と発展を歴史的に確認し、現代におけるシステムの崩壊と将来の方向性について検討する。同時に新しく改正され、すでに動き出した「高齢者雇用安定法」「労働者派遣法」「労働契約法」にも注視する。 |
| 授業内容・方法 | ： ここで選択した教材に従い、（1）戦前と戦後の雇用体系の変遷、（2）戦後社会に定着した日本的雇用慣行の実態、（3）日本的雇用慣行の将来への動き、などについて意見交換と議論を重ねる。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 戦前と戦後の日本社会の雇用慣行の変遷についての歴史的な確認 留 意 事 項： 教材の第1章を参考にする。 枚 数： A4・3枚 提 出 期 限： 10月下旬 </div> <div> 第2回 課 題： 日本的雇用慣行の実態(1) （長期雇用慣行について） 留 意 事 項： 教材の第2章を参考にする。 枚 数： A4・3枚 提 出 期 限： 11月下旬 </div> <div> 第3回 課 題： 日本的雇用慣行の実態(2) （年功的賃金と処遇、企業内組合について） 留 意 事 項： 教材の第3～4章を参考にする。 枚 数： A4・3枚 提 出 期 限： 12月下旬 </div> <div> 第4回 課 題： 日本的雇用慣行の将来的な方向 留 意 事 項： 教材の第6章を参考にする 枚 数： A4・3枚 提 出 期 限： 1月下旬 </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 受講生と相談の上、決める。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： 提出されたレポート内容を評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 野村正實 著『日本的雇用慣行－全体像構築の試み－』2007年 ミネルヴァ書房 |
| 備 考 | ： より適切な教材があれば、受講生と相談の上、変更することもあります。大きな「雇用法の改正」が動き出したので、この影響を検討するための新しい教材が見つければ、受講生と相談の上、変更したい。 |

■ EC074

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | : 経済政策特論演習Ⅲ（日本経済論（1）） |
| 担 当 者 | : 岡本 光治 |
| 配 当 年 次 | : 2年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 春学期 |
| 授 業 目 標 | : 「雇用の多様化」という現実と「日本的雇用慣行」の変質についての検討。 |
| 授業内容・方法 | : 近年の日本社会で「雇用の多様化」が進んでいる原因と背景について、様々な角度から捉えていく。従来の「日本的雇用慣行」が機能している分野と機能しない分野の確認、法制面・理論面からの検討も加えて意見交換し、議論していく。同時に動き出した「高齢者雇用安定法改正」の影響も注視していきたい。 |
| 授 業 計 画 | <p>第1回 課 題 : 日本社会の「雇用の多様化」についての実態の把握</p> <p>留 意 事 項 : 下記の教材を参考にする</p> <p>枚 数 : A4・3枚</p> <p>提 出 期 限 : 5月下旬</p> <p>第2回 課 題 : 日本社会の経済環境の変化についての検討(1) (経済の成熟に伴うサービス化という産業構造の大きな流れを追う)</p> <p>留 意 事 項 : 下記の教材を参考にする</p> <p>枚 数 : A4・3枚</p> <p>提 出 期 限 : 6月下旬</p> <p>第3回 課 題 : 日本社会の経済環境の変化についての検討(2) (技術革新とグローバル化の流れを追う)</p> <p>留 意 事 項 : 下記の教材を参考にする</p> <p>枚 数 : A4・3枚</p> <p>提 出 期 限 : 7月下旬</p> <p>第4回 課 題 : 日本社会の経済環境の変化についての検討(3) (企業社会の対応について理論・法制面からの検討)</p> <p>留 意 事 項 : 下記の教材を参考にする</p> <p>枚 数 : A4・3枚</p> <p>提 出 期 限 : 8月下旬</p> <p>ス ク ー リ ン グ : 受講生と相談の上、決める。</p> |
| 評価方法・基準 | : 提出されたレポート内容を評価する。 |
| 教 材 な ど | <p>[1] 各年の『労働経済白書』</p> <p>[2] 清家篤『雇用再生』NHKブックス 2013年</p> <p>[3] 八代尚宏『日本経済論・入門』有斐閣 2013年</p> <p>[4] 小池和男『海外日本企業の人材育成』東洋経済新報社 2008年</p> <p>[5] 鶴光太郎ほか『労働市場制度改革』日本評論社 2009年</p> <p>[6] p. キャペリ（若山 訳）『雇用の未来』日本経済新聞社 2001年 など</p> |
| 備 考 | : 受講生の研究テーマに従う形で、例年教材については柔軟に再検討している。いわゆる「65歳定年制」施行の影響等について、新しい教材が見つければ積極的に取り上げていきたい。 |

■ EC075

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | : 経済政策特論演習Ⅳ（日本経済論（1）） |
| 担 当 者 | : 岡本 光治 |
| 配 当 年 次 | : 2 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : 「雇用の多様化」という現実と「日本的雇用慣行」の変質についての検討。 |
| 授業内容・方法 | : 近年の日本社会で「雇用の多様化」が進んでいる原因と背景について、様々な角度から捉えていく。従来の「日本的雇用慣行」が機能している分野と機能しない分野の確認、法制面・理論面からの検討も加えて意見交換し、議論していく。同時に動き出した「高齢者雇用安定法改正」の影響も注視していく。 |
| 授 業 計 画 | <p>第1回 課 題 : 日本社会の「雇用の多様化」についての実態の把握</p> <p>留 意 事 項 : 下記の教材を参考にする</p> <p>枚 数 : A4・3 枚</p> <p>提 出 期 限 : 10 月下旬</p> <p>第2回 課 題 : 日本社会の経済環境の変化についての検討(1) (経済の成熟に伴うサービス化という産業構造の大きな流れを追う)</p> <p>留 意 事 項 : 下記の教材を参考にする</p> <p>枚 数 : A4・3 枚</p> <p>提 出 期 限 : 11 月下旬</p> <p>第3回 課 題 : 日本社会の経済環境の変化についての検討(2) (技術革新とグローバル化の流れを追う)</p> <p>留 意 事 項 : 下記の教材を参考にする</p> <p>枚 数 : A4・3 枚</p> <p>提 出 期 限 : 12 月下旬</p> <p>第4回 課 題 : 日本社会の経済環境の変化についての検討(3) (企業社会の対応について理論・法制面からの検討)</p> <p>留 意 事 項 : 下記の教材を参考にする</p> <p>枚 数 : A4・3 枚</p> <p>提 出 期 限 : 1 月上旬</p> <p>ス ク ー リ ン グ : 研究成果中間報告会・口述試験により代替する。</p> |
| 評価方法・基準 | : 提出された特定課題研究報告書又は修士論文の内容を評価する。 |
| 教 材 な ど | <p>[1] 各年の『労働経済白書』</p> <p>[2] 清家篤『雇用再生』NHKブックス 2013 年</p> <p>[3] 八代尚宏『日本経済論・入門』有斐閣 2013 年</p> <p>[4] 小池和男『海外日本企業の人材育成』東洋経済新報社 2008 年</p> <p>[5] 鶴光太郎ほか『労働市場制度改革』日本評論社 2009 年</p> <p>[6] p. キャペリ（若山 訳）『雇用の未来』日本経済新聞社 2001 年 など</p> |
| 備 考 | : 受講生の研究テーマに従う形で、例年教材については柔軟に再検討している。いわゆる「65 歳定年制」の影響等について、新しい教材が見つければ積極的に取り上げていきたい。 |

■ EC076

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅰ（地域経済論） |
| 担 当 者 | ： 寺崎 友芳 |
| 配 当 年 次 | ： 1年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 日本の都市・地域が抱える諸課題について、受講生の問題意識に沿ったテーマについて、経済学的手法によって分析するアプローチを身に着ける。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生は問題意識に沿ったテーマを選定し、関連する文献について整理・分析し、報告する。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課題： 問題意識・研究テーマについて報告する。 留意事項： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数： A4・3枚程度 提出期限： 5月上旬 </div> <div> 第2回 課題： 関連文献について整理・分析し、報告する。 留意事項： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数： A4・3枚程度 提出期限： 6月上旬 </div> <div> 第3回 課題： 関連文献について整理・分析し、報告する。 留意事項： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数： A4・3枚程度 提出期限： 7月上旬 </div> <div> 第4回 課題： 関連文献について整理・分析し、報告する。 留意事項： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数： A4・3枚程度 提出期限： 8月上旬 </div> スクーリング： 9月（予定）：第1回～第4回のレポートを、必要に応じて加筆・修正のうえ報告し、討議する。 |
| 評価方法・基準 | ： レポート 20%×4、スクーリングでの報告・口頭試問 20% |
| 教 材 な ど | ： 受講生の希望をもとに適宜指示する。 |
| 備 考 | ： Word形式のファイルでレポートを作成し、メールにて提出する。提出するファイル名を「学生証番号 受講生氏名「受講項目名」（第×回課題レポート）」とする。 |

■ EC077

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅱ（地域経済論） |
| 担 当 者 | ： 寺崎 友芳 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 日本の都市・地域が抱える諸課題について、受講生の問題意識に沿ったテーマについて、経済学的手法によって分析するアプローチを身に着ける。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生は問題意識に沿ったテーマを選定し、関連する文献について整理・分析し、報告する。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 関連文献について整理・分析し、報告する。。 留 意 事 項： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数： A4・3 枚程度 提 出 期 限： 11 月上旬 </div> <div> 第2回 課 題： 関連文献について整理・分析し、報告する。 留 意 事 項： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数： A4・3 枚程度 提 出 期 限： 12 月上旬 </div> <div> 第3回 課 題： 関連文献について整理・分析し、報告する。 留 意 事 項： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数： A4・3 枚程度 提 出 期 限： 1 月上旬 </div> <div> 第4回 課 題： これまで報告した関連文献について、分析手法、分析結果、課題等について総括し、報告する。 留 意 事 項： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数： A4・3 枚程度 提 出 期 限： 2 月上旬 </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 2 月（予定）：第4回の課題について、必要に応じて加筆・修正のうえ報告し、討議する。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： レポート 20%×4、スクーリングでの報告・口頭試問 20% |
| 教 材 な ど | ： 受講生の希望をもとに適宜指示する。 |
| 備 考 | ： Word 形式のファイルでレポートを作成し、メールにて提出する。提出するファイル名を「学生証番号 受講生氏名「受講項目名」（第×回課題レポート）」とする。 |

■ EC078

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅲ（地域経済論） |
| 担 当 者 | ： 寺崎 友芳 |
| 配 当 年 次 | ： 2年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 日本の都市・地域が抱える諸課題について、特定課題研究報告書または修士論文の作成を進展させる。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生は、特定課題研究報告書または修士論文の調査計画書を作成し、分析・執筆を進める。分析のために必要な助言・指示は適宜行う。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 調査計画書を報告する。 留 意 事 項 ： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 ： A4・2枚程度 提 出 期 限 ： 5月上旬 第2回 課 題 ： 分析結果の報告1 留 意 事 項 ： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 ： A4・6-10枚程度 提 出 期 限 ： 6月上旬 第3回 課 題 ： 分析結果の報告2 留 意 事 項 ： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 ： A4・6-10枚程度 提 出 期 限 ： 7月上旬 第4回 課 題 ： 分析結果の報告3 留 意 事 項 ： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 ： A4・6-10枚程度 提 出 期 限 ： 8月上旬 ス ク ー リ ン グ ： 9月（予定）：特定課題研究報告書または修士論文の中間報告案の報告、討議を行う。 |
| 評価方法・基準 | ： レポート 20%×4、スクーリングでの報告・口頭試問 20% |
| 教 材 な ど | ： 必要に応じて適宜指示する。 |
| 備 考 | ： Word形式のファイルでレポートを作成し、メールにて提出する。提出するファイル名を「学生証番号 受講生氏名「受講項目名」（第×回課題レポート）」とする。 |

■ EC079

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅳ（地域経済論） |
| 担 当 者 | ： 寺崎 友芳 |
| 配 当 年 次 | ： 2年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 日本の都市・地域が抱える諸課題について、特定課題研究報告書または修士論文を完成させる。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生は、特定課題研究報告書または修士論文の執筆を進める。執筆のために必要な助言・指示は適宜行う。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 中間報告会で受けた指摘を踏まえてレポートを改訂する。 留 意 事 項 ： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 ： A4・20-30 枚程度 提 出 期 限 ： 11 月上旬 第2回 課 題 ： 第1回課題での指摘を踏まえてレポートを改訂する。 留 意 事 項 ： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 ： A4・20-30 枚程度 提 出 期 限 ： 12 月上旬 第3回 課 題 ： 第2回課題での指摘を踏まえてレポートを改訂する。 留 意 事 項 ： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 ： A4・20-30 枚程度 提 出 期 限 ： 1 月上旬 第4回 課 題 ： 特定課題研究報告書または修士論文の完成 留 意 事 項 ： レポート提出とコメントはメールにて行う。 枚 数 ： A4・20-30 枚程度 提 出 期 限 ： 2 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： 10 月の中間報告・2 月の口頭試問により代替 |
| 評価方法・基準 | ： レポート、中間報告、口頭試問により評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 必要に応じて適宜指示する。 |
| 備 考 | ： Word 形式のファイルでレポートを作成し、メールにて提出する。提出するファイル名を「学生証番号 受講生氏名「受講項目名」（第×回課題レポート）」とする。 |

■ EC080

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習 I（農業政策） |
| 担 当 者 | ： 並松 信久 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 現代日本の農業政策に関する問題点を文献資料によって理解する。その問題点のなかから、受講者の問題意識にそった課題を選び出す。その課題に関する基礎的な研究を、文献資料を読むことによって進めることができるようにする。さらにスクーリングにおいて、受講生が選んだ課題に関する文献サーベイと統計データ収集に基づき、課題に関する資料作成を行えるようにする。 |
| 授業内容・方法 | ： 最初に問題意識を書いた簡単なレポートをメールで提出してもらう。その問題に応じて、担当者は文献資料リストを受講生に提示する。リストにしたがって受講生は文献資料を読み、2～3 週間ごとに要約と質問をメールで担当者に送る。担当者は質問事項に対して、新たな参考文献資料を提示する。このやり取りを通じて受講生は問題の所在が徐々に明確となり、研究課題を見出していく。 スクーリングでは受講生の研究課題に応じた文献サーベイと統計データ収集を行い、資料の作成を行う。それと同時に、時間の許す限り、研究課題に応じて現場を見る機会を設けていきたい。現場を見聞した後は、簡単な報告を出してもらう。 |
| 授 業 計 画 | ： 第 1 回 課 題 ： わが国の農業政策に関して、受講生が関心のある部分についてまとめる。 <div> 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 5 月中旬 </div> 第 2 回 課 題 ： 第 1 回課題に関して、担当者が提示した資料の要約をつくる。 <div> 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 6 月中旬 </div> 第 3 回 課 題 ： 統計資料を中心に、データの収集と整理を行う。 <div> 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 7 月中旬 </div> 第 4 回 課 題 ： 第 1 回～第 3 回までの課題を整理してレポートにまとめる。 <div> 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 8 月中旬 </div> ス ク ー リ ン グ ： 第 4 回課題のレジュメをつくり、報告する。 |
| 評価方法・基準 | ： 担当者による文献資料リストに基づいて作成された文献資料の要約と質問を、評価の対象にする(50%)。またスクーリングにおいて作成された資料や調査報告も評価の対象にする(50%)。 |
| 教 材 な ど | ： 研究テーマに関する資料や文献。 |
| 備 考 | ： |

■ EC081

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅱ（農業政策） |
| 担 当 者 | ： 並松 信久 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 演習Ⅰに引き続き、演習Ⅱでは文献サーベイと統計データ収集を中心とした資料作成を行っていく。資料収集力とデータ分析力を身に付けるのが目標である。研究課題に関する報告を提出してもらうが、その際、研究課題に関する先行研究の整理に重点を置いて、研究課題の構想をさらに深める。先行研究の整理はレポートを作成するうえで欠かせないものである、そういった研究方法を身に付けてもらう。 |
| 授業内容・方法 | ： 担当者の指示に基づいて、研究課題に応じた文献サーベイと統計データ収集を引き続き行う。 研究課題が明確になるにともない、先行研究の整理に取りかかる。整理方法は担当者が指示するが、実際の整理は受講生が行なう。研究課題に応じて違いはあるが、整理の対象は邦文論文だけでなく欧文論文も加える。 スクーリングでは研究課題の修正や追加を中心に行う。とくに研究課題によっては文献資料や統計で明らかにできない場合もあるので、その場合には担当者は調査方法を指示して、受講生はできるだけ身近な地域において実態調査を実施する。 |
| 授 業 計 画 | ： 第1回 課 題 　： 資料リストの作成と統計の整理。 留意事項 　： 枚 数 　： A4・5 枚 提出期限 　： 11 月中旬 第2回 課 題 　： 先行研究のリスト作成と、先行研究の整理。 留意事項 　： 枚 数 　： A4・5 枚 提出期限 　： 12 月中旬 第3回 課 題 　： 先行研究の要約の作成。 留意事項 　： 枚 数 　： A4・5 枚 提出期限 　： 1 月中旬 第4回 課 題 　： 受講生の課題に関する先行研究のまとめの作成。 留意事項 　： 枚 数 　： A4・5 枚 提出期限 　： 2 月中旬 ス ク ー リ ン グ 　： 第4回課題のレジュメをつくり、報告する。 |
| 評価方法・基準 | ： 文献サーベイと統計データ収集の成果を評価の対象とする(50%)。さらに先行研究を整理した成果も評価対象に加える(50%)。 |
| 教 材 な ど | ： 研究テーマに関する資料や文献。 |
| 備 考 | ： |

■ EC082

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅲ（農業政策） |
| 担 当 者 | ： 並松 信久 |
| 配 当 年 次 | ： 2年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： これまでの1年間の研究成果と残された課題を明確にする。その上で研究課題に関連する残された文献資料や統計データの収集を行う。前年に引き続き、先行研究の整理を行う。受講者の研究課題が国際水準をめざせるように、とくに欧文論文を中心に整理を行う。メールのやり取りとスクーリングを通して、これまでの研究成果のチェックを行い、研究課題の最終的な確定と作成方針を決定する。 |
| 授業内容・方法 | ： 前年度に収集された統計データの整理を行う。この成果は、受講生が担当者にメールで知らせる。さらに受講生の研究課題に関連する欧米論文について整理を行う。これは先行研究の整理という意味もあるが、受講生の研究を国際水準に少しでも近づけるようにするという意味もある。欧文論文については受講生が担当者へ、その要約をメールで送る。 スクーリングでは、これまでの文献サーベイや整理された統計データのチェックを行う。さらに担当者と受講生が、特定課題研究報告書又は修士論文の構成に関して議論を深めていく。研究課題に応じて補足の実態調査を行なう。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 　： 先行研究と受講生の研究課題との違いを明確にする。 留 意 事 項 　： 特定課題研究報告書又は修士論文の最初の部分の草稿の作成。 枚 数 　　　： A4・5枚 提 出 期 限 　： 5月中旬 第2回 課 題 　： 特定課題研究報告書又は修士論文の構想案の作成。 留 意 事 項 　： 特定課題研究報告書又は修士論文の要旨を想定した草稿を作成する。 枚 数 　　　： A4・5枚 提 出 期 限 　： 6月中旬 第3回 課 題 　： 特定課題研究報告書又は修士論文の骨子に関わる資料の整理と補足。 留 意 事 項 　： 枚 数 　　　： A4・5枚 提 出 期 限 　： 7月中旬 第4回 課 題 　： 特定課題研究報告書又は修士論文の草稿を作成する。 留 意 事 項 　： 枚 数 　　　： A4・8枚 提 出 期 限 　： 8月中旬 ス ク ー リ ン グ 　： 特定課題研究報告書又は修士論文の草稿のレジюмеをつくり、報告する。 |
| 評価方法・基準 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文の草稿を評価の対象とする。草稿に至るまでの先行研究の整理、資料や統計データの整理、欧文論文の要約などを評価の対象とする。また実態調査の場合は、その調査結果も評価の対象とする。 |
| 教 材 な ど | ： 研究テーマに関する資料や文献。 |
| 備 考 | ： |

■ EC083

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--|-------|---------------------------|--|-----------|--|---------------|--|------------------|-------|---------------------------|--|-----------|--|---------------|--|------------------|-------|------------------------|--|-----------|--|---------------|--|------------------|-------|---------------------------|--|-----------|--|---------------|--|-----------------|--|----------------------------------|
| 科 目 名 | : 経済政策特論演習Ⅳ（農業政策） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担 当 者 | : 並松 信久 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 配 当 年 次 | : 2 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 週 時 間 数 | : 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単 位 数 | : 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 開 講 期 間 | : 秋学期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授 業 目 標 | : 特定課題研究報告書又は修士論文のまとめを目標にして、その作成に関わる能力を身に付けることを目標にする。10 月の特定課題研究報告書又は修士論文の中間報告会の議論と評価を受けて追加修正し、特定課題研究報告書又は修士論文を作成する。メールのやり取りとスクーリングを通して、最終チェックを行い、特定課題研究報告書又は修士論文を提出する。学会あるいは研究会での発表などができる水準をめざしている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内容・方法 | : 特定課題研究報告書又は修士論文の骨子とデータをまとめて、中間報告会の準備をする。準備の進捗状況は担当者にメールで報告する。 中間報告会の議論と評価を受けて、追加修正を行なう。追加修正に関しては、主に担当者が受講者にメールで指示するが、どのように追加修正したのかは、逐次メールで担当者に報告する。特定課題研究報告書又は修士論文は学会あるいは研究会で発表できる水準をめざす。 スクーリングで最終チェックを行ない、特定課題研究報告書又は修士論文を提出してもらう。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | : <table border="1"> <tr> <td>第 1 回</td><td>課 題 : 中間報告会の指摘に基づいた修正を行う。</td></tr> <tr> <td></td><td>留 意 事 項 :</td></tr> <tr> <td></td><td>枚 数 : A4・10 枚</td></tr> <tr> <td></td><td>提 出 期 限 : 11 月中旬</td></tr> <tr> <td>第 2 回</td><td>課 題 : 資料やデータを補足して草稿を作成する。</td></tr> <tr> <td></td><td>留 意 事 項 :</td></tr> <tr> <td></td><td>枚 数 : A4・20 枚</td></tr> <tr> <td></td><td>提 出 期 限 : 12 月上旬</td></tr> <tr> <td>第 3 回</td><td>課 題 : 担当者の指摘した部分を修正する。</td></tr> <tr> <td></td><td>留 意 事 項 :</td></tr> <tr> <td></td><td>枚 数 : A4・30 枚</td></tr> <tr> <td></td><td>提 出 期 限 : 12 月下旬</td></tr> <tr> <td>第 4 回</td><td>課 題 : 特定課題研究報告書又は修士論文の提出。</td></tr> <tr> <td></td><td>留 意 事 項 :</td></tr> <tr> <td></td><td>枚 数 : A4・30 枚</td></tr> <tr> <td></td><td>提 出 期 限 : 1 月中旬</td></tr> <tr> <td></td><td>ス ク ー リ ン グ : 中間報告会・口述試問により代替する。</td></tr> </table> | 第 1 回 | 課 題 : 中間報告会の指摘に基づいた修正を行う。 | | 留 意 事 項 : | | 枚 数 : A4・10 枚 | | 提 出 期 限 : 11 月中旬 | 第 2 回 | 課 題 : 資料やデータを補足して草稿を作成する。 | | 留 意 事 項 : | | 枚 数 : A4・20 枚 | | 提 出 期 限 : 12 月上旬 | 第 3 回 | 課 題 : 担当者の指摘した部分を修正する。 | | 留 意 事 項 : | | 枚 数 : A4・30 枚 | | 提 出 期 限 : 12 月下旬 | 第 4 回 | 課 題 : 特定課題研究報告書又は修士論文の提出。 | | 留 意 事 項 : | | 枚 数 : A4・30 枚 | | 提 出 期 限 : 1 月中旬 | | ス ク ー リ ン グ : 中間報告会・口述試問により代替する。 |
| 第 1 回 | 課 題 : 中間報告会の指摘に基づいた修正を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 : A4・10 枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 : 11 月中旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 回 | 課 題 : 資料やデータを補足して草稿を作成する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 : A4・20 枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 : 12 月上旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 3 回 | 課 題 : 担当者の指摘した部分を修正する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 : A4・30 枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 : 12 月下旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 4 回 | 課 題 : 特定課題研究報告書又は修士論文の提出。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 : A4・30 枚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 : 1 月中旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ス ク ー リ ン グ : 中間報告会・口述試問により代替する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法・基準 | : 最終的に提出される特定課題研究報告書又は修士論文によって評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教 材 な ど | : 研究テーマに関する資料や文献。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備 考 | : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

■ EC084

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅰ（企業経済論） |
| 担 当 者 | ： 加茂 知幸 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 現代企業が直面する問題のうち、受講者の研究テーマに沿った問題を選定し、それに関する経済学的なアプローチの仕方を学ぶことを目標とする。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講者は合計 4 回の課題レポートの提出と 1 回のスクーリング（9 月に実施予定）の参加が要求される。授業の進行は次のとおり。受講者は、まず自身の研究テーマに応じて問題を設定し、その問題に関する文献から情報を収集し、教員が提示する課題について報告することが求められる。期末には、それらの成果をまとめた報告書を作成し、スクーリング時に発表することが求められる。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第 1 回 課題 ： 研究テーマとそれに関する企業の問題について 留意事項 ： 枚数 ： A4・3 枚程度 提出期限 ： 5 月上旬 </div> <div> 第 2 回 課題 ： 関連文献についてのレポート 1 留意事項 ： 課題の詳細は、第 1 回のレポートに基づいて、教員が指示する。 枚数 ： A4・5 枚程度 提出期限 ： 6 月上旬 </div> <div> 第 3 回 課題 ： 関連文献についてのレポート 2 留意事項 ： 課題の詳細は、第 2 回のレポートに基づいて、教員が指示する。 枚数 ： A4・5 枚程度 提出期限 ： 7 月上旬 </div> <div> 第 4 回 課題 ： 関連文献についてのレポート 3 留意事項 ： 課題の詳細は、第 1 回のレポートに基づいて、教員が指示する。 枚数 ： A4・5 枚程度 提出期限 ： 8 月上旬 </div> スクーリング ： 9 月（予定）：期末報告の発表と討論 |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポートとスクーリング時の口頭試問により評価する。 |
| 教材など | ： 受講者のテーマに応じて適宜指示する。 |
| 備 考 | ： |

■ EC085

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅱ（企業経済論） |
| 担 当 者 | ： 加茂 知幸 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 現代企業が直面する問題のうち、受講者の研究テーマに沿った問題を選定し、それに関する経済学的なアプローチの仕方を学ぶことを目標とする。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講者は合計 4 回の課題レポートの提出と 1 回のスクーリング（2 月に実施予定）の参加が要求される。授業の進行は次のとおり。受講者は、まず自身の研究テーマに応じて問題を設定し、その問題に関する文献から情報を収集し、教員が提示する課題について報告することが求められる。期末には、それらの成果をまとめた報告書を作成し、スクーリング時に発表することが求められる。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第 1 回 課題 ： 関連文献についてのレポート 1 留意事項 ： 枚数 ： A4・2 枚程度 提出期限 ： 10 月下旬 </div> <div> 第 2 回 課題 ： 関連文献についてのレポート 2 留意事項 ： 課題の詳細は、第 1 回のレポートに基づいて、教員が指示する。 枚数 ： A4・2 枚程度 提出期限 ： 11 月下旬 </div> <div> 第 3 回 課題 ： 関連文献についてのレポート 3 留意事項 ： 課題の詳細は、第 2 回のレポートに基づいて、教員が指示する。 枚数 ： A4・2 枚程度 提出期限 ： 12 月下旬 </div> <div> 第 4 回 課題 ： 関連文献についてのレポート 4 留意事項 ： 課題の詳細は、第 1 回のレポートに基づいて、教員が指示する。 枚数 ： A4・2 枚程度 提出期限 ： 1 月下旬 </div> スクーリング ： 2 月（予定）：期末報告の発表と討論 |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポートとスクーリング時の口頭試問により評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 受講者のテーマに応じて適宜指示する。 |
| 備 考 | ： |

■ EC086

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|---------|--|-------|-----|-------------------|---------|---------------------------|-----|------------|---------|---------|-------|-----|-------------|---------|---|-----|------------|---------|---------|-------|-----|-------------|---------|---|-----|------------|---------|---------|-------|-----|-----------------|---------|----------------|-----|-----------|---------|-------|-----------------------------------|--|--|
| 科 目 名 | : | 経済政策特論演習Ⅲ（企業経済論） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担 当 者 | : | 加茂 知幸 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 配 当 年 次 | : | 2 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 週 時 間 数 | : | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単 位 数 | : | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 開 講 期 間 | : | 春学期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授 業 目 標 | : | 現代企業が直面する問題のうち、受講者の特定課題研究報告書又は修士論文のテーマに関する問題およびその解決方法を研究し、特定課題研究報告書又は修士論文の作成を進展させることを目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内容・方法 | : | 受講者は合計 3 回の課題レポートの提出と 1 回のスクーリング（9 月に実施予定）の参加が要求される。授業の進行は次のとおり。受講者は、研究テーマに関するプロポーザルを作成し、それに基づいて関連文献についてサーベイし、それを踏まえた上で、期末のスクーリング時に自身の研究について報告することが求められる。研究を進める上で必要なアドバイス・指導は適宜行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | : | <table><tr><td rowspan="4">第 1 回</td><td>課 題</td><td>: 研究テーマに関するプロポーザル</td></tr><tr><td>留 意 事 項</td><td>: 特定課題研究報告書又は修士論文の方向性を定める</td></tr><tr><td>枚 数</td><td>: A4・5 枚程度</td></tr><tr><td>提 出 期 限</td><td>: 5 月上旬</td></tr><tr><td rowspan="4">第 2 回</td><td>課 題</td><td>: 関連文献のサーベイ</td></tr><tr><td>留 意 事 項</td><td>:</td></tr><tr><td>枚 数</td><td>: A4・5 枚程度</td></tr><tr><td>提 出 期 限</td><td>: 6 月上旬</td></tr><tr><td rowspan="4">第 3 回</td><td>課 題</td><td>: 関連文献のサーベイ</td></tr><tr><td>留 意 事 項</td><td>:</td></tr><tr><td>枚 数</td><td>: A4・5 枚程度</td></tr><tr><td>提 出 期 限</td><td>: 7 月下旬</td></tr><tr><td rowspan="4">第 4 回</td><td>課 題</td><td>: オリジナルな研究計画の報告</td></tr><tr><td>留 意 事 項</td><td>: スクーリングでの口頭発表</td></tr><tr><td>枚 数</td><td>: 口頭試問による</td></tr><tr><td>提 出 期 限</td><td>: 9 月</td></tr><tr><td colspan="3">ス ク ー リ ン グ : 9 月(予定): 期末報告の発表と討論</td></tr></table> | 第 1 回 | 課 題 | : 研究テーマに関するプロポーザル | 留 意 事 項 | : 特定課題研究報告書又は修士論文の方向性を定める | 枚 数 | : A4・5 枚程度 | 提 出 期 限 | : 5 月上旬 | 第 2 回 | 課 題 | : 関連文献のサーベイ | 留 意 事 項 | : | 枚 数 | : A4・5 枚程度 | 提 出 期 限 | : 6 月上旬 | 第 3 回 | 課 題 | : 関連文献のサーベイ | 留 意 事 項 | : | 枚 数 | : A4・5 枚程度 | 提 出 期 限 | : 7 月下旬 | 第 4 回 | 課 題 | : オリジナルな研究計画の報告 | 留 意 事 項 | : スクーリングでの口頭発表 | 枚 数 | : 口頭試問による | 提 出 期 限 | : 9 月 | ス ク ー リ ン グ : 9 月(予定): 期末報告の発表と討論 | | |
| 第 1 回 | 課 題 | : 研究テーマに関するプロポーザル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 | : 特定課題研究報告書又は修士論文の方向性を定める | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 | : A4・5 枚程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 | : 5 月上旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 回 | 課 題 | : 関連文献のサーベイ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 | : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 | : A4・5 枚程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 | : 6 月上旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 3 回 | 課 題 | : 関連文献のサーベイ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 | : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 | : A4・5 枚程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 | : 7 月下旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 4 回 | 課 題 | : オリジナルな研究計画の報告 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 留 意 事 項 | : スクーリングでの口頭発表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 枚 数 | : 口頭試問による | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 提 出 期 限 | : 9 月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ス ク ー リ ン グ : 9 月(予定): 期末報告の発表と討論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法・基準 | : | 提出レポートとスクーリング時の口頭試問により評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教 材 な ど | : | 受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備 考 | : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

■ EC087

| | | |
|---------|---|---|
| 科 目 名 | : | 経済政策特論演習Ⅳ（企業経済論） |
| 担 当 者 | : | 加茂 知幸 |
| 配 当 年 次 | : | 2 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | 現代企業が直面する問題のうち、受講者の特定課題研究報告書又は修士論文のテーマに関する問題およびその解決方法を研究し、特定課題研究報告書又は修士論文を完成することを目的とする。 |
| 授業内容・方法 | : | 受講者は合計 3 回の課題レポートの提出と 1 回のスクーリング（9 月に実施予定）の参加が要求される。授業の進行は次のとおり。受講者は、研究テーマに関するプロポーザルを作成し、それに基づいて関連文献についてサーベイし、それを踏まえた上で、期末のスクーリング時に自身の研究について報告することが求められる。研究を進めるうえで必要なアドバイス・指導は適宜行う。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> <div>第 1 回</div> <div> <div>課 題</div> <div>留 意 事 項</div> <div>枚 数</div> <div>提 出 期 限</div> </div> </div> <div> <div>第 2 回</div> <div> <div>課 題</div> <div>留 意 事 項</div> <div>枚 数</div> <div>提 出 期 限</div> </div> </div> <div> <div>第 3 回</div> <div> <div>課 題</div> <div>留 意 事 項</div> <div>枚 数</div> <div>提 出 期 限</div> </div> </div> <div> <div>第 4 回</div> <div> <div>課 題</div> <div>留 意 事 項</div> <div>枚 数</div> <div>提 出 期 限</div> </div> </div> <div> <div>ス ク ー リ ン グ</div> </div> |
| 評価方法・基準 | : | 提出レポートおよび中間報告(10 月)・口頭試問(2 月)により評価する。 |
| 教 材 な ど | : | 受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。 |
| 備 考 | : | |

■ EC092

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅰ（中小企業論） |
| 担 当 者 | ： 大西 辰彦 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 本年度休講 |
| 授 業 目 標 | ： 地域活性化の視点から地場産業の役割とその研究方法について考察する。 |
| 授業内容・方法 | ： ほぼ以下の日程により課題レポートが課せられ、期日までにその提出が義務付けられる。 一連の指示・レポート提出などはメールにて行う。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 地場産業の概念 留 意 事 項： テーマは別途指示する。 枚 数： A4・2 枚 提 出 期 限： 5 月上旬 </div> <div> 第2回 課 題： 地場産業の構造と課題 留 意 事 項： テーマは別途指示する。 枚 数： A4・2 枚 提 出 期 限： 6 月上旬 </div> <div> 第3回 課 題： 地場産業の調査方法 留 意 事 項： テーマは別途指示する。 枚 数： A4・2 枚 提 出 期 限： 7 月上旬 </div> <div> 第4回 課 題： 受講生が研究対象とする地場産業の概要と取り上げる理由 留 意 事 項： 枚 数： A4・2 枚 提 出 期 限： 8 月上旬 </div> ス ク ー リ ン グ ： 9 月の連続 2 日間・6 コマ実施を基本に受講生と相談の上で決定する。受講生は、演習Ⅰの4回の課題レポートを加筆、修正して発表する。 |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポートの内容(90%)と、担当教員への質疑など(約10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 井上秀次郎『地域活性化のための地場産業研究 一産地調査の方法序説一』唯学書房ほか必要に応じて指示する。 |
| 備 考 | ： 受講生の関心と熟度を考慮し、一部内容を変更することがある。 |

■ EC093

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅱ（中小企業論） |
| 担 当 者 | ： 大西 辰彦 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 本年度休講 |
| 授 業 目 標 | ： 演習Ⅰの成果を踏まえて、受講生が研究対象とする地場産業が立地する地域の概要及び当該産業の概略を明らかにする。 |
| 授業内容・方法 | ： ほぼ以下の日程により課題レポートが課せられ、期日までにその提出が義務付けられる。一連の指示・レポート提出などはメールにて行う。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 地域の概要と抱える問題点 留 意 事 項 ： 詳細は別途指示する。 枚 数 ： A4・3 枚 提 出 期 限 ： 10 月下旬 第2回 課 題 ： 地場産業の規模と特徴 留 意 事 項 ： 詳細は別途指示する。 枚 数 ： A4・3 枚 提 出 期 限 ： 11 月下旬 第3回 課 題 ： 地場産業の全国的規模と位置 留 意 事 項 ： 詳細は別途指示する。 枚 数 ： A4・3 枚 提 出 期 限 ： 12 月下旬 第4回 課 題 ： 地場産業の概略まとめと受講生が分析しようとする側面・切り口の紹介とその理由 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・3 枚 提 出 期 限 ： 1 月下旬 ス ク ー リ ン グ ： 2 月の連続 2 日間・6 コマ実施を基本に受講生と相談の上で決定する。受講生は、演習Ⅱの 4 回の課題レポートを加筆、修正して発表する。 |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポートの内容(90%)と、担当教員への質疑など(約 10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 中小企業庁編『中小企業白書 各年版』、経済産業省編『ものづくり白書 各年版』ほか必要に応じて指示する。 |
| 備 考 | ： 受講生の関心と熟度を考慮し、一部内容を変更することがある。 |

■ EC094

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | : | 経済政策特論演習Ⅲ（中小企業論） |
| 担 当 者 | : | 大西 辰彦 |
| 配 当 年 次 | : | 2 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 春学期 |
| 授 業 目 標 | : | 演習Ⅱの成果をもとに特定の側面・切り口に焦点をあてながら、研究対象となる地場産業の歴史を明らかにし、近年の生産・出荷動向とその原因を追究する。 |
| 授業内容・方法 | : | ほぼ以下の日程により課題レポートが課せられ、期日までにその提出が義務付けられる。一連の指示・レポート提出などはメールにて行う。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第1回 課 題 : 地場産業の歴史 留 意 事 項 : 詳細は別途指示する。 枚 数 : A4・3 枚 提 出 期 限 : 5 月上旬 </div> <div> 第2回 課 題 : 地場産業の近年の動向とその要因 留 意 事 項 : 詳細は別途指示する。 枚 数 : A4・3 枚 提 出 期 限 : 6 月上旬 </div> <div> 第3回 課 題 : 地場産業の抱える問題とその対応策 留 意 事 項 : 詳細は別途指示する。 枚 数 : A4・3 枚 提 出 期 限 : 7 月上旬 </div> <div> 第4回 課 題 : 演習Ⅱ～Ⅲの課題レポートのまとめ 留 意 事 項 : 枚 数 : A4・必要枚数 提 出 期 限 : 8 月上旬 </div> ス ク ー リ ン グ : 9 月の連続 2 日間・6 コマ実施を基本に受講生と相談の上で決定する。受講生は、これまでの演習の課題レポートをまとめて発表する。 |
| 評価方法・基準 | : | 提出レポートの内容(90%)と、担当教員への質疑など(約 10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | : | 中小企業庁編『中小企業白書 各年版』、経済産業省編『ものづくり白書 各年版』ほか必要に応じて指示する。 |
| 備 考 | : | 受講生の関心と熟度を考慮し、一部内容を変更することがある。 |

■ EC095

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅳ（中小企業論） |
| 担 当 者 | ： 大西 辰彦 |
| 配 当 年 次 | ： 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 受講生が研究対象とする地場産業について、特定の側面・切り口に焦点をあて、その展望を明らかにするとともに、演習Ⅰ～Ⅲでの考察について、全体として論理が一貫したものに仕上げる。 |
| 授業内容・方法 | ： ほぼ以下の日程により、特定課題研究報告書又は修士論文完成に向けた考察を行う。一連の指示・レポート提出などはメールにて行う。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課題 ： 地場産業の将来展望 留意事項 ： 詳細は別途指示する。 枚数 ： A4・3 枚 提出期限 ： 10 月中旬 </div> <div> 第2回 課題 ： 特定課題研究報告書又は修士論文の訂正、追加 留意事項 ： 枚数 ： A4・3 枚 提出期限 ： 11 月中旬 </div> <div> 第3回 課題 ： 特定課題研究報告書又は修士論文の訂正、追加 留意事項 ： 枚数 ： A4・3 枚 提出期限 ： 12 月中旬 </div> <div> 第4回 課題 ： 特定課題研究報告書又は修士論文の最終的な訂正、完成 留意事項 ： 枚数 ： A4・必要枚数 提出期限 ： 12 月下旬 </div> スクーリング ： 11 月実施の研究成果中間報告会での発表・コメントと、2 月実施の口頭試問での発表・質疑応答で代替する。 |
| 評価方法・基準 | ： 完成した特定課題研究報告書又は修士論文の内容(90%)と、担当教員への質疑など(約10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 送付するプリント |
| 備 考 | ： 受講生の関心と熟度を考慮し、一部内容を変更することがある。 |

■ EC096

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅰ（日本経済史） |
| 担 当 者 | ： 山内 太 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 受講生の研究テーマを絞り込み、テーマに関連する先行研究・資料を検討する。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生の研究テーマに関する文献・資料を広く収集し、検討する。受講生は、重要な文献や論文について読解・内容報告を行う。また研究テーマ・分析方法について考察し、担当者は助言する。スクーリングも実施する。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 問題関心、研究テーマ、分析方法に関するレポート作成 留 意 事 項： 受講生が抱えている問題関心や研究テーマ、やってみたいと考えている分析、関連する文献等についてのレポート作成。 枚 数： A4・5 枚 提 出 期 限： 5 月末 </div> <div> 第2回 課 題： 参考文献の書評レポート作成 留 意 事 項： 主要な参考文献を取り上げ、その内容をまとめると共に、その内容に関するコメントを附したレポート作成。 枚 数： A4・4 枚 提 出 期 限： 6 月末 </div> <div> 第3回 課 題： 参考文献の書評レポート作成 留 意 事 項： 主要な参考文献を取り上げ、その内容をまとめると共に、その内容に関するコメントを附したレポート作成。 枚 数： A4・4 枚 提 出 期 限： 7 月末 </div> <div> 第4回 課 題： 研究テーマ・分析方法を再検討し、先行研究・資料一覧を掲載したレポートの作成 留 意 事 項： 先行研究の検討を基に、研究テーマの再検討を行うと共に、研究テーマ、分析方法を改めて再確認する。同時に重要な先行研究、資料の一覧を作成する。 枚 数： A4・4 枚 提 出 期 限： 8 月末 </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 受講生と相談の上、9月の2日間・6コマで実施。受講生は、第四回レポートで挙げた複数の主要文献の書評、並びに研究テーマについて口頭で報告。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポートの内容(約 90%)と、発表および授業での質疑応答など(約 10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 受講生と相談の上決定する。 |
| 備 考 | ： 受講生の研究状況により、変更することがある。 |

■ EC097

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅱ（日本経済史） |
| 担 当 者 | ： 山内 太 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 受講生の研究テーマに関する先行研究の検討と資料・データの収集、情報整理、データベース作成を進めると共に、それらについての検討を行う。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生の研究テーマに関する先行研究の検討、資料やデータの収集を行う。そしてそれらの情報を整理し、データベースを作成すると共に、その検討をおこない、それに関するレポートを随時提出してもらう。最後に、その成果を「特定課題研究報告書又は修士論文のあらましと目次」としてレポートを提出する。スクーリングも実施する。 |
| 授 業 計 画 | <div> <div>第1回</div> <div>課 題</div> <div>： 主要な先行研究文献の書評レポート作成</div> <div>留 意 事 項</div> <div>： 自身の研究テーマとどのように関連するのかを意識しながら作成してください。</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・4 枚</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 10 月末</div> </div> <div> <div>第2回</div> <div>課 題</div> <div>： 資料・データー一覧作成。データベース作成。その解説。</div> <div>留 意 事 項</div> <div>： どのような資料・データが利用できそうか。そのうちどの資料を獲得しているかを確認してもらうとともに、それらから何が言えそうかについて報告してください。</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・4 枚</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 11 月末</div> </div> <div> <div>第3回</div> <div>課 題</div> <div>： 資料・データの検討並びにレポート作成。その解説。</div> <div>留 意 事 項</div> <div>： 収集した資料・データの検討と、そこから言えることについて、レポートを作成して下さい。</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・4 枚</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 12 月末</div> </div> <div> <div>第4回</div> <div>課 題</div> <div>： 資料・データの検討並びにレポート作成</div> <div>留 意 事 項</div> <div>： 引き続き収集した資料・データの検討と、そこから言えることについて、レポートを作成して下さい。</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・4 枚</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 1 月末</div> </div> <div> <div>ス ク ー リ ン グ</div> <div>： 受講生と相談の上、2月の2日間・6コマで実施。受講生は重要な先行研究の書評と作成したデーターベースの解説、並びに「特定課題研究報告書又は修士論文のあらましと目次」を口頭で報告。</div> </div> |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポートの内容(約 90%)と、発表および授業での質疑応答など(約 10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 受講生と相談の上決定する。 |
| 備 考 | ： 受講生の研究状況により、変更することがある。 |

■ EC098

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅲ（日本経済史） |
| 担 当 者 | ： 山内 太 |
| 配 当 年 次 | ： 2年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文作成を進める。 |
| 授業内容・方法 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文の原稿を作成する。受講生と担当者との間で、原稿ベースに議論をおこない、担当者が原稿に修正を指示する。最後に、その成果を「特定課題研究報告書又は修士論文」（一次原稿）として提出する。スクーリングも実施する。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 文献・資料・データベースの検討結果に関するレポート作成 留 意 事 項： 論文作成に必要な文献・資料を検討し、図表等も作成したうえで、その検討結果をレポートにまとめてください。 枚 数： 受講生が必要な枚数 提 出 期 限： 5月末 </div> <div> 第2回 課 題： 文献・資料・データベースの検討結果に関するレポート作成 留 意 事 項： 論文作成に必要な文献・資料を検討し、図表等も作成したうえで、その検討結果をレポートにまとめてください。 枚 数： 受講生が必要な枚数 提 出 期 限： 6月末 </div> <div> 第3回 課 題： 受講生による特定課題研究報告書又は修士論文原稿の作成 留 意 事 項： 特定課題研究報告書又は修士論文原稿の一部を提出してください。 枚 数： 受講生が必要な枚数 提 出 期 限： 7月末 </div> <div> 第4回 課 題： 受講生による特定課題研究報告書又は修士論文原稿の作成 留 意 事 項： 特定課題研究報告書又は修士論文原稿の一部を提出してください。 枚 数： 受講生が必要な枚数 提 出 期 限： 8月末 </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 受講生と相談の上、9月の2日間・6コマで実施。受講生は特定課題研究報告書又は修士論文（一次原稿）を作成・提出し、それについて口頭で報告。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポートの内容(約 90%)と、発表および授業での質疑応答など(約 10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 受講生と相談の上決定する。 |
| 備 考 | ： 受講生の研究状況により、変更することがある。 |

■ EC099

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 経済政策特論演習Ⅳ（日本経済史） |
| 担 当 者 | ： 山内 太 |
| 配 当 年 次 | ： 2年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文を完成する。 |
| 授業内容・方法 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文作成について、本文・脚注記入・参考文献一覧作成・要旨作成を行い、特定課題研究報告書又は修士論文として完成する。ただし、受講生と担当者との間で数回、原稿ベースに議論し、最終的な原稿の追加・削除・訂正をおこなう。最後に「特定課題研究報告書又は修士論文」（完成原稿）を期日までに提出する。なお、10月に中間発表を、2月に口頭試問が課せられる。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 中間発表のためのレジュメ作成 留 意 事 項： 中間発表で行う内容を確認し、その際に用いるレジュメを提出してもらいます。 枚 数： 受講生が必要と考える枚数 提 出 期 限： 中間報告会2週間前 </div> <div> 第2回 課 題： 特定課題研究報告書又は修士論文一次原稿の修正とその内容の報告。 留 意 事 項： 中間報告会で受けた指摘を受け、原稿案に対する修正点の確認と、その内容についてレポートにまとめて下さい。 枚 数： 受講生が必要と考える枚数 提 出 期 限： 11月末 </div> <div> 第3回 課 題： 特定課題研究報告書又は修士論文（二次原稿）の提出 留 意 事 項： それまでの指摘を考慮し、修正した二次原稿を提出してもらいます。 枚 数： 受講生が必要と考える枚数 提 出 期 限： 12月末 </div> <div> 第4回 課 題： 成果として「特定課題研究報告書又は修士論文」（完成原稿）の提出 留 意 事 項： 二次原稿への担当者の指摘を考慮し、修正した完成原稿を提出してもらいます。 枚 数： 受講生が必要と考える枚数。 提 出 期 限： 1月中旬 ス ク ー リ ン グ： 10月の中間発表・2月の口頭試問により代替。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文の内容(約 90%)と、発表および授業での質疑応答など(約 10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 受講生と相談の上決定する。 |
| 備 考 | ： 受講生の研究状況により、変更することがある。 |

■ EC100

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習 I （財政学） |
| 担 当 者 | ： 八塩 裕之 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 受講生の研究テーマについて方向付けを行う。 |
| 授業内容・方法 | ： 研究テーマとする制度の現状を把握し、そのテーマに関する先行研究のサーベイを行う。それを通じて、受講生自身の研究内容を固めていく。4 回のレポートを実施する予定だが、必要に応じてミニレポートの提出を求めることがある。 |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 課 題 ： 受講生の問題意識の整理。研究テーマの検討に関するレポート。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 5 月上旬 第 2 回 課 題 ： 研究テーマに関する先行研究のサーベイ。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・10 枚程度 提 出 期 限 ： 6 月上旬 第 3 回 課 題 ： 研究テーマに関する先行研究のサーベイ。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・10 枚程度 提 出 期 限 ： 7 月上旬 第 4 回 課 題 ： 自身の研究テーマに関するレポート。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・15 枚程度 提 出 期 限 ： 8 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： 相談の上、9 月に実施。演習 I の内容を踏まえた報告を求める。 |
| 評価方法・基準 | ： レポート 80%、スクーリング 20% |
| 教 材 な ど | ： 受講生の研究テーマに応じて設定する。 |
| 備 考 | ： |

■ EC101

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | ： | 財政・金融特論演習Ⅱ（財政学） |
| 担 当 者 | ： | 八塩 裕之 |
| 配 当 年 次 | ： | 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： | 2 |
| 単 位 数 | ： | 2 |
| 開 講 期 間 | ： | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： | 受講生の研究テーマに関して、掘り下げて検討を行う |
| 授業内容・方法 | ： | 各自の研究テーマに関して検討を行う。レポートの内容は受講生と協議の上、決定するが、制度の研究や先行研究のサーベイ、データ収集や分析方法の検討が想定される。4回のレポートを実施する予定だが、必要に応じてミニレポートの提出を求めることがある。 |
| 授 業 計 画 | ： | <div> <div>第1回</div> <div> <div>課 題</div> <div>：</div> <div>研究テーマに関する論点整理</div> </div> <div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div></div> </div> <div> <div>枚 数</div> <div>：</div> <div>A4・10～15 枚程度</div> </div> <div> <div>提 出 期 限</div> <div>：</div> <div>11 月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第2回</div> <div> <div>課 題</div> <div>：</div> <div>研究テーマの検討レポート（1）</div> </div> <div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div></div> </div> <div> <div>枚 数</div> <div>：</div> <div>A4・10～15 枚程度</div> </div> <div> <div>提 出 期 限</div> <div>：</div> <div>12 月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第3回</div> <div> <div>課 題</div> <div>：</div> <div>研究テーマの検討レポート（2）</div> </div> <div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div></div> </div> <div> <div>枚 数</div> <div>：</div> <div>A4・10～15 枚程度</div> </div> <div> <div>提 出 期 限</div> <div>：</div> <div>1 月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第4回</div> <div> <div>課 題</div> <div>：</div> <div>研究テーマの検討レポート（3）</div> </div> <div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div></div> </div> <div> <div>枚 数</div> <div>：</div> <div>A4・15 枚程度</div> </div> <div> <div>提 出 期 限</div> <div>：</div> <div>2 月上旬</div> </div> </div> <div> <div>ス ク ー リ ン グ</div> <div>：</div> <div>相談の上、2月に実施。演習Ⅱの内容を踏まえて報告を求める。今後の進め方などについて検討を行う。</div> </div> |
| 評価方法・基準 | ： | レポート 80%、スクーリング 20% |
| 教 材 な ど | ： | 受講生の研究テーマに応じて設定する。 |
| 備 考 | ： | |

■ EC102

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅲ（財政学） |
| 担 当 者 | ： 八塩 裕之 |
| 配 当 年 次 | ： 2年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 演習Ⅳにおける修了論文執筆に向けて、受講生の課題を更に掘り下げて検討する |
| 授業内容・方法 | ： 各自の研究テーマに関して検討を行う。先行研究の整理、データの分析を具体的に進めること、修了論文の構成を固めることなどを課題とする。4 回のレポートを実施する予定だが、必要に応じてミニレポートの提出を求めることがある。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 研究テーマに関する先行研究整理 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・10～15 枚程度 提 出 期 限 ： 5 月上旬 第2回 課 題 ： 研究テーマの検討レポート（1） 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・10～15 枚程度 提 出 期 限 ： 6 月上旬 第3回 課 題 ： 研究テーマの検討レポート（2） 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・10～15 枚程度 提 出 期 限 ： 7 月上旬 第4回 課 題 ： 研究テーマの検討レポート（3） 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・10～15 枚程度 提 出 期 限 ： 8 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： 演習Ⅳにおける修了論文執筆に向けた検討を行う。演習Ⅲの内容を振り返り、論文執筆に向けて足りない部分、改善が必要な部分などを具体的に検討する。 |
| 評価方法・基準 | ： レポート 80%、スクーリング 20% |
| 教 材 な ど | ： 受講生の研究テーマに応じて設定する。 |
| 備 考 | ： |

■ EC103

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅳ（財政学） |
| 担 当 者 | ： 八塩 裕之 |
| 配 当 年 次 | ： 2年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 修了論文を完成させる。 |
| 授業内容・方法 | ： 各自の研究テーマに関して検討を行う。修了論文を完成させることを目的とし、4 回のレポートをそのためのステップと位置付ける。また、中間報告会は貴重な論文修正の機会であり、それを踏まえてさらに論文の改善を目指す。また、必要に応じてミニレポートの提出を求めることがある。 |
| 授 業 計 画 | <div> <div>第1回</div> <div> <div>課 題</div> <div>： 修了論文の構成整理</div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・5 枚程度</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 11 月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第2回</div> <div> <div>課 題</div> <div>： 修了論文の執筆</div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・20 枚程度</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 12 月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第3回</div> <div> <div>課 題</div> <div>： 修了論文の執筆（草稿の完成）</div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・40 枚程度</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 12 月下旬</div> </div> </div> <div> <div>第4回</div> <div> <div>課 題</div> <div>： 修了論文の執筆（草稿の修正）</div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・40 枚程度</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 1 月上旬</div> </div> </div> <div> <div>ス ク ー リ ン グ</div> <div>： 中間報告会・口述諮問で代替する。</div> </div> |
| 評価方法・基準 | ： 修了論文で評価する |
| 教 材 な ど | ： 受講生の研究テーマに応じて設定する。 |
| 備 考 | ： |

■ EC104

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅰ（地方財政論） |
| 担 当 者 | ： 菅原 宏太 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 地方財政研究の研究対象および分析手法の習得 |
| 授業内容・方法 | ： 文献レビューを中心にして、地方財政研究の研究対象および分析手法を習得する。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 地方財政研究の学術論文を4本読み、著者の問題意識、分析手法、分析結果についてまとめる。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4枚 提 出 期 限 ： 5月上旬 第2回 課 題 ： 地方財政研究の学術論文を4本読み、著者の問題意識、分析手法、分析結果についてまとめる。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4枚 提 出 期 限 ： 6月上旬 第3回 課 題 ： 地方財政研究の学術論文を4本読み、著者の問題意識、分析手法、分析結果についてまとめる。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4枚 提 出 期 限 ： 7月上旬 第4回 課 題 ： 地方財政研究の学術論文を4本読み、著者の問題意識、分析手法、分析結果についてまとめる。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4枚 提 出 期 限 ： 8月上旬 ス ク ー リ ン グ ： 相談の上、9月の連続2日間・6コマで実施。受講生は、演習Ⅰの成果を発表。 |
| 評価方法・基準 | ： 課題レポート(全4回)：70%、 期末レポート(スクーリング時)：30% |
| 教 材 な ど | ： 受講生が収集した、もしくは担当教員が指定した学術論文 |
| 備 考 | ： |

■ EC105

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅱ（地方財政論） |
| 担 当 者 | ： 菅原 宏太 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文のテーマの構築 |
| 授業内容・方法 | ： 文献レビューを中心にして、特定課題研究報告書又は修士論文のテーマを構築する。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 地方財政研究の学術論文を4本読み、著者の問題意識、分析手法、分析結果についてまとめる。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4枚 提 出 期 限 ： 11月上旬 第2回 課 題 ： 地方財政研究の学術論文を4本読み、著者の問題意識、分析手法、分析結果についてまとめる。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4枚 提 出 期 限 ： 12月上旬 第3回 課 題 ： 地方財政研究の学術論文を4本読み、著者の問題意識、分析手法、分析結果についてまとめる。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4枚 提 出 期 限 ： 1月上旬 第4回 課 題 ： 地方財政研究の学術論文を4本読み、著者の問題意識、分析手法、分析結果についてまとめる。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4枚 提 出 期 限 ： 2月上旬 ス ク ー リ ン グ ： 相談の上、2月の連続2日間・6コマで実施。受講生は、演習Ⅱの成果を発表。 |
| 評価方法・基準 | ： 課題レポート（全4回）：70%、 期末レポート（スクーリング時）：30% |
| 教 材 な ど | ： 受講生が収集した、もしくは担当教員が指定した学術論文 |
| 備 考 | ： |

■ EC106

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅲ（地方財政論） |
| 担 当 者 | ： 菅原 宏太 |
| 配 当 年 次 | ： 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文のためのデータ分析 |
| 授業内容・方法 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文のためのデータ分析等を行う。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 今までにレビューした中から特定課題研究報告書又は修士論文のテーマに沿った学術論文を抽出し、文献レビューを作成する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4 枚 提 出 期 限 ： 4 月末 第2回 課 題 ： 今までにレビューした中から特定課題研究報告書又は修士論文のテーマに沿った学術論文を抽出し、文献レビューを作成する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4 枚 提 出 期 限 ： 5 月末 第3回 課 題 ： テーマに基づいた現状分析、制度的課題の把握を行う。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4 枚 提 出 期 限 ： 6 月末 第4回 課 題 ： 「特定課題研究報告書又は修士論文のあらまし 研究の動機と背景」についてのレポートを提出する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・4 枚 提 出 期 限 ： 7 月末 ス ク ー リ ン グ ： 相談の上、9 月の連続 2 日間・6 コマで実施。受講生は、演習Ⅲの成果を発表。 |
| 評価方法・基準 | ： 文献レビュー：40%、 期末レポート：40%、 スクーリング時の発表と質疑応答：20% |
| 教 材 な ど | ： 受講生が収集した、もしくは担当教員が指定した学術論文 |
| 備 考 | ： |

■ EC107

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | ： | 財政・金融特論演習Ⅳ（地方財政論） |
| 担 当 者 | ： | 菅原 宏太 |
| 配 当 年 次 | ： | 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： | 2 |
| 単 位 数 | ： | 2 |
| 開 講 期 間 | ： | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： | 特定課題研究報告書又は修士論文の完成 |
| 授業内容・方法 | ： | 特定課題研究報告書又は修士論文の基幹となる分析を完成する。 |
| 授 業 計 画 | ： | <div> 第1回 課 題： 特定課題研究報告書又は修士論文のテーマに沿った理論・実証分析 <div> 留 意 事 項： <div> 枚 数： A4・5 枚 </div> <div> 提 出 期 限： 10 月末 </div> </div> </div> <div> 第2回 課 題： 分析結果の解釈とまとめ <div> 留 意 事 項： <div> 枚 数： A4・5 枚 </div> <div> 提 出 期 限： 11 月末 </div> </div> </div> <div> 第3回 課 題： 現状の問題点と分析結果との整理 <div> 留 意 事 項： <div> 枚 数： A4・5 枚 </div> <div> 提 出 期 限： 12 月末 </div> </div> </div> <div> 第4回 課 題： 特定課題研究報告書又は修士論文の完成 <div> 留 意 事 項： <div> 枚 数： 特定課題研究報告書又は修士論文 </div> <div> 提 出 期 限： 1 月上旬 </div> </div> </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 10 月に中間報告会、2 月に口述試問により代替 </div> |
| 評価方法・基準 | ： | 特定課題研究報告書又は修士論文：80%、 スクーリング時の発表と質疑応答：20% |
| 教 材 な ど | ： | 収集された先行研究論文、分析結果など |
| 備 考 | ： | |

■ EC108

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅰ（公共経済学） |
| 担 当 者 | ： 飯田 善郎 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 演習Ⅰ、Ⅱでは公共経済学特論で学ぶ公共経済学のテーマをより高度な理論に基づいて理解する。 |
| 授業内容・方法 | ： 演習Ⅰでは特に市場の失敗と政府の役割に焦点を当て論文もしくは専門書の講読を行う。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 厚生経済学の基本定理と課税による市場のゆがみについてまとめる。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 5 月中旬 第2回 課 題 ： 自然独占とプライスキップ、ヤードスティック、公正報酬率など各種規制についてまとめる。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 6 月中旬 第3回 課 題 ： 外部性と補償メカニズム、コースの定理についてまとめる。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 7 月中旬 第4回 課 題 ： 公共財の性質と最適供給条件、自発的供給の問題、準公共財についてまとめる。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 8 月中旬 ス ク ー リ ン グ ： 相談の上、9月の連続2日間・6コマで実施。 |
| 評価方法・基準 | ： 提出物によって判断する。 |
| 教 材 な ど | ： 講読する論文・書籍については受講者の希望を勘案し柔軟に対応する。 |
| 備 考 | ： |

■ EC109

| | | |
|---------|---|---|
| 科 目 名 | ： | 財政・金融特論演習Ⅱ（公共経済学） |
| 担 当 者 | ： | 飯田 善郎 |
| 配 当 年 次 | ： | 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： | 2 |
| 単 位 数 | ： | 2 |
| 開 講 期 間 | ： | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： | 主に公共選択、マクロ動学理論に基づく政府の役割について学ぶ。同時に特定課題研究報告書又は修士論文作成のための準備をすすめる論文作成の基礎的な技法を学ぶ。 |
| 授業内容・方法 | ： | 参考文献・論文を講読する。理論的枠組みを学ぶだけでなく、それを実際の税制度や料金規制、選挙制度を評価するための手段として利用する力を養うことに力を入れる。 |
| 授 業 計 画 | ： | <div> 第1回 課 題：公共選択の理論、投票行動の理論についてまとめる。 留 意 事 項： 枚 数：A4・5 枚 提 出 期 限：11 月中旬 </div> <div> 第2回 課 題：政党と官僚の戦略的行動とその影響についてまとめる。 留 意 事 項： 枚 数：A4・5 枚 提 出 期 限：12 月中旬 </div> <div> 第3回 課 題：公債を巡る議論、公債の中立命題についてまとめる。 留 意 事 項： 枚 数：A4・5 枚 提 出 期 限：1 月中旬 </div> <div> 第4回 課 題：政府支出のマクロ効果についてまとめる。 留 意 事 項： 枚 数：A4・5 枚 提 出 期 限：2 月中旬 </div> ス ク ー リ ン グ ：相談の上、2 月の連続 2 日間・6 コマで実施。 |
| 評価方法・基準 | ： | 提出物によって判断する。 |
| 教 材 な ど | ： | 講読する論文・書籍については受講者の希望を勘案し柔軟に対応する予定である。 |
| 備 考 | ： | |

■ EC110

| | | |
|---------|---|---|
| 科 目 名 | ： | 財政・金融特論演習Ⅲ（公共経済学） |
| 担 当 者 | ： | 飯田 善郎 |
| 配 当 年 次 | ： | 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： | 2 |
| 単 位 数 | ： | 2 |
| 開 講 期 間 | ： | 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： | 受講者の問題意識を考慮しながらテーマを絞って学習の深化をすすめ、特定課題研究報告書又は修士論文の作成に着手する。 |
| 授業内容・方法 | ： | 関連論文の読み込みを行いながら目的意識の絞り込みと深化を図る。これまで以上に担当教員との密な連絡を求める。 |
| 授 業 計 画 | ： | <div> 第1回 課 題： 研究テーマを定め、目的意識を整理してまとめる。 留 意 事 項： 枚 数： A4・2 枚 提 出 期 限： 4 月下旬 </div> <div> 第2回 課 題： 関連研究のサーベイを行う。自分の研究の位置づけを明確にする。 留 意 事 項： 枚 数： A4・4 枚 提 出 期 限： 5 月下旬 </div> <div> 第3回 課 題： 関連研究のサーベイを引き続き行い、自らのテーマに新規の貢献があることを示す。 留 意 事 項： 枚 数： A4・5 枚 提 出 期 限： 6 月下旬 </div> <div> 第4回 課 題： 自分の研究の概要を構成し、分析手法について述べる。 留 意 事 項： 枚 数： A4・8 枚 提 出 期 限： 8 月下旬 </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 相談の上、9 月の連続 2 日間・6 コマで実施。特定課題研究報告書又は修士論文のテーマに基づき内容を調整する。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： | 提出物によって判断する。 |
| 教 材 な ど | ： | 講読する論文・書籍については受講者の希望を勘案し柔軟に対応する。 |
| 備 考 | ： | |

■ EC111

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅳ（公共経済学） |
| 担 当 者 | ： 飯田 善郎 |
| 配 当 年 次 | ： 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文指導、関連研究の学習を行う。演習Ⅲに引き続き指導教員との意見交換を継続しながら特定課題研究報告書又は修士論文を完成させる。 |
| 授業内容・方法 | ： 理論、実証あるいは実験的手法を用いて分析を進める。必要に応じてそのための参考文献や論文の講読にも時間を裂く。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 論文に利用する実証、理論の分析手法のテキスト、論文を選び、精読しまとめながら理解する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・10 枚 提 出 期 限 ： 10 月下旬 第2回 課 題 ： 引き続き適切な参考文献を読みながら、それを自らの論文に取り入れて分析をする。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・10 枚 提 出 期 限 ： 11 月下旬 第3回 課 題 ： 分析を続け、結果の解釈を行う。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・10 枚 提 出 期 限 ： 12 月下旬 第4回 課 題 ： 研究成果を社会的提言に結びつける。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5 枚 提 出 期 限 ： 1 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： 10 月の中間報告会、2 月の口述試問により代替。 |
| 評価方法・基準 | ： 演習を通じての提出物と最終的な特定課題研究報告書又は修士論文によって判断する。 |
| 教 材 な ど | ： 講読する論文・書籍については受講者の希望を勘案し柔軟に対応する。 |
| 備 考 | ： |

■ EC112

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅰ（金融論） |
| 担 当 者 | ： 福田 充男 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 受講生の研究テーマに関する文献により、予定の研究テーマ・分析方法などの適否を検討する。検討の結果によっては、研究テーマや分析方法を変更することもある。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生の研究テーマに関する文献を広く収集し、検討する。受講生は、最新かつ重要な文献を発表し、研究テーマ・分析方法について再考察し、担当者は助言する。最後に研究テーマおよびその意義についてレポートを提出する。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 文献の検索・収集 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・数枚程度 提 出 期 限 ： 5 月中旬 第2回 課 題 ： 文献の講読・受講生による発表 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・数枚程度 提 出 期 限 ： 6 月中旬 第3回 課 題 ： 研究テーマ・分析方法の検討 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・数枚程度 提 出 期 限 ： 7 月中旬 第4回 課 題 ： 研究テーマについてのレポート提出 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・数枚程度 提 出 期 限 ： 8 月中旬 ス ク ー リ ン グ ： 受講生と相談の上、9 月の 2 日間・6 コマで実施。 |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポートの内容と、発表および授業での質疑応答などにより総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 研究テーマに関する各種文献 |
| 備 考 | ： |

■ EC113

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | : | 財政・金融特論演習Ⅱ（金融論） |
| 担 当 者 | : | 福田 充男 |
| 配 当 年 次 | : | 1 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | 受講生の確定した研究テーマについて、基礎的な知識を修得する。 |
| 授業内容・方法 | : | 受講生の研究テーマに関する基本となる文献をサーベイする。受講生は担当者から指示された文献について発表しレポートを提出する。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第1回 <div> 課 題 : 必要文献の入手 </div> <div> 留 意 事 項 : </div> <div> 枚 数 : A4・数枚程度 </div> <div> 提 出 期 限 : 10 月中旬 </div> </div> <div> 第2回 <div> 課 題 : 受講生による文献の講読・発表 </div> <div> 留 意 事 項 : </div> <div> 枚 数 : A4・数枚程度 </div> <div> 提 出 期 限 : 11 月中旬 </div> </div> <div> 第3回 <div> 課 題 : 研究計画の作成 </div> <div> 留 意 事 項 : </div> <div> 枚 数 : A4・数枚程度 </div> <div> 提 出 期 限 : 12 月中旬 </div> </div> <div> 第4回 <div> 課 題 : 研究テーマに関連する論文に関するレポート提出 </div> <div> 留 意 事 項 : </div> <div> 枚 数 : A4・数枚程度 </div> <div> 提 出 期 限 : 1 月中旬 </div> </div> <div> ス ク ー リ ン グ : 受講生と相談の上、2 月の 2 日間・6 コマで実施。 </div> |
| 評価方法・基準 | : | 提出レポートの内容と、発表および授業での質疑応答などにより総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | : | 研究テーマに関する各種文献 |
| 備 考 | : | |

■ EC114

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | : | 財政・金融特論演習Ⅲ（金融論） |
| 担 当 者 | : | 福田 充男 |
| 配 当 年 次 | : | 2 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 春学期 |
| 授 業 目 標 | : | 受講生の研究計画に沿って特定課題研究報告書又は修士論文を作成にとりかかる。 |
| 授業内容・方法 | : | 受講生と担当者との間で、原稿ベースに議論をおこない、担当者が原稿に修正を指示する。最後に、その成果をレポートにして提出する。スクーリングも実施する。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第1回 課題 : 各種文献・資料の検討・図表などの作成 </div> <div> 留意事項 : </div> <div> 枚数 : A4・数枚程度 </div> <div> 提出期限 : 5月中旬 </div> <div> 第2回 課題 : 受講生による原稿の作成とその内容の発表 </div> <div> 留意事項 : </div> <div> 枚数 : A4・20枚程度 </div> <div> 提出期限 : 6月中旬 </div> <div> 第3回 課題 : 担当者との質疑応答・原稿に対する担当者による修正 </div> <div> 留意事項 : </div> <div> 枚数 : A4・20枚程度 </div> <div> 提出期限 : 7月中旬 </div> <div> 第4回 課題 : 一次原稿を提出 </div> <div> 留意事項 : </div> <div> 枚数 : A4・20枚程度 </div> <div> 提出期限 : 8月中旬 </div> <div> スクーリング : 受講生と相談の上、9月の2日間・6コマで実施。 </div> |
| 評価方法・基準 | : | 提出レポートの内容と、発表および授業での質疑応答などにより総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | : | 研究テーマに関する各種文献・資料 |
| 備 考 | : | |

■ EC115

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---|---|-----|---|----------------------|------|---|--------|-----|---|---------|------|---|--|-----|---|---------------------------|------|---|--------|-----|---|-----------|------|---|--|-----|---|--------------------------|------|---|--------|-----|---|-----------|------|---|--|-----|---|--------------------|------|---|-------|-----|---|-----------|------|---|--|---|---|-------------------------|
| 科 目 名 | : | 財政・金融特論演習Ⅳ（金融論） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担 当 者 | : | 福田 充男 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 配 当 年 次 | : | 2 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 週 時 間 数 | : | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単 位 数 | : | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授 業 目 標 | : | 受講生の研究作成計画に沿って、特定課題研究報告書又は修士論文を完成する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業内容・方法 | : | 受講生と担当者との間で数回、原稿をベースにして議論し、最終的な原稿の追加・削除・訂正をおこなう。なお、11 月に中間発表を、2 月に口頭試問が課せられる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第1回 <table> <tr> <td>課 題</td><td>:</td><td>各種文献・資料の検討・図表などの追加作成</td></tr> <tr> <td>留意事項</td><td>:</td><td>10 月中旬</td></tr> <tr> <td>枚 数</td><td>:</td><td>A4・数枚程度</td></tr> <tr> <td>提出期限</td><td>:</td><td></td></tr> </table> </div> <div> 第2回 <table> <tr> <td>課 題</td><td>:</td><td>受講生による原稿に対する追加・削除とその内容の発表</td></tr> <tr> <td>留意事項</td><td>:</td><td>11 月中旬</td></tr> <tr> <td>枚 数</td><td>:</td><td>A4・20 枚程度</td></tr> <tr> <td>提出期限</td><td>:</td><td></td></tr> </table> </div> <div> 第3回 <table> <tr> <td>課 題</td><td>:</td><td>担当者との質疑応答・原稿に対する担当者による修正</td></tr> <tr> <td>留意事項</td><td>:</td><td>12 月中旬</td></tr> <tr> <td>枚 数</td><td>:</td><td>A4・20 枚程度</td></tr> <tr> <td>提出期限</td><td>:</td><td></td></tr> </table> </div> <div> 第4回 <table> <tr> <td>課 題</td><td>:</td><td>特定課題研究報告書又は修士論文の提出</td></tr> <tr> <td>留意事項</td><td>:</td><td>1 月中旬</td></tr> <tr> <td>枚 数</td><td>:</td><td>A4・20 枚程度</td></tr> <tr> <td>提出期限</td><td>:</td><td></td></tr> </table> </div> <div> ス ク ー リ ン グ <table> <tr> <td>:</td><td>:</td><td>11 月の中間発表・2 月の口頭試問により代替</td></tr> </table> </div> | 課 題 | : | 各種文献・資料の検討・図表などの追加作成 | 留意事項 | : | 10 月中旬 | 枚 数 | : | A4・数枚程度 | 提出期限 | : | | 課 題 | : | 受講生による原稿に対する追加・削除とその内容の発表 | 留意事項 | : | 11 月中旬 | 枚 数 | : | A4・20 枚程度 | 提出期限 | : | | 課 題 | : | 担当者との質疑応答・原稿に対する担当者による修正 | 留意事項 | : | 12 月中旬 | 枚 数 | : | A4・20 枚程度 | 提出期限 | : | | 課 題 | : | 特定課題研究報告書又は修士論文の提出 | 留意事項 | : | 1 月中旬 | 枚 数 | : | A4・20 枚程度 | 提出期限 | : | | : | : | 11 月の中間発表・2 月の口頭試問により代替 |
| 課 題 | : | 各種文献・資料の検討・図表などの追加作成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 留意事項 | : | 10 月中旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 枚 数 | : | A4・数枚程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 提出期限 | : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 課 題 | : | 受講生による原稿に対する追加・削除とその内容の発表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 留意事項 | : | 11 月中旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 枚 数 | : | A4・20 枚程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 提出期限 | : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 課 題 | : | 担当者との質疑応答・原稿に対する担当者による修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 留意事項 | : | 12 月中旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 枚 数 | : | A4・20 枚程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 提出期限 | : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 課 題 | : | 特定課題研究報告書又は修士論文の提出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 留意事項 | : | 1 月中旬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 枚 数 | : | A4・20 枚程度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 提出期限 | : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| : | : | 11 月の中間発表・2 月の口頭試問により代替 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法・基準 | : | 特定課題研究報告書又は修士論文の内容と質疑応答などにより総合的に評価する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教 材 な ど | : | 研究テーマに関する各種文献・資料 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備 考 | : | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

■ EC116

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅰ（企業金融論） |
| 担 当 者 | ： 坂井 功治 |
| 配 当 年 次 | ： 1年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 受講生の興味分野周辺の文献・資料を広くあたり、受講生の問題意識の明確化と研究テーマの絞り込みを目標とする。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生の興味分野にもとづいて、文献・資料（論文、著書、政府公表資料、研究レポート、新聞雑誌記事、など）を提示するので、それらの文献・資料を読みながら、論点の整理と要約、意見と反論、未解決の問題と課題、についてレポートにまとめ報告する。これらの作業を通じて、受講生の問題意識を明確にし、研究テーマを絞り込む。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 興味分野・関心分野の報告 留 意 事 項： この時点では、必ずしも具体的な研究テーマである必要はなく、漠然とした興味・関心でよい。 枚 数： 提 出 期 限： 5月上旬 </div> <div> 第2回 課 題： 文献・資料のまとめ（1） 留 意 事 項： 文献・資料（論文、著書、政府公表資料、研究レポート、新聞雑誌記事、など）は、受講生と相談のうえ提示する。 枚 数： 提 出 期 限： 6月上旬 </div> <div> 第3回 課 題： 文献・資料のまとめ（2） 留 意 事 項： 文献・資料（論文、著書、政府公表資料、研究レポート、新聞雑誌記事、など）は、受講生と相談のうえ提示する。 枚 数： 提 出 期 限： 7月上旬 </div> <div> 第4回 課 題： 問題意識の明確化と研究テーマの絞り込み 留 意 事 項： この時点で、自身の問題意識をある程度整理して明確にしておくとともに、研究テーマも具体的なものに絞り込む。 枚 数： 提 出 期 限： 8月上旬 </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 受講生と相談のうえ、9月の連続2日間・6コマで実施。受講生は演習Ⅰの成果を発表。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： レポート（80%）、スクーリング（20%） |
| 教 材 な ど | ： 受講生と相談のうえ提示する。 |
| 備 考 | ： 受講に際しては、詳細に指示する。また、受講生の状況などにより、一部内容を変更することがある。 |

■ EC117

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅱ（企業金融論） |
| 担 当 者 | ： 坂井 功治 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 演習Ⅰで絞り込んだ研究テーマについて、先行研究のサーベイを行い、研究計画書を作成する。 |
| 授業内容・方法 | ： 演習Ⅰで絞り込んだ研究テーマについて、既存の理論研究および実証研究のサーベイを行い、研究テーマの学術的な位置づけ、既存の理論仮説、既存の実証結果、未解明の点、についてレポートにまとめ報告する。これらのサーベイを通して、受講生の問題意識、研究目的、研究方法を具体的なものにし、研究計画書を作成する。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題 ： 先行研究のサーベイ（1） 留 意 事 項 ： 先行研究（理論研究・実証研究）は、受講生と相談のうえ提示する。 枚 数 ： 提 出 期 限 ： 11 月上旬 </div> <div> 第2回 課 題 ： 先行研究のサーベイ（2） 留 意 事 項 ： 先行研究（理論研究・実証研究）は、受講生と相談のうえ提示する。 枚 数 ： 提 出 期 限 ： 12 月上旬 </div> <div> 第3回 課 題 ： 先行研究のサーベイ（3） 留 意 事 項 ： 先行研究（理論研究・実証研究）は、受講生と相談のうえ提示する。 枚 数 ： 提 出 期 限 ： 1 月上旬 </div> <div> 第4回 課 題 ： 研究計画書 留 意 事 項 ： この時点で、問題意識、研究目的、研究方法をある程度具体的なものにしておくとともに、研究の準備をはじめる。 枚 数 ： 提 出 期 限 ： 2 月上旬 </div> スクーリング ： 受講生と相談のうえ、2月の連続2日間・6コマで実施。受講生は演習Ⅱの成果を発表。 |
| 評価方法・基準 | ： レポート（80%）、スクーリング（20%） |
| 教 材 な ど | ： 受講生と相談のうえ提示する。 |
| 備 考 | ： 受講に際しては、詳細に指示する。また、受講生の状況などにより、一部内容を変更することがある。 |

■ EC118

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅲ（企業金融論） |
| 担 当 者 | ： 坂井 功治 |
| 配 当 年 次 | ： 2年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 演習Ⅱで作成した研究計画書にもとづいて、研究を進める。 |
| 授業内容・方法 | ： 演習Ⅱで作成した研究計画書にもとづいて、実際に研究を進める。具体的には、理論モデルと仮説、統計手法と計量手法、データの収集と構築、基本統計と記述統計、について進捗状況をまとめ報告する。これらの作業とスクーリングを通して、10月の中間報告に備える。 |
| 授 業 計 画 | <div> <div>第1回</div> <div> <div>課 題</div> <div>： 理論モデルと仮説</div> <div>留 意 事 項</div> <div>： 依拠する理論モデルを選定し、その仕組みを理解するとともに、検証すべき仮説を立てる。</div> <div>枚 数</div> <div>：</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 5月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第2回</div> <div> <div>課 題</div> <div>： 統計手法と計量手法</div> <div>留 意 事 項</div> <div>： 依拠する統計手法と計量手法を選定し、その仕組みと方法を理解する。</div> <div>枚 数</div> <div>：</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 6月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第3回</div> <div> <div>課 題</div> <div>： データの収集と構築</div> <div>留 意 事 項</div> <div>： 分析に必要なデータを収集し、データセットを構築する。</div> <div>枚 数</div> <div>：</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 7月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第4回</div> <div> <div>課 題</div> <div>： 記述統計</div> <div>留 意 事 項</div> <div>： 分析の事前準備となる記述統計量をとり、データの基本的な性質と大まかな傾向を知る。</div> <div>枚 数</div> <div>：</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 8月上旬</div> </div> </div> <div> <div>ス ク ー リ ン グ</div> <div>： 受講生と相談のうえ、9月の連続2日間・6コマで実施。受講生は演習Ⅲの成果を発表。</div> </div> |
| 評価方法・基準 | ： レポート（80%）、スクーリング（20%） |
| 教 材 な ど | ： 受講生と相談のうえ提示する。 |
| 備 考 | ： 受講に際しては、詳細に指示する。また、受講生の状況などにより、一部内容を変更することがある。 |

■ EC119

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅳ（企業金融論） |
| 担 当 者 | ： 坂井 功治 |
| 配 当 年 次 | ： 2年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 演習Ⅲより引き続き研究を進めるとともに、特定課題研究報告書又は修士論文を完成させる。 |
| 授業内容・方法 | ： 演習Ⅲより引き続き研究を進め、特定課題研究報告書又は修士論文を完成させる。具体的には、推定式の定式化、推定と検定、結果、完成論文、について進捗状況をまとめ報告する。特定課題研究報告書又は修士論文を完成させ、2月の口頭試問に備える。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 推定式の定式化 留 意 事 項： 検定すべき仮説やデータの傾向にもとづき、推定式を定式化する。 枚 数： 提 出 期 限： 10月中旬 </div> <div> 第2回 課 題： 推定と検定 留 意 事 項： 推定を行い、仮説が支持されるかどうか検定を行う。 枚 数： 提 出 期 限： 11月中旬 </div> <div> 第3回 課 題： 結果のまとめ 留 意 事 項： 得られた結果を解釈し、論文にまとめる。 枚 数： 提 出 期 限： 12月中旬 </div> <div> 第4回 課 題： 特定課題研究報告書又は修士論文の完成 留 意 事 項： 特定課題研究報告書又は修士論文を完成させ、2月の口頭試問に備える。 枚 数： 提 出 期 限： 1月上旬 </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 10月の中間報告会、2月の口頭試問により代替。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： レポート（80%）、中間報告会・口頭試問（20%） |
| 教 材 な ど | ： 受講生と相談のうえ提示する。 |
| 備 考 | ： 受講に際しては、詳細に指示する。また、受講生の状況などにより、一部内容を変更することがある。 |

■ EC120

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅰ（証券投資論） |
| 担 当 者 | ： 西村 佳子 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 受講生の研究テーマに関する文献を用いて、研究を進めるために必要な基礎的な知識を習得する。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生の興味に沿った基礎的な文献や論文を読み、可能な場合には、計算や実証分析を行い分析手法を身につけるとともに市場の仕組みについての理解を深める。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 貨幣と金融 日本の金融システム </div> <div> 留 意 事 項： テキストの練習問題に加えて必要に応じてプリント課題を用いる。 </div> <div> 枚 数： ー </div> <div> 提 出 期 限： 5 月末 </div> <div> 第2回 課 題： 金融機関の機能と証券化 </div> <div> 留 意 事 項： テキストの練習問題に加えて必要に応じてプリント課題を用いる。 </div> <div> 枚 数： ー </div> <div> 提 出 期 限： 6 月末 </div> <div> 第3回 課 題： 金融市場 </div> <div> 留 意 事 項： テキストの練習問題に加えて必要に応じてプリント課題を用いる。 </div> <div> 枚 数： ー </div> <div> 提 出 期 限： 7 月末 </div> <div> 第4回 課 題： 利子率と資産価格 </div> <div> 留 意 事 項： テキストの練習問題に加えて必要に応じてプリント課題を用いる。 </div> <div> 枚 数： ー </div> <div> 提 出 期 限： 8 月末 </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 9 月に6時限分のスクーリングを行う。内容は別途指示する。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： 提出された課題やファイルで評価を行う。 |
| 教 材 な ど | ： 晝間文彦（2011）、「基礎コース金融論」、新世社などのテキストおよびプリント教材を使用 |
| 備 考 | ： |

■ EC121

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅱ（証券投資論） |
| 担 当 者 | ： 西村 佳子 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 受講生の研究テーマに関する文献を用いて、研究を進めるために必要な基礎的な知識を習得する。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生の研究テーマに関する基礎的な文献を読み進める。受講生は、文献で学んだ基礎的な知識をまとめて報告し、自身の研究テーマ・分析方法について考察を深める。演習の終了までに特定課題研究報告書又は修士論文作成を念頭においた「研究計画」のレポートを提出する。レポートをもとに、スクーリングで議論を行う。 |
| 授 業 計 画 | <div> <div>第1回</div> <div>課 題</div> <div>金融派生商品</div> <div>留 意 事 項</div> <div>テキストの練習問題に加えて必要に応じてプリント課題を用いる。</div> <div>枚 数</div> <div>－</div> <div>提 出 期 限</div> <div>11 月中旬</div> </div> <div> <div>第2回</div> <div>課 題</div> <div>家計の金融行動</div> <div>留 意 事 項</div> <div>テキストの練習問題に加えて必要に応じてプリント課題を用いる。</div> <div>枚 数</div> <div>－</div> <div>提 出 期 限</div> <div>12 月中旬</div> </div> <div> <div>第3回</div> <div>課 題</div> <div>企業の金融行動</div> <div>留 意 事 項</div> <div>テキストの練習問題に加えて必要に応じてプリント課題を用いる。</div> <div>枚 数</div> <div>－</div> <div>提 出 期 限</div> <div>1 月中旬</div> </div> <div> <div>第4回</div> <div>課 題</div> <div>金融政策 決済システムと信用秩序の維持</div> <div>留 意 事 項</div> <div>テキストの練習問題に加えて必要に応じてプリント課題を用いる。</div> <div>枚 数</div> <div>－</div> <div>提 出 期 限</div> <div>2 月中旬</div> </div> <div> <div>ス ク ー リ ン グ</div> <div>特定課題研究報告書又は修士論文に向けたレポートについて報告</div> </div> |
| 評価方法・基準 | ： 提出された課題やファイルで評価を行う。 |
| 教 材 な ど | ： 晝間文彦（2011）、「基礎コース金融論」、新世社などのテキストおよびプリント教材を使用 |
| 備 考 | ： 教材は受講者の学習歴や研究テーマによって変更を行う。 |

■ EC122

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅲ（証券投資論） |
| 担 当 者 | ： 西村 佳子 |
| 配 当 年 次 | ： 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 受講生の研究テーマに関する文献を用いて、研究を進めるために必要な知識と分析手法を習得する。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生が準備中の特定課題研究報告書又は修士論文に関する検討と修正を積み重ねる。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第 1 回 課 題 ： 既存研究に関する報告 1 </div> <div> 留意事項 ： 研究テーマに関する既存の論文を読んで内容を報告 </div> <div> 枚 数 ： ー </div> <div> 提出期限 ： 5 月末 </div> <div> 第 2 回 課 題 ： 既存研究に関する報告 2 </div> <div> 留意事項 ： 研究テーマに関する既存の論文を読んで内容を報告 </div> <div> 枚 数 ： ー </div> <div> 提出期限 ： 6 月末 </div> <div> 第 3 回 課 題 ： 研究テーマに関する問題意識や分析手法、基本的な分析結果などを報告 1 </div> <div> 留意事項 ： 分析手法などのスキルが足りない場合はそれを中心に学習・報告を行うこと </div> <div> 枚 数 ： ー </div> <div> 提出期限 ： 7 月末 </div> <div> 第 4 回 課 題 ： 分析手法、基本的な分析結果などを報告 2 </div> <div> 留意事項 ： </div> <div> 枚 数 ： ー </div> <div> 提出期限 ： 8 月末 </div> <div> スクーリング ： 9 月に 6 時限分のスクーリングを行う 内容は別途指示する。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： 提出された課題やファイルで評価を行う。 |
| 教 材 な ど | ： 研究テーマに応じた論文や文献など |
| 備 考 | ： |

■ EC123

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | : | 財政・金融特論演習Ⅳ（証券投資論） |
| 担 当 者 | : | 西村 佳子 |
| 配 当 年 次 | : | 2 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | 証券市場についてテーマを定めて実証分析などを行い特定課題研究報告書又は修士論文をまとめる。 |
| 授業内容・方法 | : | 受講生の研究テーマに沿って必要な文献を読み、執筆中の特定課題研究報告書又は修士論文についての検討を積み重ねる。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第1回 課 題 : 特定課題研究報告書又は修士論文に関する報告 1 留 意 事 項 : 枚 数 : ー 提 出 期 限 : 10 月中旬 </div> <div> 第2回 課 題 : 特定課題研究報告書又は修士論文に関する報告 2 留 意 事 項 : 枚 数 : ー 提 出 期 限 : 11 月中旬 </div> <div> 第3回 課 題 : 特定課題研究報告書又は修士論文に関する報告 3 留 意 事 項 : 枚 数 : ー 提 出 期 限 : 12 月中旬 </div> <div> 第4回 課 題 : 特定課題研究報告書又は修士論文に関する報告 4 留 意 事 項 : 枚 数 : ー 提 出 期 限 : 1 月初旬 </div> ス ク ー リ ン グ : 特定課題研究報告書又は修士論文の報告で代替する。 |
| 評価方法・基準 | : | 提出された特定課題研究報告書又は修士論文で評価を行う。 |
| 教 材 な ど | : | 研究テーマに応じた論文や文献など |
| 備 考 | : | |

■ EC128

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅰ（社会保障論） |
| 担 当 者 | ： 福井 唯嗣 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 受講生の研究テーマに関して、客観的な現状把握を行うとともに、研究における問題意識を醸成させる。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生の研究テーマに関して、各種資料の講読から研究対象となる制度に関する基礎的理解を進めさせるとともに、制度統計を用いて、研究対象となる制度がおかれた状況について客観的に把握させる。それにより、研究を進める上での問題意識の明確化を図る。 |
| 授 業 計 画 | <div> <div>第1回</div> <div>課 題</div> <div>： 研究対象となる制度に関する要約</div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・5 枚</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 5 月上旬</div> </div> <div> <div>第2回</div> <div>課 題</div> <div>： 第 1 回課題での指摘事項を踏まえたレポートの改訂および制度統計を活用した制度の現状把握</div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・10 枚</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 6 月上旬</div> </div> <div> <div>第3回</div> <div>課 題</div> <div>： 第 2 回課題での指摘事項を踏まえたレポートの改訂および問題意識に関するドキュメントの作成</div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・15 枚</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 7 月上旬</div> </div> <div> <div>第4回</div> <div>課 題</div> <div>： 現状分析・問題意識に関するレポートの完成</div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・20 枚</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 8 月上旬</div> </div> <div> <div>ス ク ー リ ン グ</div> <div>：</div> <div>相談の上、9月の連続2日間・6コマで実施。受講生は、演習Ⅰの成果を発表。</div> </div> |
| 評価方法・基準 | ： レポート(80%)、スクーリング(20%) |
| 教 材 な ど | ： 研究テーマに応じてその都度指定 |
| 備 考 | ： |

■ EC129

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅱ（社会保障論） |
| 担 当 者 | ： 福井 唯嗣 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 受講生の研究テーマに関連する先行研究について理解し、分析の進め方について具体的に検討させる。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生の研究テーマに関連する先行研究を紹介し、研究手法に関する理解を進めさせるとともに、特定課題研究報告書又は修士論文において使用する分析手法を選択するとともに、その手法についても習得させる。 |
| 授 業 計 画 | <div> <div>第1回</div> <div> <div>課 題</div> <div>： 関連する先行研究のサーベイ</div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・5 枚</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 11 月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第2回</div> <div> <div>課 題</div> <div>： 第 1 回課題での指摘事項を踏まえたレポートの改訂および分析で使用するデータの記述統計の整理</div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・10 枚</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 12 月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第3回</div> <div> <div>課 題</div> <div>： 第 2 回課題での指摘事項を踏まえたレポートの改訂および分析手法に関するドキュメントの作成</div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・15 枚</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 1 月上旬</div> </div> </div> <div> <div>第4回</div> <div> <div>課 題</div> <div>： 先行研究サーベイおよび研究方法に関するレポートの完成</div> <div>留 意 事 項</div> <div>：</div> <div>枚 数</div> <div>： A4・20 枚</div> <div>提 出 期 限</div> <div>： 2 月上旬</div> </div> </div> <div> <div>ス ク ー リ ン グ</div> <div>： 相談の上、2 月の 2 日間・6 コマで実施。受講生は、演習Ⅱの成果を発表。</div> </div> |
| 評価方法・基準 | ： レポート(80%)、スクーリング(20%) |
| 教 材 な ど | ： 研究テーマに応じてその都度指定 |
| 備 考 | ： |

■ EC130

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅲ（社会保障論） |
| 担 当 者 | ： 福井 唯嗣 |
| 配 当 年 次 | ： 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 中間報告を目途に、特定課題研究報告書又は修士論文の主要な部分について完成させる。 |
| 授業内容・方法 | ： 演習Ⅱまでに選定した分析手法をもとに分析を行い、分析結果をまとめるとともに、分析結果から導かれる政策的含意について明らかにする。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 分析結果の要約 留 意 事 項： 枚 数： A4・20 枚 提 出 期 限： 5 月上旬 </div> <div> 第2回 課 題： 第1回課題での指摘事項を踏まえたレポートの改訂 留 意 事 項： 枚 数： A4・25 枚 提 出 期 限： 6 月上旬 </div> <div> 第3回 課 題： 第2回課題での指摘事項を踏まえたレポートの改訂および政策的含意に関するドキュメントの作成 留 意 事 項： 枚 数： A4・30 枚 提 出 期 限： 7 月上旬 </div> <div> 第4回 課 題： 分析結果および政策的含意に関するレポートの完成 留 意 事 項： 枚 数： A4・40 枚 提 出 期 限： 8 月上旬 </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 相談の上、9 月の連続 2 日間・6 コマで実施。受講生は、演習Ⅲの成果を発表。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： レポート(80%)、スクーリング(20%) |
| 教 材 な ど | ： 研究テーマに応じてその都度指定 |
| 備 考 | ： |

■ EC131

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 財政・金融特論演習Ⅳ（社会保障論） |
| 担 当 者 | ： 福井 唯嗣 |
| 配 当 年 次 | ： 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 中間報告会で受けたコメントへの対応、レポート全体の構成を考えた内容の充実や、論点を明確にするための内容の取捨選択など、最終的な修正をすすめる、特定課題研究報告書又は修士論文を完成させる。 |
| 授業内容・方法 | ： 中間報告会で受けたコメントを踏まえレポートの改訂を進める。 |
| 授 業 計 画 | 第 1 回 課 題 ： 中間報告会で受けたコメントを踏まえたレポートの改訂および序論結論のドキュメント化 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・90 枚 提 出 期 限 ： 10 月中旬 第 2 回 課 題 ： 第 1 回課題での指摘事項を踏まえたレポートの改訂 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・90 枚 提 出 期 限 ： 11 月中旬 第 3 回 課 題 ： 第 2 回課題での指摘事項を踏まえたレポートの改訂 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・90 枚 提 出 期 限 ： 12 月中旬 第 4 回 課 題 ： 特定課題研究報告書又は修士論文 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・90 枚 提 出 期 限 ： 1 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： 10 月の中間報告・2 月の口述試問により代替。 |
| 評価方法・基準 | ： レポート(80%)、中間報告・口述試問(20%) |
| 教 材 な ど | ： 研究テーマに応じてその都度指定 |
| 備 考 | ： |

■ EC132

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 国際経済特論演習Ⅰ（国際経済論） |
| 担 当 者 | ： 大川 良文 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 受講生の研究課題に関連する国際貿易や国際投資の基本文献を読んでいくことを通じて、研究課題に関する分析手法に対する理解を深める。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生は、基礎文献に関する報告とスクーリングにおける議論を通じて、研究目的の明確化と研究テーマの絞り込みを行っていく。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 研究テーマに関する問題意識についての報告 留 意 事 項： 受講生の報告を基に、受講生と相談の上、以後用いる基本文献を決めていく。 枚 数： A4 数枚程度 提 出 期 限： 4 月下旬 </div> <div> 第2回 課 題： 基礎文献の報告（1） 留 意 事 項： 枚 数： A4 数枚程度 提 出 期 限： 6 月上旬 </div> <div> 第3回 課 題： 基礎文献の報告（2） 留 意 事 項： 枚 数： A4 数枚程度 提 出 期 限： 7 月上旬 </div> <div> 第4回 課 題： 基礎文献のまとめとスクーリングの準備 留 意 事 項： 枚 数： A4 数枚程度 提 出 期 限： 8 月上旬 </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 受講生と相談の上、9 月に実施、演習Ⅱ以降の研究計画に関する報告を行ってもらう。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： 報告（80％） スクーリング（20％） |
| 教 材 な ど | ： 第1回の受講生の報告を基に、受講生と相談の上適切な文献を提供する。 |
| 備 考 | ： |

■ EC133

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 国際経済特論演習Ⅱ（国際経済論） |
| 担 当 者 | ： 大川 良文 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 演習Ⅰにおいて絞り込まれた研究テーマに沿って、先行研究のサーベイを行い、特定課題研究報告書または修士論文の研究計画書を作成する。 |
| 授業内容・方法 | ： 受講生は、先行研究のサーベイを通じて、研究テーマに関する理論モデル・実証研究の研究結果、未解明である課題について整理していき、自らの特定課題研究報告書または修士論文の研究構想を深めていく。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課題 ： 先行研究のサーベイに関する報告（1） 留意事項 ： 枚数 ： A4 5～10 枚程度 提出期限 ： 10 月下旬 </div> <div> 第2回 課題 ： 先行研究のサーベイに関する報告（2） 留意事項 ： 枚数 ： A4 5～10 枚程度 提出期限 ： 11 月下旬 </div> <div> 第3回 課題 ： 先行研究のサーベイに関する報告（3） 留意事項 ： 枚数 ： A4 5～10 枚程度 提出期限 ： 12 月下旬 </div> <div> 第4回 課題 ： サーベイのまとめとスクーリングの準備 留意事項 ： 枚数 ： A4 5～10 枚程度 提出期限 ： 1 月下旬 </div> スクーリング ： 受講生と相談の上、2月に実施、特定課題研究報告書または修士論文の研究計画書に関して報告を行う。 |
| 評価方法・基準 | ： 報告（80％） スクーリング（20％） |
| 教 材 な ど | ： 受講生の研究テーマに応じて適切な文献を提供する。ただし、受講生は受け身になることなく、自身で研究に関連する文献を積極的に探していくことが必要とされる。 |
| 備 考 | ： |

■ EC134

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | 国際経済特論演習Ⅲ（国際経済論） |
| 担 当 者 | 大川 良文 |
| 配 当 年 次 | 2年 |
| 週 時 間 数 | 2 |
| 単 位 数 | 2 |
| 開 講 期 間 | 春学期 |
| 授 業 目 標 | 演習Ⅱにおいて作成した研究計画書に従い、特定課題研究報告書または修士論文の作成を進めていく。 |
| 授業内容・方法 | 特定課題研究報告書または修士論文の中核となる独自の理論分析あるいは実証分析に関する報告を通じて、10月下旬に行われる中間報告会に向けた準備を行っていく。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 特定課題研究報告書または修士論文に関する研究報告（1） 留 意 事 項： 枚 数： A4 数枚程度 提 出 期 限： 5月上旬 </div> <div> 第2回 課 題： 特定課題研究報告書または修士論文に関する研究報告（2） 留 意 事 項： 枚 数： A4 数枚程度 提 出 期 限： 6月上旬 </div> <div> 第3回 課 題： 特定課題研究報告書または修士論文に関する研究報告（3） 留 意 事 項： 枚 数： A4 数枚程度 提 出 期 限： 7月下旬 </div> <div> 第4回 課 題： 研究のまとめとスクーリングの準備 留 意 事 項： 枚 数： A4 数枚程度 提 出 期 限： 8月下旬 </div> ス ク ー リ ン グ ： 受講生と相談の上、9月に実施、特定課題研究報告書または修士論文の中間報告書をまとめる。 |
| 評価方法・基準 | 報告（80%） スクーリング（20%） |
| 教 材 な ど | 受講生の研究テーマに応じて適切な文献を提供する。ただし、受講生は受け身になることなく、自身で研究に関連する文献を積極的に探していくことが必要とされる。 |
| 備 考 | |

■ EC135

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 国際経済特論演習Ⅳ（国際経済論） |
| 担 当 者 | ： 大川 良文 |
| 配 当 年 次 | ： 2年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 特定課題研究報告書または修士論文を完成する。 |
| 授業内容・方法 | ： 中間報告会でのコメントに対応した上で、特定課題研究報告書又は修士論文の原稿作成に着手し、完成させる。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 中間報告会でのコメントへの対応、および特定課題研究報告書または修士論文の目次の作成 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4 数枚程度 提 出 期 限 ： 11月上旬 第2回 課 題 ： 特定課題研究報告書または修士論文の原稿作成（1） 留 意 事 項 ： 特定課題研究報告書または修士論文の仮原稿を作成する。 枚 数 ： A4 30～40枚程度 提 出 期 限 ： 12月上旬 第3回 課 題 ： 特定課題研究報告書または修士論文の原稿作成（2） 留 意 事 項 ： 第2回課題での指摘に従って論文の原稿を改善する。 枚 数 ： A4 30～40枚程度 提 出 期 限 ： 1月上旬 第4回 課 題 ： 特定課題研究報告書または修士論文の完成 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4 30～40枚程度 提 出 期 限 ： 1月下旬 ス ク ー リ ン グ ： 10月に行われる中間報告会と、2月に行われる口述試問により代替する。 |
| 評価方法・基準 | ： 特定課題研究報告書または修士論文により評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 受講生の研究テーマに応じて適切な文献を提供する。 |
| 備 考 | ： |

■ EC140

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 国際経済特論演習 I（経済体制論） |
| 担 当 者 | ： 後藤 富士男 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 経済体制の基礎研究 経済体制をわかりやすい言葉で表現すれば、「国民経済の仕組み」とでも言い表すことができよう。かつての東西冷戦時代には、比較経済体制論の名称で開講され、資本主義国家と共産主義国家で国民経済の仕組みがどのように異なるかが論じられた。しかしこの対立構造が崩壊したこんにちでは、経済体制論が取り扱う学問領域は多様化している。たとえば、中国やロシアといった旧共産主義国家の資本主義への移行過程、統一ドイツの経済再建、さらにはいまだ冷戦構造が残存する朝鮮半島に関する研究なども、その対象領域になっている。また、単に経済体制そのものを対象とするのではなく、一国の経済開発にとって経済体制がどのような機能を果たすかといった視点からの研究もなされている。 そこで、この授業ではまず受講生の問題意識を確認し、今後どのように研究を遂行するかについて打ち合わせ、講読していく文献を決定する。特に基礎的な文献を重視し、本格的な研究に入る前の基礎知識の習得に力点を置く。 |
| 授業内容・方法 | ： 講読文献を読んでレポートを提出してもらい、それについて質疑応答ならびにコメントする。メールのやり取りで不足する箇所については、スクーリングで補足する。 |
| 授 業 計 画 | ： 第1回 課 題 ： 受講生と相談の上、決定する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・3～4 枚 提 出 期 限 ： 6 月上旬 第2回 課 題 ： 受講生と相談の上、決定する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・3～4 枚 提 出 期 限 ： 7 月上旬 第3回 課 題 ： 受講生と相談の上、決定する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・3～4 枚 提 出 期 限 ： 8 月上旬 第4回 課 題 ： 受講生と相談の上、決定する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・3～4 枚 提 出 期 限 ： 9 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： 相談の上、9 月の連続 2 日間・6 コマで実施する。受講生は、演習 I の成果を発表する。 |
| 評価方法・基準 | ： 提出されたレポートと質疑応答によって評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 受講生と相談の上、決定する。 |
| 備 考 | ： |

■ EC141

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 国際経済特論演習Ⅱ（経済体制論） |
| 担 当 者 | ： 後藤 富士男 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 経済体制に関する先行研究の調査 受講生が選択した研究テーマに関連した先行研究の調査とそれらの文献の講読を行う。 特にこの演習では、理論面の補強を重視し、独自研究の土台となる部分を構築していく。 |
| 授業内容・方法 | ： 講読文献を読んでレポートを提出してもらい、それについて質疑応答ならびにコメントする。メールのやり取りで不足する箇所については、スクーリングで補足する。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 受講生と相談の上、決定する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・3～4 枚 提 出 期 限 ： 11 月上旬 第2回 課 題 ： 受講生と相談の上、決定する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・3～4 枚 提 出 期 限 ： 12 月上旬 第3回 課 題 ： 受講生と相談の上、決定する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・3～4 枚 提 出 期 限 ： 1 月上旬 第4回 課 題 ： 受講生と相談の上、決定する。 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・3～4 枚 提 出 期 限 ： 2 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： 相談の上、1～2 月の連続 2 日間・6 コマで実施する。受講生は、演習Ⅱの成果を発表する。 |
| 評価方法・基準 | ： 提出されたレポートと質疑応答によって評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 受講生と相談の上、決定する。 |
| 備 考 | ： |

■ EC142

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | 国際経済特論演習Ⅲ（経済体制論） |
| 担 当 者 | 後藤 富士男 |
| 配 当 年 次 | 2 年 |
| 週 時 間 数 | 2 |
| 単 位 数 | 2 |
| 開 講 期 間 | 春学期 |
| 授 業 目 標 | 独自研究のアウトラインの決定。 この授業では、引き続き先行研究に関する文献の講読を継続する一方、受講生の独自研究に不可欠な文献の講読とデータの収集、加工を行う。そして、秋の中間発表に向けて、特定課題研究報告書又は修士論文のアウトラインを決定し、研究の方向性を確定していく。 |
| 授業内容・方法 | 講読文献を読んで特定課題研究報告書又は修士論文の準備レポートを提出してもらい、それについて質疑応答ならびにコメントする。メールのやり取りで不足する箇所については、スクーリングで補足する。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 : 受講生と相談の上、決定する。 留 意 事 項 : 枚 数 : 提 出 期 限 : 6 月上旬 第2回 課 題 : 受講生と相談の上、決定する。 留 意 事 項 : 枚 数 : 提 出 期 限 : 7 月上旬 第3回 課 題 : 受講生と相談の上、決定する。 留 意 事 項 : 枚 数 : 提 出 期 限 : 8 月上旬 第4回 課 題 : 受講生と相談の上、決定する。 留 意 事 項 : 枚 数 : 提 出 期 限 : 9 月上旬 ス ク ー リ ン グ : 相談の上、9 月の連続 2 日間・6 コマで実施する。受講生は、演習Ⅲの成果を発表する。 |
| 評価方法・基準 | 提出されたレポートと質疑応答によって評価する。 |
| 教 材 な ど | 受講生と相談の上、決定する。 |
| 備 考 | |

■ EC143

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | : | 国際経済特論演習Ⅳ（経済体制論） |
| 担 当 者 | : | 後藤 富士男 |
| 配 当 年 次 | : | 2 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | 特定課題研究報告書又は修士論文の完成。この授業では、これまで行ってきた調査研究を完成する。 |
| 授業内容・方法 | : | これまでの調査研究を総括する特定課題研究報告書又は修士論文の作成を行う。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第1回 課題 : 特定課題研究報告書又は修士論文の作成 留意事項 : 枚数 : 提出期限 : 適時 </div> <div> 第2回 課題 : 特定課題研究報告書又は修士論文の作成 留意事項 : 枚数 : 提出期限 : 適時 </div> <div> 第3回 課題 : 特定課題研究報告書又は修士論文の作成 留意事項 : 枚数 : 提出期限 : 適時 </div> <div> 第4回 課題 : 特定課題研究報告書又は修士論文の完成 留意事項 : 枚数 : 提出期限 : 締切日 </div> スクーリング : 10月に中間報告会、2月に特定課題研究報告書又は修士論文に関する口述試問を実施する。 |
| 評価方法・基準 | : | 中間報告会の状況、提出された特定課題研究報告書又は修士論文、口述試問の状況によって総合的に評価する。 |
| 教材など | : | 受講生と相談の上、決定する。 |
| 備 考 | : | |

■ EC144

| | | |
|---------|---|---|
| 科 目 名 | ： | 国際経済特論演習Ⅰ（開発経済学） |
| 担 当 者 | ： | 大坂 仁 |
| 配 当 年 次 | ： | 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： | 2 |
| 単 位 数 | ： | 2 |
| 開 講 期 間 | ： | 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： | 特定課題研究報告書又は修士論文のテーマを設定する。 |
| 授業内容・方法 | ： | 研究計画書にもとづき研究テーマを設定するが、開発経済学の基本的知識・理論についても学習していく。 |
| 授 業 計 画 | ： | <div> 第1回 課 題： 途上国経済の概観 留 意 事 項： 枚 数： A4・4～5 枚 提 出 期 限： 5 月上旬 </div> <div> 第2回 課 題： 人口および貧困問題 留 意 事 項： 枚 数： A4・4～5 枚 提 出 期 限： 6 月上旬 </div> <div> 第3回 課 題： 農業開発 留 意 事 項： 枚 数： A4・4～5 枚 提 出 期 限： 7 月上旬 </div> <div> 第4回 課 題： 工業化と開発政策 留 意 事 項： 枚 数： A4・4～5 枚 提 出 期 限： 8 月上旬 </div> ス ク ー リ ン グ ： 学習報告と議論（7 月～9 月に実施予定） |
| 評価方法・基準 | ： | 提出レポートとスクーリングにより評価する。 |
| 教 材 な ど | ： | 授業開始後に指定する。 |
| 備 考 | ： | |

■ EC145

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 国際経済特論演習Ⅱ（開発経済学） |
| 担 当 者 | ： 大坂 仁 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文のテーマを設定し、また基本的な計量分析手法を理解する。 |
| 授業内容・方法 | ： 途上国の経済・社会データを分析していく上で必要な計量分析手法の基本的知識・理論について学習していく。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 途上国の統計データ 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・3～4 枚 提 出 期 限 ： 11 月上旬 第2回 課 題 ： 回帰分析の基礎 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・3～5 枚 提 出 期 限 ： 12 月上旬 第3回 課 題 ： 最小2乗法 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5～7 枚 提 出 期 限 ： 1 月上旬 第4回 課 題 ： クロスセクション分析 留 意 事 項 ： 枚 数 ： A4・5～7 枚 提 出 期 限 ： 2 月上旬 ス ク ー リ ン グ ： 学習報告と議論（12 月または1 月に実施予定） |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポートとスクーリングにより評価する。 |
| 教 材 な ど | ： Wooldridge, Jeffrey M. (2013), <i>Introductory Econometrics (5th ed.)</i> , Mason, OH: South-Western Cengage Learning、または他の同レベルの参考書。 |
| 備 考 | ： |

■ EC146

| | | |
|---------|---|---|
| 科 目 名 | ： | 国際経済特論演習Ⅲ（開発経済学） |
| 担 当 者 | ： | 大坂 仁 |
| 配 当 年 次 | ： | 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： | 2 |
| 単 位 数 | ： | 2 |
| 開 講 期 間 | ： | 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： | 設定したテーマに沿って特定課題研究報告書又は修士論文の研究を進めていく。 |
| 授業内容・方法 | ： | 特定課題研究報告書又は修士論文のテーマに関連する先行研究および分析手法について研究を進める。 |
| 授 業 計 画 | ： | <div> 第1回 課題 ： 先行研究および関連資料のサーベイ（1） </div> <div> 留意事項 ： </div> <div> 枚 数 ： A4・4～5 枚 </div> <div> 提出期限 ： 5 月上旬 </div> <div> 第2回 課題 ： 先行研究および関連資料のサーベイ（2） </div> <div> 留意事項 ： </div> <div> 枚 数 ： A4・9～10 枚 </div> <div> 提出期限 ： 6 月上旬 </div> <div> 第3回 課題 ： 関連データの収集と分析手法の習得（1） </div> <div> 留意事項 ： </div> <div> 枚 数 ： A4・4～5 枚 </div> <div> 提出期限 ： 7 月上旬 </div> <div> 第4回 課題 ： 関連データの収集と分析手法の習得（2） </div> <div> 留意事項 ： </div> <div> 枚 数 ： A4・9～10 枚 </div> <div> 提出期限 ： 8 月上旬 </div> <div> スクーリング ： 学習報告と議論（7月～9月に実施予定） </div> |
| 評価方法・基準 | ： | 提出レポートとスクーリングにより評価する。 |
| 教 材 な ど | ： | 授業開始後に指定する。 |
| 備 考 | ： | |

■ EC147

| | | |
|---------|---|--|
| 科 目 名 | : | 国際経済特論演習Ⅳ（開発経済学） |
| 担 当 者 | : | 大坂 仁 |
| 配 当 年 次 | : | 2 年 |
| 週 時 間 数 | : | 2 |
| 単 位 数 | : | 2 |
| 開 講 期 間 | : | 秋学期 |
| 授 業 目 標 | : | 特定課題研究報告書又は修士論文を作成・提出する。 |
| 授業内容・方法 | : | 特定課題研究報告書又は修士論文の内容について検討や議論を重ね完成させていく。 |
| 授 業 計 画 | : | <div> 第 1 回 課題 : 特定課題研究報告書又は修士論文の作成（1） </div> <div> 留意事項 : 先行研究サーベイ、分析手法を確定する。 </div> <div> 枚 数 : A4・20～30 枚程度 </div> <div> 提出期限 : 10 月中旬 </div> <div> 第 2 回 課題 : 特定課題研究報告書又は修士論文の作成（2） </div> <div> 留意事項 : ドラフト（草稿）を作成する。 </div> <div> 枚 数 : A4・30～50 枚 </div> <div> 提出期限 : 11 月下旬 </div> <div> 第 3 回 課題 : 特定課題研究報告書又は修士論文の修正と完成 </div> <div> 留意事項 : </div> <div> 枚 数 : A4・50 枚程度 </div> <div> 提出期限 : 12 月中旬 </div> <div> 第 4 回 課題 : 特定課題研究報告書又は修士論文の提出 </div> <div> 留意事項 : </div> <div> 枚 数 : A4・50 枚程度 </div> <div> 提出期限 : 1 月上旬 </div> <div> ス ク ー リ ン グ : 中間報告（10 月に実施予定）と口述試問により代替する。 </div> |
| 評価方法・基準 | : | 提出した特定課題研究報告書又は修士論文について総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | : | 授業開始後に指定する。 |
| 備 考 | : | |

■ EC148

| | |
|-------------|---|
| 科 目 名 | : 国際経済特論演習 I (中国経済論) |
| 担 当 者 | : 岑 智偉 |
| 配 当 年 次 | : 1 年 |
| 週 時 間 数 | : 2 |
| 単 位 数 | : 2 |
| 開 講 期 間 | : 春学期 |
| 授 業 目 標 | : 中国経済に関する最新の論文を輪読し、中国経済の特徴と問題点をまとめることを目的とする。 |
| 授業内容・方法 | : 以下のサイトより掲載論文を選別し輪読を行う。中国経済の特徴と問題点について理解を深めていくため、輪読の論文についてレポートを提出し、スクーリングの際に、それらを前提に応答質疑と議論を行う。 |
| 授 業 計 画 | : 以下の URL から該当の論文（自由選択）を選出し課題に従いレポートをまとめる。 http://www.rieti.go.jp/users/china-tr/jp/mokuzi.htm |
| 第 1 回 課 題 | : 「中国の経済改革」についての論文 |
| 留 意 事 項 | : 課題の説明とレポートの提出は以下の大学の学習支援システム moodle で行う。 https://cclms.kyoto-su.ac.jp/ |
| 枚 数 | : A4・3 枚程度 |
| 提 出 期 限 | : 5 月下旬 |
| 第 2 回 課 題 | : 「中国経済学」についての論文 |
| 留 意 事 項 | : 同上 |
| 枚 数 | : A4・3 枚程度 |
| 提 出 期 限 | : 6 月下旬 |
| 第 3 回 課 題 | : 「中国の産業と企業」についての論文 |
| 留 意 事 項 | : 同上 |
| 枚 数 | : A4・3 枚程度 |
| 提 出 期 限 | : 7 月下旬 |
| 第 4 回 課 題 | : 「世界の中の中国」または「日中経済」についての論文 |
| 留 意 事 項 | : 同上 |
| 枚 数 | : A4・3 枚程度 |
| 提 出 期 限 | : 8 月下旬 |
| ス ク ー リ ン グ | : 受講生と相談の上、8 月の 2 日間・6 コマで実施する。 |
| 評価方法・基準 | : 提出レポート(90%)、発表および授業での質疑応答(10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | : URL: 「中国経済新論」 (http://www.rieti.go.jp/users/china-tr/jp/index.htm) |
| 備 考 | : 受講生の研究状況により、若干、変更することがあります。 |

■ EC149

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 国際経済特論演習Ⅱ（中国経済論） |
| 担 当 者 | ： 岑 智偉 |
| 配 当 年 次 | ： 1 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 中国経済における不平等・所得格差問題を理解すること。 |
| 授業内容・方法 | ： 以下の教科書を用いて、中国の不平等・所得格差問題を理解し、それについてのレポートを提出して頂く。スクーリングの際に、それらを前提に応答質疑と議論を行う。 |
| 授 業 計 画 | 第1回 課 題 ： 中国の所得格差（トピック：失業と所得格差、市場化改革と所得格差など） 留 意 事 項 ： 課題の説明とレポートの提出は以下の大学の学習支援システムmoodleで行う。 https://cclms.kyoto-su.ac.jp/ 枚 数 ： A4・3枚程度 提 出 期 限 ： 10月下旬 第2回 課 題 ： 中国の不平等（1）（トピック：都市・農村の分離、雇用差別と所得不平等） 留 意 事 項 ： 同上 枚 数 ： A4・3枚程度 提 出 期 限 ： 11月下旬 第3回 課 題 ： 中国の不平等（2）（トピック：住居格差、学歴の差、社会の階級・階層化と所得不平等） 留 意 事 項 ： 同上 枚 数 ： A4・3枚程度 提 出 期 限 ： 12月下旬 第4回 課 題 ： 深圳のケーススタディ（トピック：教育不平等などによる所得不平等） 留 意 事 項 ： 同上 枚 数 ： A4・3枚程度 提 出 期 限 ： 1月下旬 ス ク ー リ ン グ ： 受講生と相談の上、2月の2日間・6コマで実施する。 |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポート(90%)、発表および授業での質疑応答(10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | ： 薛進軍・荒山祐行・園田正編著『中国の不平等』（日本評論社、2008） |
| 備 考 | ： 受講生の研究状況により、若干、変更することがあります。 |

■ EC150

| | |
|---------|--|
| 科 目 名 | ： 国際経済特論演習Ⅲ（中国経済論） |
| 担 当 者 | ： 岑 智偉 |
| 配 当 年 次 | ： 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 春学期 |
| 授 業 目 標 | ： 中国経済の不平等・所得格差問題に関する特定課題研究報告書又は修士論文（あらましと構成）を完成する。 |
| 授業内容・方法 | ： 先行研究の輪読・発表を行い、その成果を「特定課題研究報告書又は修士論文のあらましと構成」（問題意識、構成と各節の内容についての簡単な説明）としてレポート提出する。スクーリングも実施する。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第1回 課 題： 受講生による先行研究の文献の講読・発表 留 意 事 項： 参考資料と提出は以下の大学の学習支援システム moodle で行う。 https://cclms.kyoto-su.ac.jp/ 枚 数： A4・3 枚程度 提 出 期 限： 5 月下旬 </div> <div> 第2回 課 題： 特定課題研究報告書又は修士論文のあらましと構成（計画）の作成 留 意 事 項： 同上 枚 数： A4・3 枚程度 提 出 期 限： 6 月下旬 </div> <div> 第3回 課 題： 文献・資料の検討・図表などの作成 留 意 事 項： 同上 枚 数： A4・3 枚程度 提 出 期 限： 7 月下旬 </div> <div> 第4回 課 題： 「特定課題研究報告書又は修士論文のあらましと構成」についてのレポート提出する 留 意 事 項： 同上 枚 数： A4・3 枚程度 提 出 期 限： 8 月下旬 </div> <div> ス ク ー リ ン グ： 受講生と相談の上、8 月の 2 日間・6 コマで実施する。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポート(90%)、発表および授業での質疑応答(10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | ： ・薛進軍・荒山祐行・園田正編著『中国の不平等』（日本評論社、2008） ・その他の参考文献 |
| 備 考 | ： 受講生の研究状況により、若干、変更することがあります。 |

■ EC151

| | |
|---------|---|
| 科 目 名 | ： 国際経済特論演習Ⅳ（中国経済論） |
| 担 当 者 | ： 岑 智偉 |
| 配 当 年 次 | ： 2 年 |
| 週 時 間 数 | ： 2 |
| 単 位 数 | ： 2 |
| 開 講 期 間 | ： 秋学期 |
| 授 業 目 標 | ： 中国経済の不平等・所得格差問題に関する特定課題研究報告書又は修士論文（完成原稿）を完成する。 |
| 授業内容・方法 | ： 特定課題研究報告書又は修士論文について、本文作成、脚注記入・参考文献一覧作成・要旨作成などを行い、完成原稿としての特定課題研究報告書又は修士論文を完成する。受講生と担当者との間で数回、原稿ベースに議論し、最終的な原稿の追加・削除・訂正を行う。なお、11 月に中間発表を、2 月に口頭試問が課せられる。 |
| 授 業 計 画 | <div> 第 1 回 課 題： 参考文献、要旨などを含め、本文を作成する。 留 意 事 項： 参考資料の掲載は以下の大学学習支援システム moodle で行う。https://cclms.kyoto-su.ac.jp/ 枚 数： A4・8 枚程度 提 出 期 限： 9 月下旬 </div> <div> 第 2 回 課 題： 担当者との質疑応答・指導により原稿の担当者が原稿を修正する。 留 意 事 項： 同上 枚 数： A4・10 枚程度 提 出 期 限： 10 月下旬 </div> <div> 第 3 回 課 題： 中間報告を行う。 留 意 事 項： 同上 枚 数： A4・15 枚程度 及び 中間報告用パワーポイント 提 出 期 限： 11 月上旬 </div> <div> 第 4 回 課 題： 中間報告で受けたコメントなどに基づき、更に原稿を修正し、完成原稿を提出する。 留 意 事 項： 同上 枚 数： A4・20 枚以上 提 出 期 限： 1 月 6 日まで ス ク ー リ ン グ： 11 月の中間報告、2 月の口頭試問により代替。 </div> |
| 評価方法・基準 | ： 提出レポート(90%)、発表および授業での質疑応答(10%)により総合的に評価する。 |
| 教 材 な ど | ： ・薛進軍・荒山祐行・園田正編著『中国の不平等』（日本評論社、2008） ・その他の参考文献 |
| 備 考 | ： 受講生の研究状況により、若干、変更することがあります。 |